

4
朝鮮統計時報

十二年五月二十日發行

第五號



통계청도서관
B0045794

朝鮮統計協會

249 (9월)
1936.5호

半島唯一の地方行政機關雜誌

創刊以來十有六年の衿るべき

歴史と傳統を有する本誌は

半島地方行政第一線人の同伴として

月刊

朝鮮地方行政

上意下達、下意暢達、指導教養に當り

朝鮮統治の伸展に寄與しつゝある

斯界最高の權威ある機關誌なり

〔定價三月分一圓十二錢〕

發行所

京城府黃金町二丁目六十九番地

朝鮮地方行政學會

電話本局一〇七〇番・振替東京二四七〇三番

N.5

テントは中西

京 城 驛 前

電 話 長 二 八 四 八 番

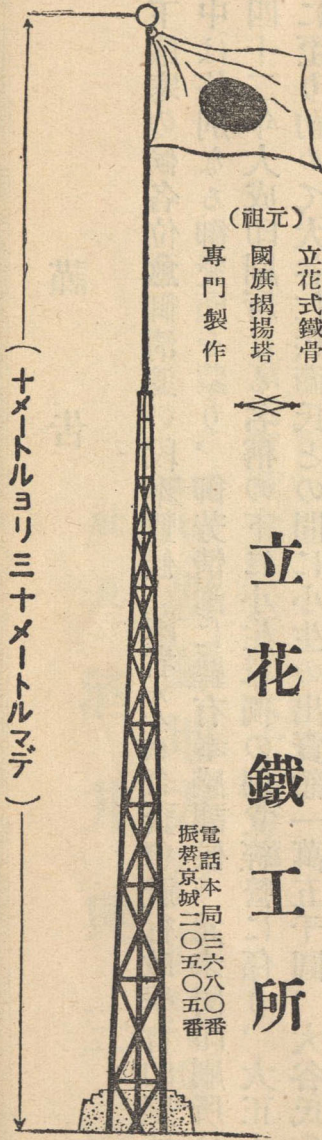
京 城 府 光 熙 町 壹 丁 目 一 四 五

(祖元)
立花式鐵骨
國旗掲揚塔
専門製作



立 花 鐵 工 所

電 話 本 局 三 六 八 〇 番
振 替 京 城 二 〇 五 〇 五 番



(十メートルヨリ三十メートルマデ)

B45794

謹告

時下嚴寒の候各位愈御清適の段奉賀候 陳者小生儀合資會社行政學會印刷所經營中は格別なる御愛顧を蒙り、御芳情洵に難有奉感謝候。元來同印刷所は明治四十二年大成印刷所なる名稱の下に小生單獨の創立經營に係り、大正十三年に至り初めて大谷仁兵衛氏との間に小生の出資額一萬五千圓、大谷氏の出資額五千圓の合資會社組織に變更するに共に、商號を行政學會印刷所と改稱し、更に昭和三年に至り資本金を四萬圓（出資額小生三萬圓大谷氏一萬圓）に増資致し小生は當初より同社の代表社員として其の經營の任に當り、業績も各位の御高庇に依り頗る良好に有之候處、這回大谷氏は突如として退社の申出と共に解散手續履行請求の訴を起し參り候に付、不得已一應之に應訴仕り候も、此上永く紛争を續くることは却て各位に御迷惑を及ぼす所以と存じ遂に大谷氏の申出に應じ會社の解散を斷行致候、其の結果法定清算人に於て同印刷所を競賣に附せられしを以て、小生としては極力之れが入手に相努め候得共、大谷氏側に於て意外なる糶上の舉に出でし爲、小生は乍遺憾之れを斷念致し、結局大谷氏側に競落せしむるに至りたる次第にて從來京城府南米

倉町一五九番地に於て營業罷在り候本會は昨年末京城府黃金町二丁目六十九番地に移轉仕り候尙本會印刷所は今般金拾五萬圓を投じ、京城府壽松町二十七番地鮮光印刷株式會社を買收すると共に、從來より一層内容を充實せしめ聊も各位の御期待に反かざらむことを期し申候間、何卒事情御洞察の上倍舊の御引立を賜り度候

就てはかねて朝鮮統計協會を通じ御用命賜はり候昭和十二年用統計報告用紙の印刷も右様な事情にて遂ひ遅延致し御迷惑を及ぼし候段重々御詫び申上候尙過日別便を以て御送附申置候間何卒貴着御查收被下度先は取急ぎ御挨拶旁御懇願迄如斯御座候

敬具

二月二十日

京城府黃金町二丁目六十九番地

株式會社

朝鮮地方行政學會

社長 酒井與三吉

朝鮮統計時報

第五號

目次

創刊第二年を迎へて

鈴木壽男 (1)

集團精神の發揚

松井春生 (2)

鮮滿一如

向井俊郎 (4)

年頭所感

横山雅男 (5)

支那馬車

善生永助 (6)

年頭雜感

二瓶士子治 (8)

統計雜感

小林春一郎 (9)

科學への期待

江上征史 (10)

統計を語る

竹森喜久馬 (12)

春芽の如く

李昌煥 (14)

統計の話 (四)

大内武次 (15)

財界昭和十二年年頭觀測

賀田直治 (24)

統計より見たる世相の動き

日野春吉 (28)

昭和十二年度直接稅負擔額

文書課 (32)

口繪 南總督閣下と題字

話の塵……………大養生 (46)

隨筆 朝鮮の牛雜感……………水城寅雄 (76)

雜筆

速記とは？ 倉元弘 (78)

南鮮紀行 木島貞夫 (30)

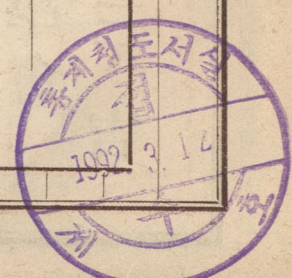
謙讓の徳 砂塔生 (32)

文心獸身 安元三郎 (33)

濁浪會雜吟…………… (84)

忙中閑記…………… (85)

昭和十一年報告例改正一覽 (54)



朝鮮統計の改善に就いて

李 心 助 (38)

報告例甲號改正の要點

文 書 課 (48)

統計時報

□朝鮮貿易概況……………(56)

□水産業者……………(62)

□桑 田……………(56)

□水害に依る土木被害……………(63)

□畜 牛……………(57)

□興 行……………(64)

□養 豚……………(58)

□保 險 事 業……………(64)

□内地人學齡兒童……………(59)

□内地の推計人口……………(65)

□圖 書 館……………(60)

□内地の人口動態……………(66)

□私 製 鹽……………(61)

職員會を督勵して

張 南 搏 (72)

希望を二つ三つ

孫 世 亨 (73)

我等の責任や重大なり

金 敬 崙 (73)

統計座談會を開いて

李 種 根 (74)

國家振興に寄與せん

朴 春 澤 (75)

第一回表彰
に選ばれたる

切 拔 帖

在滿支本邦人の人口——朝鮮神宮參拜

者——手形交換新記録——鮮内石炭消

費量——企業資本の激増——列國海軍

現有勢力——鮮米實收高——内地米實

收高——統計機關の活用

(68)

統計日誌……………(84)

原稿募集……………(85)

朝鮮統計協會役員名簿……………(86)

道府郡島統計主任名簿……………(86)

會則及諸規程……………(86)

協會雜記……………(90)

編輯後記……………(91)

會 告

會費に就いて

- 昭和十二年分會費(年額六十錢)未納の方は至急お納め下さい。
 - 地方委員を通じて入會せられた方の會費は當該地方委員(各道府郡島統計主任)に納めて下さい。
 - 其の他の會員で本會へ直接納めらるゝ場合は本會振替口座(京城二四四八八番)へ拂込んで下さい。
- 本會へ直接送金せらるゝ場合の送金料は凡べて送金者に於て負擔して下さい。

移轉通知に就いて

- 轉勤・住所移轉等に依り機關雜誌送付先を變更せられた方は至急御通知下さい。
- 地方委員を通じて入會せられた方は當該地方委員へ御申出で下さい。
 - 移轉通知には新舊兩方の勤務先又は住所を明瞭に記入して下さい。
 - 新勤務先又は住所は雜誌送付先を記入して下さい。

統計報告用紙

に就いて急告

今回納入の統計報告用紙は、當初申込書(印刷目録)の全表を印刷する筈でありましたが、都合に依り一部印刷を見合はせ納入目録の分のみ印刷しました。従つて御申込と納入と相異なる點がありますが、悪しからず御諒承願ひます。

尙次回はなるべく廣範圍に亘つて印刷し、御希望に副ひたいと考へております。



日進月歩

南題



南總督閣下と題字

創刊第二二年を迎へて

朝鮮統計協會
會長

鈴木壽男

皇紀二千五百九十七年の新春に際し、皇室の彌榮を壽ぎ奉り、邦家の隆昌を祈願し、併せて誌友會員各位の萬福を冀ふ。

物情騒然たる國際情勢の中に在つて、東亞の和平の重きを擔ふ帝國今後の使命は誠に重大である。日滿一體、鮮滿一如が帝國の使命を達成する上に於て最緊要の時務なることは、南總督閣下の極めて力強く提唱せられてゐる所であつて、我が朝鮮の前途は愈々多望多幸と云ふべきである。殊に最近に於ける普通教育の著しき普及と各種新資源の夥しき發見といふ人と物との兩面に於ける充實は、微動だにせざる完全なる治安の維持と相俟つて、朝鮮の地歩を促進し民衆の生活を向上せしむべき幾多の事業を勃興せしむるであらうが、事業計畫の根本資料が統計にあることは茲に云ふ迄もなく、統計の衝に當る者は、自己の任務の重大なるを省み、此際更に緊禪一番しなければならぬと思ふのである。

我が「朝鮮統計時報」は茲に創刊第二二年を迎へたが、誌齡未だ若く、振り返つて大いに誇るべき事歴を有するものではないが、前途は洋々として其の期する所は頗る大である。即ち今後益々内容を充實して、朝鮮統計界の爲貢獻する所あらんことを覺悟してゐる。誌友會員各位のひたすらなる御支持、御鞭韃をお願ひする次第である。

創刊第二一年を迎へて

朝鮮統計協會
會長

鈴川壽男

皇紀二千五百九十七年の新春に際し、皇室の彌榮を壽ぎ奉り、邦家の隆昌を祈願し、併せて誌友會員各位の萬福を冀ふ。

物情騒然たる國際情勢の中に在つて、東亞の和平の重きを擔ふ帝國今後の使命は誠に重大である。日滿一體、鮮滿一如が帝國の使命を達成する上に於て最緊要の時務なることは、南總督閣下の極めて力強く提唱せられてゐる所であつて、我が朝鮮の前途は愈々多望多幸と云ふべきである。殊に最近に於ける普通教育の著しき普及と各種新資源の夥しき發見といふ人と物との兩面に於ける充實は、微動だにせざる完全なる治安の維持と相俟つて、朝鮮の地歩を促進し民衆の生活を向上せしむべき幾多の事業を勃興せしむるであらうが、事業計畫の根本資料が統計にあることは茲に云ふ迄もなく、統計の衝に當る者は、自己の任務の重大なるを省み、此際更に緊禪一番しなげばならぬと思ふのである。

我が「朝鮮統計時報」は茲に創刊第二一年を迎へたが、誌齡未だ若く、振り返つて大いに誇るべき事歴を有するものではないが、前途は洋々として其の期する所は頗る大である。即ち今後益々内容を充實して、朝鮮統計界の爲貢獻する所あらんことを覺悟してゐる。誌友會員各位のひたすらなる御支持、御鞭鞭をお願ひする次第である。

新春隨想

集團精神の發揚

——年頭所感——

内閣資源局
長官

松井 春生

我々日本民族は、歳の改まるに際しては、毎に先づ

聖壽の無窮と國の彌榮とを禱り奉り、此の新らしい一年を、如何に意義あらしめんかの希望を新たにす。無條約非常時だと謂はれる二千五百九十七年の新春を迎へるに當つては、特に此の緊張を深うし、所詮全國民打つて一丸となる集團精神の發揚の要、益々切なるものありと考へ、月並な年頭の所感ながら、集團精神について一言したい。

凡そ生きるといふことは、難しいことである。下級の

動物的欲望の充足ですら、仲々困難な時世に、眞の人間として生きるといふことは、之ほど困難なことはないとも言へよう。併し人間が、此の世の中に生れて來たからには、人生の最後の日に「我は任務を果した」の満足感を以て、瞑目したいと望むのは、多少とも自覺のある人々の共通の心理である。そこで宗教哲學其の他諸々の訓と、諭しが生じ、或ものは高遠に、他のものは卑近に、様々に説き且教へられてゐるのであるが、幾千年の人類の歴史を経て來た今日でも未だに歸一するところはなく、人類は相も變らず、無明の暗に彷徨してゐるが如く見える。

ともあれ、人間は孤立的の存在でなく、種々雑多な集團の中に生れ且死んで行く。此の事實と、此の事實の意味するところが人間の生活態度の基準であり、同時に安心立命の境地に到達する鍵であると思はれる。

集團に於ける我は、其の縦と横との關係に於て、他の我に結び付いてゐる。吾人の肉體と精神が、我が祖先の遺體であり、先人の思想の顯現であることは、何人も否定することの出來ない事實である。前人未踏の發見とい

ふも、畢竟、數限りなき先人の積業の上に、新なる一步を進めたるに過ぎないのである。又之を横の關係に於て見るならば、他の我の生活に由つて影響を受け、影響を與へ、更には又自己の與へた影響の反對に由つて影響せられ、いよ／＼自己を豊富にし充實して行く。丁度、テニスの競技に於て、甲が最初の球を打ち、乙が其の球を打ち返す、打ち返された球を更に打返す、此の反覆の過程に於ける球の動きは、甲の與へた影響でもなければ、乙が與へた影響でもない。甲乙相互の力の無限の複合に依りて動くのと同じである。畢竟、個我は人類創始の始めから、今日に連る一つの大きな網の一つ一つの結び目の様なものである。それ故に、個我は眞に孤立せる我ではなく、他の我と結び付いた全體の一部であるに過ぎないのである。

此の事實は、我々に何を訓へるか。我々の本分は決して自分一個の完成と云ふが如きことにあるのではなく、各人は其の自己を完成し、其の特色を以て全體を完成し、全體に貢献するにあると云ふことである。丁度多數の人の複合寫眞の如きものである。二十人の人の複合

寫眞は、二十人の中の誰の寫眞でもあるけれども、又其の中の誰の寫眞でもない。二十一人目の存在である。即ち、それは皆を包容した一つの我である。一番眼の大きい者は、其の眼に依つて特出してゐるが故に、皆がそれに蔽はれて其の人が一番貢献してゐる。鼻の一番大きい人は、それに皆が蔽はれてゐるから、是は誰の鼻だと云ふことを指す譯には行かぬ。斯様に皆が寄つて特色を發揮して、それを内容としながら一つの我を創設する、之が即ち我々の本分である。私は此の本分を指して集團精神の發揚と名付ける。言葉を換へて云へば人の渾一化である。

此の集團精神こそ、我々の生活態度の基調でなければならぬと思ふ。此の精神を更に分析して考へるならば、先づ各人が皆其の分を盡すといふことが必要であり、第一には他の我に對して須らく恭敬でなければならぬ。蓋し自分の分を盡すと共に、他の我の分をも盡さしめなければならぬからである。

隨て、斯様な集團精神の發揚される所には、個人的、利己的な感情、支配的な意欲は消滅し、道徳心は鋭敏と

なり、意志力は強大となり、人生の情熱が深厚となつて、本當の生き甲斐を十分に味ふことが出来るのである。

吾々の各般の社會的活動、否廣く人間的活動の基礎は、此の集團精神に基かなければならぬ。又此の根據に立つて初めて社會諸般の制度は初めて生きて來るのである。

鮮 滿 一 如

滿洲國國務院
總務廳統計處長

向 井 俊 郎

康徳二年（昭和十年）末に於ける朝鮮籍の人々の、滿洲に居住する者の數は一三二、七〇三戸、七四三、二一二人であつて、二年前の大同二年（昭和八年）末に較べて、三三、七一三戸、一九一、一〇九人の増加を見てゐる。此等の人々の職業別は明らかでないが、間島省及吉林省方面への農業移住者の目立つて來たに見て、農民を

主とするものであるとはいひ得やう。ともかく、二年間に二十萬人の増加は以て著増といふ字を使つてよからう。

然るに其等在滿鮮籍の人々の男女比率は、昭和八年には女一〇〇人につき男一一三人であつたのが、二年後には一一五人となつた。一體男女の比率といふものは歐洲諸國のやうに男性の方の少いのを常態とするは別として、植民地的性質を帶ぶる國情の地にあつても、この較差は年と共に接近して來るのは當然である。が、此の場合にあつては逆になつてゐるのである。つまりこれは、二年間の二十萬人弱の移住者が物をいふので、滿洲帝國が建國匆忙の時代を経て、治安確立し、移住者の來住に適するやうになつたことを語るものである。

確な數字は無いが、同じ出稼する場合に於いて、朝鮮籍の人々は、中華民國人とは元より、日本内地の人よりも妻子を伴ふ場合が多く、また妻子を呼び寄せるのも早いやうである。にも拘らず、滿洲國全體の體性別（男一八、七〇八、六二九人、女一五、四九二、二九四人）女一〇〇人に對し、男一二〇人の比率に近いといふことは

いま滿洲國が高度の發達過程にあるといふことを物語るものである。

思ふに朝鮮と滿洲との關係は、往時は寧ろ滿洲と支那とよりも密接であつた時代もあつたやうである。肅慎以來人は多く北路朝鮮の方へ入つた。反對に南では鴨綠江以南の鮮地から入滿するの傾向があつた。南は今も同様であるが、北は朝鮮咸北の方面の人々が滿洲に入るやうになつた。つまりこれはづつと昔の人が歸つて來たとも考へられるものである。さうしてまた、圖們―南陽の交通線の出來て以來、これを通じて貨物は羅津、雄基、清津の三港に頼つて舶載せられるといふやうに、寔に關係の深いことゝなつたのは前の東三省政權時代の比ではない殊に近く鴨綠江に十數箇の架橋と、朝鮮の中央鐵道と海龍附近から輯安に出る鐵道の完成して鴨綠江上に握手するときは、これを通じて四平街、鄭家屯から遠く洮南齊々哈爾と直通することになる。斯くしてこれからの朝鮮と滿洲との關係は一層深くなるであらう。

この頃聲あり、鮮滿一如と、如は如なれども、滿洲國の友邦日本に負ふこと、頼ること、既に建國の宣言に、

皇帝陛下の御詔勅にあり、朝鮮との間は交通貿易等のみならず、諸事の關係融通無碍の境地第一に入つたことを、新年とともに祝福する次第である。

年頭所感

統計學社
名譽社長

横山 雅男

時の悠久無窮の點より見れば、時の人爲的一曆年は眞に一刹那に過ぎざれど、此の人爲的改曆が更に人心に反映して清新の氣分を持つて萬事に向はしむるから、所謂正月氣分の尊さがあるのである。

茲に皇紀二千五百九十七年の肇春を迎へた吾等一億の民衆の慶賀に堪へざるものは、我が萬世一系の皇室が彌榮え給ふと同時に、明治維新以來上下一致朝野戮力の結果は年と共に躍進に躍進を重ねて遂に世界三大強國の一となり、西に英米あり東に日本ありと評せしむるに至つたことであるが、就中吾等の最も喜び且つ誇らんとする

ものは我が統計が内地は勿論朝鮮、臺灣、樺太等の新領土に於ても亦頗る進歩したことである。

回顧すれば日清戦役戦捷の結果臺灣が我が有となるや當局者の熱心なる努力は大に治績を擧げたが、中にも明治三十六年十一月臺灣統計協會を創立し同二十五日を卜して機關雜誌「臺灣統計協會雜誌」第一號を發行して、大正九年十一月一日發兌の同誌第百五十六號に至つて惜ひ哉廢刊した。されど越へて明治三十八年十月一日特に臨時臺灣戸口調査を施行して、明治三十五年十二月法律第四十九號國勢調査法のために氣焔を揚げたのは實に壯舉といふべきである。朝鮮は臺灣に比すれば稍々遅れてはゐるが、日韓併合以降當局者が孜孜として勉めたため諸種統計が改良進歩し、殊に地方事務講習會の講習科目中に統計を加へ、或は統計講習會を開催して統計思想の普及を謀り、或は大正十四年十月一日を期して第一回國勢調査を施行するため各府に國勢調査講演會を開き、又昭和五年十月一日第二回國勢調査に對しては其の準備として主として南鮮地方で講演會を實施した。之がため國勢調査の施行及他の各道諸統計に貢獻したことはいふま

でもない。そして以上の講習會（二階堂、後藤兩君各一回横山四回）及講演會で舌を揮つたのは前後殆んど私の擔當であつたから、朝鮮統計に關係の厚い私は今猶ほ其の消息を審かにせんと心掛けてゐる。

更に近頃喜ばしき消息は朝鮮統計協會の機關雜誌「朝鮮統計時報」が創刊第二年の春を迎へたるにより年頭雜感程度の拙稿を寄せるやう鈴木同會長より請はれたことである。仍つて忙裏筆を走せて本稿を草した次第である。私は擱筆に臨みて貴誌の益々健全なる發達を祈るものである。

丁丑元旦 毎年疊韻

統計 迂 史

又值昭和十二年春

駭々國勢日愈新

聖恩欲報終難報

唯拜宮城賀泰辰

支那馬車

滿鐵產業部

善生 永助

私は大連に居る時でも、滿洲各地を旅行する時でも、

好んで支那馬車に乗る。これは料金が安いといふ經濟的見地ばかりでなく、あの悠暢な乗心地が何とも云はれない。櫻咲く旅順やアカシヤ薫る大連は勿論のこと、黃砂飛ぶ洮南、楊柳散るハルビン、雪のチ、ハル、緑の吉林到る處でこの支那馬車を驅りて行く愉快は滿洲ならでは味へない。蒙古の大草原に落日の赫く沈みゆくを眺めながら、田舎道を支那馬車に揺られて、深き物思ひに耽けるなどは恐らく内地や朝鮮では知ることが出来ない。

支那馬車の白き馬の毛鞭ふるふ度びにみだれてわが頬にかゝる

支那馬車の御者の背中の汗臭き匂ひ嗅きつゝ春の街ゆく

わが乗れる馬車の老御者先きを行く馬車の御者呼び何を語らふ

支那馬車の面白味は、その御者たる滿人の性格のノンビリして居るのに基くが、私はよく家内や小供と一緒にこれに乗り、安い散財をして居る。しかし月見の夜の酔興に、靜浦の自宅附近から大連の浪速町通までこれに乗つた時は、その時間のかゝるのも、おまけに御者の滿人

が居眠りをしながら行くので、危いこと限りなく、それに遠出のつもりでなく薄着をして居たので、秋の夜の肌寒を感じ全く閉口した。

或る時のこと、私と妻が夕方の散歩に、歸りゆく馬車を呼び止め、別に目的地もないので、兎に角十錢だけ乗せないかと交渉したら、よろしい乗りなさいといふ、何處まで行つても降りると云はない、こちらも平氣で乗つてゐたら、とうとう或る山麓へ來た、目の前に小さな滿人部落がある。あれは何處かと問ふと、私の住んで居る厩の所在地だといふ、安いのも道理だ、お互に呵々大笑してわかれた。そして三箇月も経つて後に、この馬車に廻り會つたところ、私達二人を見つけた御者の滿人先生、馬上に於て、笑ひながら舉手の禮をする。これは嘗て私が別れ際に彼に對して爲したる舉手の禮を覚えて居ての愛想とわかつては、またお互ひに呵々大笑せざるを得ない。

私は滿人の馬車や洋車に乗る度びに、あまり料金は値切らぬことにして居り、降りて幾らか餘分に與へるか、下手な滿洲語で、勞をねぎらふ言葉を掛けることにして

居り、時には前に云つた擧手の禮をして別れるが、これによりて兩者に一脈相通する親みが湧くのを感じて氣持ちが良い。僅かばかりの馬車賃や俵賃で、日滿人がいのみ合ふなどは甚だよろしくない、日滿親善は先づ街頭から始めねばならぬ。しかし何と云つても冬の支那馬車は寒くて叶はぬ。馬車はどうしても春から夏が風情が多い殊に月涼しき夕べ、浴衣がけでこれに飛び乗り、酔顔を風に吹かせてゆく快味は忘れ難いものである。

日滿の親善を招來する爲めには色々な方法を必要とするが、私は滿人の馬車屋や俵屋に對するにも、同情と友愛の念を以て臨むことをモットーとし、今年も東奔西走したいと思つてゐる。

年頭所感

柳澤統計研究所 一一瓶士子治

朝鮮統計協會が昨年三月機關雜誌「朝鮮統計時報」を

創刊せられてから、逐次號を累ぬるに従つて、内容を整備、充實せられ、茲に新春と共に第二年を迎へらるゝに至つたことは、洵に慶祝に堪へない所であり、且つ又編輯諸氏が恒に公務繁激の間に在つて、本會設立の趣意を體し、每號其の編纂に努力せられつゝあることは、衷心敬服に堪へない次第である。

抑も統計の業たる一見容易の如くにして、實際に甚だ困難な仕事であることは、多少統計事務に經驗を有する者の、齊しく痛感する所であらう。ルヴハスールが「統計は物と事と人とを數量上から研究する學問である」と言つたやうに、統計の調査は、事實の蒐集であり、實計的の數でなくてはならぬ。其の調査が、正確であればあるほど、統計の眞價が益々發揮せらるゝものであつて、數字に聊かも作爲があつてはならぬことは、謂ふまでもない。是れ乃ち單位觀察の重視せらるゝ所以であり、そこに實際統計擔任者の重大なる責任が存するのである。

惟ふに従來取扱はれて居る統計報告は、凡て實計的に正確に調査せられたものと謂へるであらうか、杜撰な調査に依つて爲されたものはなかつたであらうか、遺憾な

が私の寡聞を以ても、往々机上作爲の報告を爲す者のあつたことを、屢々耳にした所である。斯くの如きことが、單位觀察機關たる實際統計擔任者の一部に、平然行はるゝものであれば、統計の信用は、遂に失はるゝであらう。蓋し之等杜撰な統計報告の行はるゝ根本の事情は、畢竟當務者の統計思想の缺乏に基くものであつて、統計の重要性を認識せざるが爲めに外ならないのである。幸ひ此の點に就ては、曩に統計時報に掲げられた、大内教授の「統計の話」及森内閣統計官の「統計の任務」の如きは、直接統計擔任者は勿論一般會員をも啓發する所が尠くないであらうし、又村辻氏の「報告例の解説」なども、極めて適切な企圖であつて、同氏が本府統計係の責任ある人だけに、其の解説は地方統計擔任者にとつては、的確な指針となり、好個の參考となつて、將來の統計報告に、良好な結果を齎すであらうことは、疑を容れない所であつて、編輯諸氏の苦心の程も、察するに餘りある所である。希くは新春と共に、更に一段の努力を拂はれ、以て朝鮮統計の改善、發達に寄與せられんことを切望して已まない。茲に朝鮮統計時報刊行の第二年を

迎ふるに當り、益々貴會の發展を祈る次第である。

(昭和一二、一、一〇)

統計雜感

逓信局技師

小林春一郎

小生は、朝鮮簡易生命保險の統計事務に従事して居るのであるが、此所の統計事務は中央集査法によつて居る。中央集査をやつて見てつくゞ感ぜられるのは、郵便局よりの報告統計のでたらめさと無價値さである。保險の如き月々に現金收入を伴つて、會計上一錢一厘の誤りも許さぬものの統計で然りである。まして況んや他の統計をやと申し度い。

申す迄も無く中央集査による統計は、一貫せる分類方針により分類をするので正確なる統計が得られ、且又特殊の研究を爲さんとする場合直ちに其の目的に沿ふ統計を作り得られる。保險の如きは統計數字より各種の現象を歸納し、以つて對策を講じ着々成績を擧げて居る次第

である。

報告統計はでたらめなりとは甚だ統計主任諸君を侮辱した言の様に聞えるかも知れないが、如何に統計主任諸氏が統計に忠實なりとしても、數字を集め分類し、作製する人が數千人も居ては、其の主義、主張、方針が一致する筈は無い。朝鮮統計として最も重要なべき現住人口統計を年々比較し又之を國勢調査人口と比較して、其の奇異なる變動を如何に見るか。小生をして謂はしむれば現住人口統計の如きは直ちに之を廢止して推計人口を採用すべし、其の方が遙に實際に近き數字であると。

科學への期待

總督府文書課

江上 征史

世界が次第に物騒になつて來た。次の戦争に對して身構へない國は殆ど世界にない。唯だ何時、何を機端として戦争が起るかだけが餘された問題だ。戦争は人類の慘禍である。できるだけ避けねばならぬが、國民の生活力

と、國際の不平等に發する争因を除くための解決方法が、今の所戦争の外に無いのである。然らば戦争は人類と國家の存する限り、永久に之を繰返さるべき運命のものであるか。吾々がそれを考へる場合に戦争防止の方法として頼りになるものを一つ見出す。それは人道的精神の向上や諸種の國際取極めではなくして實に科學の發達への期待である。將來の科學こそ戦争を不可能ならしめる使命をもつのではないかと考へる。

歐洲大戰の勝敗を決定した要素の一つはタンクの出現であつたと聞く。其後二十年、世界の新銳科學は、航空機、瓦斯、光線等をはじめ各種の魔力的武器を生み出した。列國は其の發明の大部分を祕密に附して居る筈であるから、次の大戰に具現さるゝ破壊力の程度は之を的確に知るを得ないが、恐らく歐洲大戰の規模に數倍するものであつて、交戦國民の双方が豫想せざる程度の打撃を蒙るものであることは確かだらう。然しかくして、交戦國が失ふ所よりも戦勝によつて得る所の方が多い中は、まだ戦争は絶滅されない。勝敗の如何に拘はらず、交戦國の双方が等しく致命的荒廢に歸するといふ恐怖が

實證さるゝ段になつて、戰爭は熄むであらう。即ち科學兵器の超破壊力の實現する日である。こんな夢は多分世界の科學者の間にあるであらう。私は此の夢を日本國家がまづ實現せんことを希望する。現在國家は諸種の科學的發明に對して相當の助長策をとつて居ることは無論であらうが、もつと／＼大きな力をこれに注いで貰ひたい。科學的攻究に天分ある人々を糾合し、保護して、世界列強に先んじて偉大なる發明をなし得る機構を造つて貰ひたいと思ふ。世界から戰爭を絶滅し得る國が世界を支配するのである。

科學への夢はひとり戰爭絶滅に關してのみではない。經濟生活のユートピアも之に繋るのである。今日米國あたりでは作物と植物との限界が無くなりかゝつて居るといふことである。即ち今日農民が田畑に作る特殊の作物以外の多くの植物から、人間の生活に必要な物質を抽出する方法の開拓を意味するものである。將來の科學は必ずこれを解決するであらう、我國でも主食糧たる米の増收法は多くの人々によつて研究されつゝある。長野縣では苗代二期仕立によつて年二回收穫の實驗に成效し、福

岡縣では水田に油を注いで蒸發熱を防ぐことにより五割増收の實驗を生み、佐賀縣では稻の根切法によつて顯著な増收の可能を實證した。現在の耕地面積から五割乃至十割の米が取れる事になれば、水田を適度に減らして、輸入金額の六割に當る棉花を自給に近からしめ得るであらう。これは遠い夢でなくして、すぐ眼の前の可能事たるに近いのである。低溫乾餾や水素添加法による石炭液化はまだ緒に就いただけだが、これも油田試錐法の進歩と相待つて外國に供給を仰ぐの要を見なくなる日が來よう。一錢銅貨大の物質の原子を破壊して大汽船の大太平洋横斷に要するだけの動力を出し得るといふ學理が實現すれば、動力界に大變革を齎すこと明かである。工業界では生産工程から人間の勞力を省いて機械をして取つて代らしむる方法が無限に進歩すると思はれるが、其の結果として經濟機構はどうなるか。十八九世紀の産業革命は機械が齎したが、此の革命の局を結ぶものも亦機械であつて人類の文明を終局的に飛躍せしめるものと信じ得る。探求し、創造せられる無限の原料により生活物資の無限の生産が擴大さるゝことゝなれば、地球上現在の人

口がたとへ百倍となつても之を養ふ力があらう。(米の二回收穫が普遍化せば、耕地面積が二倍に増大したのと同じであり領土を擴ぐるの要が無くなる。)

今の國際戰爭は人口と資源の不均衡を主要原因の一とするが、若し完全なるアウタルキー(國家的完全自給自足主義)の理想が各國に實現すれば、此の側面からも戰爭の原因を絶滅することができやう。

活動寫眞、無線電信、石油エンジン、飛行船、無線電話、飛行機、電送寫眞、タングステン電球、空中窒素固定法、機關銃といふ様な科學の寵兒が世界に現はれてまだ四十年とはならない。而も今後の半世紀に如何に奇蹟のごとき大發見、發明が出現するかは、今日吾々が過去半世紀を振り返つて驚く以上のものであらうことは明かだ。恐らく來るべき次々の大發明は、過去に於て左様であつた様に、人類の生活様式は勿論、政治、經濟、戰術思想等の内容を激變せしめて行くに異ひない。文化科學に勝りて、自然科學の偉大なる本質がそこにある。

私は科學の將來に限りなき夢と期待とをもつ。大發明は偉大なる腦細胞の所産だ。天才兒の事業だ。半島の青

少年群の間から未來のその人が出て欲しい。マラソンの孫君にも勝りて人類史の上に不滅の偉業を遺す發明の天才の出現を待望する。

統計を語る

統計專局
主任

竹森喜久馬

現代の政治は統計を離れて政治を語るべからずと云ふ迄に其の重要性が加へられ、比年認識され來つたことは國政各般の立案計想上慶賀に禁へざる所である。

蓋し斯かる見地に於て曩に朝鮮統計協會が生れ、その機關誌として本時報が發刊されることになつたことは、半島施政上の一大炬火とし吾人の會心事とする所である。

統計は無言の雄辯なりと謂ふ。誠に然りて、之を算術的に見るとき全く無味乾燥のものとし等閑視され易ひものであるが、之を仔細に社會的事實の數字化されたものとし考慮するとき、所謂無言の雄辯であるとの貴重さが必

泌感得せらるゝのである。而もかくの如き見地に於て統計を見る人の未だ甚だ小範圍にあるは、人文の科學的進展を企及する上に於て痛感の極みといはなければならぬ。

如上思想の普及活用の向上を庶幾して居る。受講後の成績甚だ可良なので、今後も適當の水準點に到達する迄は本方針の持續を希望して居る次第である。殊に專賣局の統計はその算定の根據をすべて實踐に求めて居るので、非常に正確であり得ることは統計の大衆的信用を馴致せしめる上に於て一段の自奮を要せざるを得ない。

固より統計自體の算定の

賀 正

總督官房臨時國勢調査課

職 員 一 同

總督官房文書課統計係

職 員 一 同

根據に於て從來動もすれば空疎杜撰なものが多かつたり、單に形式的御座なり主義に紛飾され來つた時代もあつたので、それ自體の不信用さに所由する點否定出來ないのであるが、乍遺憾任に其の局に在る當事者の統計に對する關心の度合概して低級であつたことも亦看過出來ないのである。

統計の重要性に鑑み我專賣局に於ても昭和七年より毎年東京に於て開催される内閣統計局講習會に、本局地方局を通じ當該事務擔任者三人位を標準とし受講せしめ、

ば、斯土施政上の基本的偉力とし、庶績の圓成に寄與する蓋し甚大なるべきを信じ、切に本協會の健全なる發達を祈念して已まない次第である。(昭和十二年一月八日稿)

全鮮官公吏員を會員として本協會が設立せられた。

出來るだけ多數の入會者を得て所期の目的が全面的に達成せらるゝことが出來れ

春芽の如く

全羅北道 統計主任 李 昌 煥

一陽來復して萬物更新、光輝ある昭和十二年の新春を迎へたことは協會各位と共に歡喜に堪へない。

近年諸般の政策施設の基礎を統計に置く傾向が顯著となり、正確なる統計に對する社會的要求が切實さを加へて來たことは時勢の進展から見ても必然の現象である。従つて官府に於ても之が諸種の調査を實施し、又幾多の統計的施設を講ずることが次第に多くなつて來た。總督府當局の主唱に依つて一昨秋我が朝鮮統計協會の誕生を見るに至つたのも其の一つで、爾來同會は機關雜誌「朝鮮統計時報」を刊行して統計事務の研究改善、統計思想の普及向上に多大の効果を齎らし、更に昨秋十月創立滿一週年を迎ふるに當つては統計功績者並びに、統計優良良面の第一回表彰を行ひ、統計事務従事者相互の鞭撻を加へたことは洵に喜ばしいことであつた。

今や萬物新に心氣更新して庶政の進展を策すべき年頭に當り、我等統計人は齊しく協會今年の活動に期待をかけてゐる。國力充實發展の上に隱然たる役割を爲すべき我が協會が、出生日向淺きに拘はらず、例へば春先に黒土の地殻を破つて萌へ上る麥芽の如く、不屈の精神を以て萬難を突破し、益々健全なる發展を來し、其の本來の使命たる統計の向上統計の民衆化に邁進し、以て半島文化に多大の貢獻をなさんことを祈り、無限の歡喜を以て瑞祥の新春を迎へた次第である。

賀 正

朝鮮統計協會

會長 鈴木 壽男
主事 眞鍋 半八
外 職員 一同

統計の話

(四)

京城帝國大學教授 大内武次

舊統計局と新統計局

前回には統計が國家の政治組織の近代化に伴つて、その成立を見るに至つた典型的實例が佛蘭西について見られるのでありますから、それを申し述べておきました。一八〇〇年に設立された佛蘭西の統計局は、統計を専門に取扱ふ獨立の官廳が、國家内に設置された最初の事實であります。けれどもこれは當時の始めての企でもあるのであります。その組織などは幼稚不完全のものであつたのは云ふ迄もなく、その活動の機能にも幾多の缺陷があつたのであります。殊に佛蘭西では革命についてナポレオンの出現となり、それが歐洲を席捲して第一帝政が成立したのであります。それが更にルイ十八世による第一復古となり更に又次いで第二復古が現はれたかと思ふと、ルイ・フィリップの七月革命が起り、やがて又二月革命によつて第二共和政の出現となりましたが、それはやがてナポレオン三世による第二帝政に移つて行つたと云ふやうな譯で、十九世紀の前年から後半にかけて政治上の改變動搖は、暫しも止むことはなかつたのであります。従つて一八〇〇年に設置されました統計局も一八一二年には廢止の運命に會つて居ります。けれどもこれが廢止されたと云つても、既に統計なるものが成立した後のことで

ありますから、統計そのものが廢止されたことを意味するものではありません。そのやうな舊式の制度による統計機關には種々の缺陷があつたので、それがために廢止の運命に會つたとも見られるのであつてこのことは寧ろ後に新しき完全なるものを成立せしむべき前驅的の現象であつたと見ることが出来るのであります。それ故その廢止後も必要とする統計の作成は續けられたのであります。それは統計局と云ふやうな獨立の官廳によつては作られなかつたが、その代り夫々の行政官廳の各部門に於て夫々の專屬事項に關する統計が作られたのであります。それで佛蘭西でこの統計の獨立官廳が再び復活されたのは一八三三年のことでありませう。

一八三三年に復活されました統計局を假りに新統計局と申しますれば、以前の二八〇〇年に設置されました統計局はこれを舊統計局と云ふことが出来るのでありませう。即ち同じ統計局ではあります。舊と新とを區別するだけの相違はその前後に付て見ることが出来るのであります。但このことは後に申し上げることにしまして、こゝで詳しいことは略しますが、今特に申し上げたいことは、丁度佛蘭西で所謂新統計局が設立されました頃、即ち一八三〇年代は漸く統計が完備を來さんとして來て居る第一の時期と見ることが出来るのであります。丁度この頃から歐洲の諸國に亘り、新たに統計専門の獨立官廳設立の機運が濃厚になつて來て居りまして、相前後してそれが實現せられて行つたのであります。然しその話に移ります前に一八〇〇年代に於ける所謂舊統計局の設立が、佛蘭西以外の國ではどんなになつて居つたか、その邊の事實をもう少し申し上げて見ませう。

ナポレオンの統計に關する言葉

統計の發生を促しました事情は、以前に永々と申し述べたことにより、御了解載いたことと思ひますから更に繰り返したいはしません。統計なるものゝ重要であることが、佛蘭西から他の國に普及して

行きましたことに付ては、ナポレオン一世が尠なからぬ關係を持つて居るのでありますから、そのことを申し加へて置きます。ナポレオンは御承知の如く佛蘭西の大革命に於きまして、突然に現はれて來まして、終に一躍皇帝の地位に迄昇つた所の一大英雄でありますが、文化的事業としましては法典の編纂などは有名であります。このナポレオンが當時既に統計を重要視して居つたことは、茲に特記しておきたいと思ひます。彼の言葉として傳へられて居る有名な句は『統計は事物の豫算である。事物の豫算がなければ永遠の幸福は皆無である』と云ふのであります。それともう一つ、皇帝ナポレオンが統計に重大な關心を拂つたことを明證する事實は、一八一三年五月廿二日の日附のある政府回章の文句であります。それには『陛下の企圖せらるゝ所は、陛下の眼前に、毎年、帝國の諸々の富竝に諸々の農産物に關する全般の表を置かせらるゝことにある』とあるのであります。この日附はナポレオンがエルバ島に逃れた前年のことでありまして、これは端しなくもこの英雄の數奇の運命を偲ばしむるものであります。が、それは免も角、この英雄が如何に統計を重用したものであるかを知る事が出来るでありますやう。

獨逸に於ける統計の成立

扱それで御承知の通り、ナポレオンは歐洲大陸を席捲いたしまして、その占領しました地方には自己の部下を配して行政を司らせたのであります。その場合には今述べたやうなナポレオンの言葉を具體化するやうな施設が行はれたことは勿論であります。これは中央歐羅巴の地方、特に獨逸とか奥太利とかの行政に多大の影響を與へたのであります。中でも直轄の行政地といはしました所の南獨逸の諸領地に於ては、行政上統計を重要視する所の強い影響を残したのであります。

當時に於ける今日の獨逸帝國の諸地方は、各封建諸侯の領地、法王領地、或は自由都市などが夫々に分立して居りまして、銘々が別々に割據して居たのであります。その中でも普魯西は王國であつたので

ありまして、國家として最も強力で將來獨逸國の盟主たるべき地位が既に約束されて居りました。それでこの國では既に十八世紀の中葉に於て、フリードリツヒ大王のときに、人口統計の胞芽とも見るべきものが、政府内で作成されたこともあるのでありますが、その後十八世紀の終から十九世紀の初頭にかけた時期になりますと、佛蘭西や南獨逸の諸領地に於ける統計思想勃興の影響を受けまして、政府内に獨立の統計官廳を設立すると云ふ機運が段々と醸成せられて參りました。この國では十九世紀の初頭にスタイン竝にハルデンベルグの名を以て呼ばれる所の一大行政改革が行はれました。これは從來の封建的諸制度を打破して、新時代の思想によつて内政の改革を行つた所のものでありまして、當時この國に於ける劃期的の制度改革だつたのであります。統計官廳の設立もこの改革の一部を爲して居たのでありまして、一八〇五年スタインの議によつて、商業、工業、關稅を掌る省の一部局として伯林に統計局が設立されました。これが今日獨逸帝國を形成せる地域内に於て設立された、最初の統計に關する獨立官廳であります。この統計局はそれから引き続き今日迄及んで居るのでありますが、それは屢々改善整備せられまして、殊に十九世紀の末葉から二十世紀に及びまして、有能な統計家竝に統計學者がこれを主宰しました關係上、統計官廳として世界の模範たるの地位を獲得するに至つたのであります。

南獨逸の諸地方は、既に述べた通りナポレオン行政の影響を強く受けた地方で、統計思想は當時普及して居たのであります。それで此等の諸地方は後にバイエルン王國に統一されたのであります。今日のバイエルン王國の統計官廳を起源に溯つて尋ねますと、一八〇八年にミュンヘンに設けられたそれに迄溯り得るのであります。當時ミュンヘンの内務省に於ける警察部門の一局として統計局が設立されたのであります。但この統計局は一八一七年には、それを設置した内閣の没落によつて遂に廢止せられて居ります。それでこの統計局は佛蘭西に於ける例と同じく、所謂舊統計局と目せらるべきものであります。

すが、その後これが所謂新統計局として復活再生せられたのは、丁度佛蘭西に於けると時期を同ふして、一八三三年のことでありました。それ以來今日に引き續いて居りますが、この統計局も普魯西のそれと同じく、有能な統計家、統計學者によつて指導され、世界の注目を惹いた所のものであります。

無統計時代と統計時代

一八〇〇年に佛蘭西に於て、一八〇五年に普魯西に於て、一八〇八年にバイエルンに於て、夫々統計に關する獨立官廳が設立せられましたことは、統計と云ふものゝ成立を世界に印刻しました所の、劃期的事實であります。統計の見地から見ますと、このことは世界の歴史の上に特筆大書せらるべき事柄であります。それで私は世界の歴史をこれによつて二つの時代に區分することが出来ると思ひます。それは統計のない時代と統計のある時代との區別でありまして、十九世紀の黎明が世界に訪づれまするや否や、世界は無統計の時代から統計時代へと進んだのだと、こう私は考へるのであります。

私は前々回に統計のことをスタテイスティクと云ふことに付て申し述べましたが、このスタテイスティクと云ふ言葉が、今日の統計を指すものとして確定さるゝに至りましたのは、その際に申しました通り、大體十九世紀初頭のことであります。それは獨逸、英吉利、佛蘭西を通じてさうなのであります。其他の諸國、例へば西班牙、伊太利でもさうなのであります。即ち十九世紀初頭は統計なるものゝ實質が成立いたしますと共に、その名稱が統一的に確定されたときでありまして、従つてこの十九世紀以降は名實共に統計時代に進んで行つたのだと云ふことが出来ます。

然し同じ統計時代でありまして、一八〇〇年代は統計の成立期であります。その發達の第一期は曩にも一寸申しました通り一八三〇年代、それから次では一八八〇年代と云ふ風に、その發達完備の程度に應じて、ほゞ階段的にその跡を追跡することが出来ます。一八三〇年代のそれは歐羅巴の大部分の文

明國で統計の中央機關が成立した時代であります。次で一八八〇年代は歐羅巴以外の文明國並に諸殖民地々方で統計の獨立官廳が成立しました時期であります。

一八〇〇年代の統計の成立期に於きまして統計の中央機關が設立されましたのは、前記の三ヶ國に止まるのでありません。西班牙では一八〇二年に既に獨立の統計局が設けられて居りますし、伊太利の地方ではナポレオンが新たに建設した封建の諸侯國に於きまして、矢張り一八〇二年に統計を取扱ふ専門の部局を政府内に設置して居るのであります。然しこの二國に於ける統計官廳はあまり永く續かなかつたのでありますして、一時的のものに過ぎなかつたのであります。そしてそれ等が再び新統計局として復活いたしましたのは、十九世紀の末葉、即ち統計發達の第二期に位する一八七〇年代のことでありまして、兎も角、一八〇〇年代に既に以上の企があつたと云ふことは、統計成立期に色彩を添ふる所の事實であると云はなければなりません。

瑞典は行政統計の先驅せる國

以上は統計の成立をその本流を辿つて述べたことでありまして、その中心は佛蘭西でそこから四周に及んで行つたことをお話ししました。然るにこゝに別に述べておかなければならないのは瑞典の統計のこととあります。この國の統計の成立は、以上の諸國とは全く別な、特異の状態にあつたのであります。そして尙以上の諸國に魁けてもつと早く統計が成立して居たのであります。たゞ遺憾なことにはその早期の發達が周圍の國に及ぼした影響は甚だ微弱でありました。従つてその統計は發達の本流をなすものではなく、たゞ旁系に存した所の一つの事實に過ぎなかつたのであります。けれども統計成立の上からは見逃すことの出来ない所のものでありますから、こゝでお話しやうと思ひます。

佛蘭西の有名な統計學者に、ジャツク・ベルチヨンと云ふ人が居りましたが、この人は一八九六年に

「行政統計論」といふ名著を著しまして、その中に、世界で行政統計の最も早く整備した國は瑞典であつて、その時期は十八世紀の中葉に迄溯ることが出来ると思はれます。こゝで行政統計と申しますのは、即ち政府の作成する統計を指して居るのでありまして、元來統計の成立はいづれも政府がそれを作成する所にその端を發して居るのでありますから、このことは統計の最も早く發生した國は瑞典だと云ふ事になるのであります。それでそのことを申し上げて見ましやう。

十八世紀の初頭に瑞典は、周圍の諸國と永い間戦争を行ひましたが、それは歴史上北部大戦役（一七〇〇—一七二一）と呼ばれる、所のもので、期間が永かつた丈に人口を喪ふことが夥しかつたのであります。従つてこの戦役の後に於きまして、政府の關心は人口の状態並にその構成の變化と云ふことに鋭く向けられることになりました。そして特別の人口計査を行ふ必要があると云ふ考が廣く行はれて來たものと見えまして、一七三五年には各地方長官に對し、該地方の經濟狀況並に人口が殖えたか減つたかを調べて、毎年それ等の報告を政府に提出すべしと云ふ王命が發せられたのであります。こう云ふことは他の諸國でも早くからあつたことではありますが、たゞ調べると云つた丈の事なのでありますから、他の例に於けると同じく、その得られた結果は不正確のものであつたことは云ふ迄もありません。所で早くもこの結果の不正確に著目して研究を始めたのが、瑞典の他の國と異なる所でありまして、當時瑞典の學士院の學者でその不正確に注目し改良すべきことを主張したものが居りました。そんな譯で國王は遂に一七四八年に右調査の完全を期する爲め、政府と學士院が共に協力してその方法を考究すべしと命ずることになりました。その結果次の調査方法が定められたのであります。これは恐らく統計的調査方法の整備された最初の例でありましやう。即ち一方に於て人口に關する調査事項を掲記した調査の様式表を決定しますと共に、調査に際してはそれを印刷し他方て地方の下級官廳に送付し、民政吏並に僧侶をし

て調査記入せしめると云ふことを定めたのであります。そしてこの方法の下で一七四九年に人口調査が實施され、且その結果たる統計表も亦學士院の學者の協力により纏められたのであります。

右は正に今日の國勢調査の先驅をなしたもので、實に近代的センサスの最初のものであることが出來ます。更に又官廳統計の最初のものであると云ふことも出來ます。但それとても實際は種々の缺陷があつたのでありますから完璧のものでありませんでした。けれどもそれは統計發達の出發點をなす所のものでありますから、止むを得ない當然のことと云へるでありました。それで瑞典では、更にこの缺陷を除くべく研究が続けられました。即ち更に右調査を完全ならしむるため、一七五六年に再び王命により委員が設けられたのであります。この委員は今日の内務省に相當する役所に置かれ、且恒久的の制度として定められたのであります。これを表紀委員(タービュラー・コンミツション)と云つて居りますが、即ち人口統計委員に他ならないのであります。元よりこの委員は一つの官廳として見ることは出來ないのでありますやうが、然し官廳内に於て統計を専門に取扱ふ所の、恒久的の組織體が定められたのでありますから、強て云へば歐羅巴に於ける最初の統計官廳と見ることが出来るでありましたやう。

この表紀委員は一七六一年にそれ以前の八ヶ年に亘る全國の一般人口統計表を發表して居りますが、それに併せて過去の人口調査方法の缺陷を鋭く指摘して居るのであります。統計のまだ發達しないこの時期に、このやうに統計が調査方法に甚深の注意を拂つて居りますことは驚嘆に値するのであります。當時歐羅巴の其他の諸國でまだ統計の成立を見ない中に、既に瑞典では眞實の統計に値ひする所の統計へ向つて進んで居たのであります。表紀委員は調査方法の缺陷を指摘しますと共に、その缺陷の由來する所以を究明して居ります。即ちそれには二つあつて、一は調査に當る民政吏並に僧侶が未だ此種の仕事に慣れて居らないこと、二は一般人民の方に廣く人口調査の必要なることが徹底されて居らないこ

とであります。それ故それ等のことはよく指導して行かなければならないが、そのためには如何しても人口調査の結果たる統計表を印刷公刊し、それにその表から歸結し得る諸結論を附載して、それによつてこの事業がどんなに有益のものであるかを世人に公知せしめる必要があると云ふのであります。茲に一寸申し添へて置きますが、當時瑞典では未だ絶対専制の祕密政治が行はれて居たのでありますから、既に作成された所の人口調査の結果の如きは一切祕密にされて居たのであります。そこでそれは公開しなればいけないと云ふことを表紀委員は力説して居るのであります。既に前回に統計調査とその結果の公開とは、統計が健全に發達する爲めには是非相伴はなければならぬことであつて、その點で専制政治の下では統計の發達すべき素地がなかつたのだと申しておきました。瑞典も亦同じく専制政治の下でありましたが、表紀委員の如き統計専門家があつたため、早くもそのやうな調査結果の公開が叫ばれたのであります。そしてそれは遂に實現されました。この事は専制治下に於ては稀有の實例であります。然しそれに特定の制限が伴つたことは當然のことでありませう。それは表紀委員が政府に報告した所のその儘の統計表を印刷公刊してはいけない、けれどもその中の公衆の爲めになるやうな部分丈は以前から毎年發行されて居る學士院の紀要に附載して公刊するのなら差支ないと云ふのであります。それで人口の動態的事實丈は、それに公開されることになつたのであります。その他の人口に關する事實は公開されなかつたのであります。

以上のやうに先づ學士院の紀要に人口調査の結果の一部が發表されるに至つたことは、表紀委員には主として學士院の學者達が關係して居たからであります。特にその中心となつて居たのは、當時天文學者として著名であつたワルゲンテインと云ふ學者でありまして、この學者の名前は瑞典の、否、世界の統計の歴史の上に燦として輝いて居るのであります。

財界昭和十二年年頭觀測

朝鮮商工會議所會頭
京城商工會議所會頭

賀 田 直 治

昭和十二年の我邦財界は多事なりし昭和十一年の財界を承けて國內事情竝に國外事情の影響下に、その前進を續くべきものにして、先づ以て波瀾重疊、難關幾重の行路を歩むべきものなることを覺悟せねばならぬと思ふ。而かも財界の行路は政治、外交、社會の環境にも支配せらるゝこと多いと考へねばならぬ。

日本内地の財界は恰かも非常時中の眞非常時に際會し、準戰時的財政方針の下、三十億圓の大豫算を提げ、軍需工業の勃興、國策産業の實施、國民經濟の改善、乃至貿易競争の活劇を見るに至るは必然にして、幸に農村の好收値高に依り、農村購買力の相當市況を賑はすものあるべく、米國好景氣に依る生絲竝に生絲製品の輸出も相應に期待し得べく、綿絲

布、人絹の需要増に依る纖維工業界の活況も期待せらるべきも、重工業の基礎原料たる鐵材の拂底の如き、是等諸工業の能力を弱め、生産品高を將來すべく、又我邦に最も缺乏なる石油竝に代用石油の事業に向つて各方犠牲を提供して國策的努力の加はるを見るべく、勢ひ油の不潤澤且油價の騰勢をも來すべく金融も引締り、總面的に物價の騰貴を來すものと想察せらるゝのである。只此間に處し統制經濟の施設は其歩を進むべく、之が成否且適否は眞に内地財界を支配する主動力と判ぜらるゝのである。對支外交竝に爾餘對外政策の如何の財界に及ぼす影響は甚大にして、目下の處見透し甚だ困難の形勢と思惟せらるゝのである。更に對内的には官僚、軍部民間の協和宜しきを得る事が眞に財界の振否を支配する基礎條

件にして、目下の處多少の満足し難き形勢もあり、當議會の形勢も相當波高かるべしと想像せられてゐるが、由來日本國民は愈々となれば必ず和し、鞏乎たる皇室中心の下、翕然一致の永き傳統を有し、時に臨んで必ず戮協すべく、國民中堅層の健實味、未來の國民たる少青年の健げさ振り等、頗る意を強うするに足るの根柢を有し、若き新興の日本の前途は行くてに幾多の壓迫の加はるべきあるも、其國運の旺盛、進路の堅實なるものあるを自信するに難からず、此間最も恐るべきは隣邦ソヴェット、コムミテルンの共產主義の傳播にして、西歐西班牙の如き正にこの害毒に惱まされつゝあり、隣邦支那の如きも將にこの害毒に感染しつゝあり、現に今般張學良軍が惹起したる蔣介石氏に對するクーデターの如き明に共產黨と連絡する共產軍の俾嚇に依りたるものと見るべく、形勢に依りては支那の運命は西班牙の夫れの如く若しくは群雄割據の不統一時代に入り、東洋の平和を脅かし、日本に對し何時亂暴なる抗敵態度を執る也も保し難く、斯る形勢に對し、日本の執るべき態度は宜しく國民總和の國是に立脚し、日獨防共協約の運用を克くするは勿論、列國とも公正なる連絡を保ち、東洋安定の元締として機宜を制し行動せねば

ならぬと思ふ。

畢竟我邦財界としては須らく經濟、外交、國防の協調宜しきを制し、農山村の更生、鑛工業の合理化、且均整化、中小工業の振興、商業貿易の刷新、金融機關の統制充實乃至交通通信機關の統制充備等一切の經濟産業機構の革進に對し官民一途、能所に應じて努力活動する所あらねばならぬ。進歩計畫と共に無駄排除に勇敢ならねばならぬ。更に内地のみに局踏することなく、眼界を廣くし、外地全體は勿論、日滿經濟ブロックの基調の下に大いに海外發展を策せねばならぬのと考ふ。

盟邦滿洲國は建國五年の記念すべき歳を迎へ、諸般の風景に於て新興躍進の途上に在るものと豫見し得るのである。只産業開發五年計畫の下、多大の資金が要せられ、匪賊も僻在分散の窮地に追込めたりとは云へ、決して鎮定の手を緩むるを許さず、外疆々域の形勢に照らし、外交國防の宜しきを制せざるべからず、所詮不可分關係の盟邦日本と同心一體、健全有力なる經濟ブロックに依り、滿鐵を首め各經濟機構の適切なる經濟活動を進行し、殊には僅に河を以て接壤する鮮滿兩地の提携依存を密にし、其内にも處女地東北、滿北鮮、日本海

對岸内地との協調連絡に關し一層の施設と努力とを拂はねばならぬものと信ず。

日本の經濟圏としては先づ以て内外地の結合の下、滿洲國を首め、北支、南洋の經濟交通を密にし、進んで支那本土、暹羅、濠洲、印度其他の未接觸地の開拓を講じ、同じく波瀾常ならざる歐米諸國との角逐を調和し、可成丈平和裡に日本帝國の地歩を向上せねばならぬ重要機に直面するものと思ふ。が、和戰の斷は狀勢次第と覺悟せねばならぬと思ふ。

此間に處し、我朝鮮は須らく帝國經濟に於ける重要位地と使命とを重んじ、既往の成績を根據として更に資源を興し、産業を整へ、農工併進の發達に向つて最大の努力を拂はねばならぬものと思ふ。

朝鮮の本年は前年の農業凶作に對し、諸事業、諸工事の勃興を以て緩和補成を講ずるの必要あり、幸に鑛工業の新興、諸工事の着手、勞銀の散布、内地資本の誘入、商業貿易の刷新、交通、金融機關の強化乃至鮮内都鄙民間實力の活用、夫れに總督府の積極的財政計畫（昭和十二年度に對し四億三千萬圓國庫豫算の提案、今後一層の積極化を期待せらる）諸機構の改善を基調とし、官民双方の奮發に依り、朝鮮財界の振勢は疑

なく期待し得るものと思ふ。即ち以上を再說すれば、國策的、國防的並に國民經濟改善上の諸産業は前年の果を承けて向上發展すべく、從來以上輕金屬の利用、石油液化、無水アルコール、木材パルプ、鐵鋼、造船、造機其他重輕工業の發展、中小工業並に副業的工業の發達、國私兩鐵道、道路、橋梁、港灣、都市計畫、發電、諸工場の工事、治山治水の工事乃至交通々信金融機構の強化等多岐多端なる事業を展開し、勞働者缺乏を訴ふる程に勞銀の全面的散布が期待せられ、更に内地資本並に店舗の進出も顯著なるべく、朝鮮は正に産業經濟の本格的躍進時代に入りたるものと觀察せらるゝのである。只事業新設に支障々害を與ふる現象も少からず、須らく是等の支障を芟除し、投機思惑の弊風を打破し、男女共勵の氣風を作興し、東洋中心としての大なる理想信念と穩健着實なる勤勞道德の生活改善とを期し、この好箇の機運、天與の潮に取残り残さるゝことなく、内鮮滿一體羣乎たる經濟ブロックの基調の下、内容を向上強化するは勿論、大いに進んで海外發展の事業にも雄飛活躍する所あらねばならぬ。

之が基本方策としては、幸に朝鮮産業經濟調査會の審議決定したる方針あり、之を土台に實行運用に努め、結局この結

果を世に明にして大いに中外の認識を進め、逐次意動きつゝ

ある内地有力者の朝鮮進出に便宜を提供し、内鮮相仍、朝鮮

否帝國の實力増進を期圖すべきものと信ず。

時恰も本年の干支は朝鮮名物の牛に因む丑歲に際會す。須

らく牛の努力、黙行、奉仕に學び、遅くとも千里を指すの健

姿に倣ひ、不屈不撓、希望の光明を行手に照らして、努力力

行を實踐すべきものと考ふ。

素より朝鮮の運命は帝國の國運竝に實力に伴隨するも、朝

鮮繁榮の帝國實力の一部なる所以に鑑み、相互提携の要、今

日より急なるはなし、切に適正なる認識理解の普及と同情あ

る協助共力の興起を望んで止まぬ。

新 刊 紹 介

内閣統計局編纂 第五十五回 日本帝國統計年鑑

内閣統計局編纂 第四回 勞働統計實地調査報告

(第二卷 鑛山の部)

農林省編纂 第十二次 農林省統計表

商工省編纂 昭和十年 商工省統計表

發行所 東京市京橋區銀座西三丁目一ノ一五 東京統計協會

振替口座東京一九四四

鮮内發賣所

京 城 丸 善 株 式 會 社

定 價 送料(朝鮮)

二・三〇 〇・六五

一・〇〇 〇・〇五

一・七〇 〇・二四

一・一〇 〇・一〇

統計より見たる世相の動き

京畿道社會主事

日 野 春 吉

統計が一般行政の指針となり、各般の社會施設が統計に現はれたる世相に立脚して計畫施行せらるべきものである事は今更喋々を要しないのであります。従つて世相の動向を見極めんとするに當つて日々の誇張されたるデジャーナリズムに囚はれる事は頗る危険でありまして、社會現象を數量的に分類集積したる統計こそ最も眞摯に社會情勢を語るものと信ずるのであります。

かゝる意味に於て平素私は一見無味乾燥なるが如き統計表の觀察に努めてゐるのであります。最近の世相の動きは極めて敏活で、併も時は非常時なるに拘らず、人は享樂の一途に趨るの感を深くせしめられてゐるのであります。

最近に於ける世界の情勢、乃至は隣邦支那に於ける動亂の

勃發や共產主義の東漸や、國際問題は愈々微妙な動きを見せ、益々複雑する一方であり、しかのみならず、國內事情に於ても行政機構の改革なり、老大豫算に伴ふ國家財政の問題なり、なか／＼すら／＼と圓滿に解決の出來るやうにも思はれず、寧ろ非常時はこれからが本格的で、國民一致、緊蹙一番して、國難の重壓を突破する意氣と信念とを持たねばならぬ重大なる危機に直面してゐるといつても、敢て過言でないと思つてゐるのであります。

然るに現下の各方面に於ける世相の動きを見るに、果して國民にその覺悟と心構へがあるかといふことを、疑はざるを得ないのであります。勿論昨今に於ける經濟界の流れは、確に好況に恵まれ、この歳末の如き、京城市中はボーナス景氣

に煽られて、物凄い街の景氣を呈してゐるのであります。十二月一日から二十日迄の三越・丁子屋・三中井・平田、この四デパートの賣上が、何と百二十二萬圓といふ有様で、昨年同期間の賣上に比し、正に約二割弱の増加となつてをるのであります。

又京城市内二十一箇所的活動常設館及その他の劇場の、過去三箇年間の入場状態を調べて見るのに

入場人員

入場料金

昭和八年	一、四七五、一一四 ^人	三五九、四五二 ^円
昭和九年	二、二九八、一二四	五四一、五一九
昭和十年	三、二三八、七二六	七五三、二九一

といふ躍進的數字を示し、近頃黄金座・明治座・若草劇場等の豪壯な建築が次々と建設せられるも亦無理からんことと思はれるのであります。本年は又驚くべき數字を示し、ざつと四百萬人位だらうと豫想されてゐるのであります。別に京城の人口が増加した(勿論區域擴張の増加はあるが……)といふ譯でもなく、唯だ一に享樂的氣分の現れと見ざるを得ないのであります。

次に花柳界方面の状況を打診するに、先づ京城市内に於ける

る券番方面から見た藝妓諸君の活躍は如何にといふに

藝妓の數(妓生を含む)

水揚代

昭和八年	八六七 ^人	一、四二四、一一〇 ^円
昭和九年	一、〇七三	一、七九七、八七六
昭和十年	一、四六〇	二、一八八、一二八

でありまして、これ亦躍進的數字を示し、昨今歳末に於ける花柳界の箱切れの好景氣も、さこそと思はれるのであります。

次は新町、彌生町遊廓方面の状況を見るに、近時カフェー方面に壓倒されたとはいへ、その登樓客の如き、年々非常なる激増振りを示してゐるのであります。

娼妓の數

登樓客

水揚代

昭和八年	九五〇 ^人	一六、五二一 ^人	一、二七六、三二 ^円
昭和九年	九六〇	二二、九七七	一、五四二、八四
昭和十年	一、〇三六	三三、〇九四	一、六〇七、七一

これらの資料に依りまして、社會層の動向を按ずるに、單に好景氣々々々で、我等は平然たり得るかどうかといふことを考へねばならんと思ふのであります。

これらの世相とは全く反對の方面の状況を見るに、例へば

生活難の爲に餓死線上に蠢めいてゐる、憐れなる我等同胞の數を、昨年と本年の細窮民調査表に依つて、京畿道内だけを見ると、次のやうになります。

(毎年十月末現在)

昭和十年	細民	
	窮民	民
昭和十年	八五、七三戸	三六、三〇人
昭和十一年	九五、五四戸	四五、八三
		二七、七二戸 七、二九人
		三三、八〇六 九七、四二四

世は好景氣に恵まれてゐる程有頂天になつてゐる半面に於て、これら憐れなる世相を、我等は深く考へねばならないのであります。而もその數字が益々増加しつゝあるといふことは、誠に憂慮に堪へない一つではないかと思ひます。

又道内に於ける失業者の状態を、毎年十月一日現在を以て調査してゐるのでありますが、昨年と本年の状態を數字の上から考察して見ますのに

年別	失業者	
	給料生活者	日傭労働者
昭和十年	四、七〇人	四、四三八人
昭和十一年	三、〇六五	四、〇二五
		二、二八五六
		一、二二三六

でありまして、失業状態は幾分その率を低下してゐるとは言へ、本年の調査に依つて、斯く失業者の數が本道だけでも一

萬近い數に達してゐるといふことは、確に現代に於ける社會惡の一つであると思はねばならぬのであります。

京城府に於て、この寒空に年を越すことの出来ない憐なる人々の爲に、暖い救ひの手を伸ばすべく、同情週間を實施し、市民に懇へてゐるのでありますが、今までの狀況に依つて見るのに、經濟界は昨年比し非常に好況であるといふことが叫ばれてゐるにも拘らず、同情週間の零細な金の集まりは、十年末に比して十一年末は非常に不成績な状態にあるといふことは、如何に現代の人が、唯晴れやかなる世相にのみ眩惑されて、社會の裏面の氣の毒なる人々に思を致さないかといふことが、明に立證せられてゐると思ふのであります。

殊に昨今に於ける一般の空氣は非常に贅澤であつて、且つ又總てが享樂氣分に耽つてをるといふことは、色々な方面から見て争はれん事實であります。それらの空氣を考へて見るに、大正十二年の大震災前の、あの晴やかなる贅澤氣分と、殆ど同一なる進み方を辿つてゐるのではないかと思はれるのであります。假りに大正十一年前後に於ける日本の輸入超過の方面から見て、我が國民の贅澤振りを見るのに、大正十一年の洋酒の輸入は三百五六十萬圓であり、寶石類の輸入に

至つては、正に五百萬圓に近く、プラチナ、金時計の類に至つては二百六十萬圓、化粧品の入が六百二十萬圓に達し、裝身具類が三百七十萬圓といふやうな状態で、全く日本人は無自覺、無鐵砲なる社會生活に進んでをつたのであります。そこに大正十二年の關東を中心とした大震災が襲つて來たといふことは、確に見方に依つては、我が國民を戒むべき一つの天譴であつたと思はれるのであります。現在の空氣が、さうした道を再び迎るのではないかと思はれる點が、幾多見受けられるのでありますことは、寔に遺憾千萬のことと思ふのであります。

假りに最近に於ける贅澤品の輸入を見るのに、洋酒類の輸入は、昭和八年に百五十萬圓餘であつたものが、昭和九年には百六十萬圓に上り、昭和十年に於ては正に二百四十三萬圓を突破してゐるのであります。その他化粧品或は寫眞機その他の贅澤品等の輸入を見るのに、又々大正十二年の轍を踏むのではないかと、疑はれるものがあります。

こゝに於て私は、國內情勢といひ、對外的關係といひ、日本の現在は、數年前に比して確に超非常時であると斷言しても憚らないのであります。敢て私が時は非常時、人は享樂と痛

嘆する所以亦こゝにあるのであります。斯くの如く、國難將來に來んとするの時に於て、斯かる世相の動きを見るといふことは、誠に悲しむべきことであつて、これは實に我々人類が、人としての生活の目標を、誤つてをる結果に外ならんと思ふのであります。

人の生活には物質生活と精神生活がある。即ち物質生活は必要生活で、衣食住のことでありますが、この生活は我々人間が生きる爲に、なくてはならない必要な生活であるといふことは、當然であります。併し我々人間の生活は、單にこの必要生活のみに依つて生きるものでなく、我々には自己の人格を陶冶すべき大切な價值生活がある。それは即ち精神生活であつて、道徳であるとか、藝術であるとか、宗教であるとかの生活に依つて、我々は人としての價值を高めて行かねばならぬのであります。

以上は單に私が統計の上から見て感じました世相の動きであります。常に社會事業、社會教化等の事業に掌つてゐるものとしましては、絶えず之等の統計に細心の注意を拂ひ、徒に無軌道的に趨らんとする世道人心に對して警告を與へ、各種の社會施設も亦之に立脚して計畫せられねばならぬものと信ずるのであります。

昭和十年度の直接税負擔額

總督官房 文書課

總數

朝鮮に於ける昭和十年度の直接税負擔狀況（法人を除く）を年度内の調定額に就て觀ると、全鮮總負擔額は六千三百九十四萬七千四百七十七圓で、昭和十年末現住戸口を以て之を除した全鮮平均負擔額は一戸當十五圓四十三錢五厘、一人當二圓九十二錢一厘となつて居る（以下平均負擔額は税額を其の年末現住戸口を以て除したるものである）。最近十箇年間の負擔の輕重を示すと次の通であるが、十年度が減少を示して居るのは法人の負擔に係るものを包含せざる爲である。

年次	年末現住		平均負擔額
	戸數	人口	
昭和元年	三,六二四,五四〇	一,九一〇,九〇〇	一戸當一八圓
	一九,一四〇,九〇〇	五,二七二,七四七	一戸當一八圓
			一戸當一八圓

昭和二年	三,六八,〇〇九	一九,一三七,六九八	五六,〇四七,〇〇〇	一五,〇四九〇二・九八
同 三年	三,六六,八八九	一九,一八九,六八九	五五,三九五,二〇〇	一五,〇七三・二八八六
同 四年	三,六六,二一八	一九,三三,〇〇六	五七,四六五,四二二	一五,〇六九六・二九七二
同 五年	三,八二,五五四	二〇,二五六,五五三	五九,五八三,八六七	一五,〇五九一・二九四一
同 六年	三,八三,一九九	二〇,二六二,九八八	五九,一〇八,七三三	一五,〇四三八・二九七七
同 七年	三,九三,二二三	二〇,五九九,八六六	五九,一〇六,六八〇	一五,〇一三・二八七一
同 八年	三,九五,〇四九	二〇,七九一,三三二	六三,七八一,二二二	一五,〇八八五・三〇九
同 九年	四,〇〇,六〇六	二二,二二五,八七	六六,九九八,四四七	一六,七〇〇三・一七〇
同 十年	四,一四,九六六	二二,八九一,八〇	六三,六四七,四七七	一五,四三三・二・九二

道別

昭和十年度の直接税負擔額を道別に就て觀ると、負擔額は京畿の千六十九萬圓が最も多く總額の一割六分を占め、遙に

降つて慶南・慶北の各七百萬圓臺、全南の六百萬圓臺、忠南・黃海・全北の各四百萬圓臺が順次之に亞ぎ、咸北の百七十三萬圓が最も少ない。

平均負擔額は京畿の一戸當二十三圓八十三錢五厘、一人當四圓五十九錢一厘を最高として忠南・慶南・慶北・全北・忠北は何れも全鮮平均負擔額以上、其の他は黃海・平南・全南・咸北・平北・咸南の順位で、江原の一戸當十圓十五錢一厘（最高たる京畿の四割二分）、一人當一圓八十八錢九厘（京畿の四割一分）が最低である。

道 別	年 末 現 住		稅 額	平均負擔額
	戶 數	人 口		
總 數	四、四四、九六六	三、八九一、八〇〇	六、九四七、四七四	一五、四三三、〇二二
京 畿	四八、九三二	二、三三〇、五七〇	一〇、六九二、九三三	二二、八三三、四九九
忠 北	一六九、七三二	九三、四七〇	二、六四五、一三三	一五、五六六、二八九
忠 南	二七一、八五五	一、四九九、六〇〇	四、四四〇、二六六	一八、一七三、〇六一
全 北	二九八、一一一	一、五五三、八七〇	四、六三三、一〇四	一五、五四八、三〇七
全 南	四七八、六〇〇	二、四九〇、六〇〇	六、三三六、三三六	一三、三〇〇、二六四
慶 北	四六四、七二四	二、四六九、一〇〇	七、四九九、〇七六	一六、一三三、〇三七
慶 南	四三三、六五五	二、一九一、五二二	七、五六七、九七〇	一七、九九三、四六二
黃 海	三二四、三八八	一、六二九、七八八	四、六六一、二〇〇	一四、九九九、二八九

道 別	平 南	平 北	江 原	咸 南	咸 北
平均負擔額	三六八、三五五	二九二、二七〇	二八四、六三〇	二八三、七九〇	一四四、二八〇
一人當	一、四〇九、〇三一	一、六七〇、六五五	一、五三九、三五七	一、六〇三、三五五	七九二、九三三
一戸當	三、九九九、三三〇	三、三六三、四八八	二、八八九、四三九	三、〇五三、九四四	一、七三四、九九九

内 鮮 外 人 別

昭和十年度の直接稅平均負擔額を内地人・朝鮮人・外國人別に觀ると内地人が最も高く平均一戸當八十五圓九十八錢三厘、一人當二十一圓三十四錢二厘、朝鮮人は平均一戸當十二圓八十一錢四厘、一人當二圓四十錢三厘、外國人は平均一戸當三十二圓三十四錢三厘、一人當七圓三十五錢三厘で、内地人に對し朝鮮人は一戸當一割四分、一人當一割一分、外國人は一戸當三割七分、一人當三割四分の負擔となつて居る。而して之が道別では内地人は全北を最高として忠南・忠北之に亞ぎ、咸南が最低で咸北は之に亞いで低く、朝鮮人は京畿が最も高く忠南・慶北之に亞ぎ咸北・咸南は低い方である、外國人は京畿を最高として慶北・全北之に亞ぎ咸南・咸北は他道に比し特に低い。

道 別	内地人			平均 負 擔 額			朝鮮人			外國人		
	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當
總 額	八五・九六三	三・三三四	二一・八四	二・四三	三・三三三	七・三五三	八一・七九	一・九〇〇	一八・七九六	三・五六九	六・七七七	一一・六七二
京 畿	一一・八〇五	三・七〇	一四・一五四	二・六九	三・三九〇	九・八九九	一一・〇〇	一・〇〇	一八・七九六	三・五六九	六・七七七	一一・六七二
忠 北	一一・八〇五	三・七〇	一四・一五四	二・六九	三・三九〇	九・八九九	一一・〇〇	一・〇〇	一八・七九六	三・五六九	六・七七七	一一・六七二
忠 南	三三・四五六	三・〇六三	一五・六四七	二・八七六	三・七五七	一〇・三三	三〇・六八九	三・三二七	一三・一〇八	二・三三六	四・五〇	一〇・八八四
全 北	一一・〇〇	三・三二七	一三・一〇八	二・三三六	四・五〇	一〇・八八四	一一・二七五	二・六八六	一三・一〇八	二・三三六	四・五〇	一〇・八八四
全 南	八・九・五三三	二・五五	一四・二〇五	二・六七七	五・〇三九	一五・〇四三	八・九・五三三	二・五五	一四・二〇五	二・六七七	五・〇三九	一五・〇四三
慶 北	八・九・五三三	二・五五	一四・二〇五	二・六七七	五・〇三九	一五・〇四三	八・九・五三三	二・五五	一四・二〇五	二・六七七	五・〇三九	一五・〇四三
慶 南	八・九・五三三	二・五五	一四・二〇五	二・六七七	五・〇三九	一五・〇四三	八・九・五三三	二・五五	一四・二〇五	二・六七七	五・〇三九	一五・〇四三
黃 海	七・三・四六四	一・九・八九	一三・八八一	二・八七七	三・九四二	八・七九六	七・三・四六四	一・九・八九	一三・八八一	二・八七七	三・九四二	八・七九六
平 南	八・六・一九六	二・〇・七二	一三・三八三	二・三四〇	三・三三六	六・六八九	八・六・一九六	二・〇・七二	一三・三八三	二・三四〇	三・三三六	六・六八九
平 北	六・一・八八一	一・八・六二	九・六四五	一・七三六	二・五七三	四・八八一	六・一・八八一	一・八・六二	九・六四五	一・七三六	二・五七三	四・八八一
江 原	八・三・三四	三・三三四	九・一四一	一・六九二	三・六九	七・八二四	八・三・三四	三・三三四	九・一四一	一・六九二	三・六九	七・八二四
咸 南	五・三・三六	一・五・三九九	八・六四四	一・四九七	二・五九五	三・四二八	五・三・三六	一・五・三九九	八・六四四	一・四九七	二・五九五	三・四二八
咸 北	六・〇・四八一	一・六・三三	七・七三	一・五〇〇	二・四二	三・四二九	六・〇・四八一	一・六・三三	七・七三	一・五〇〇	二・四二	三・四二九

昭和十年度の直接税負擔額を府に就て觀るに、負擔額は千

府 別	年 末 現 住			稅 額			總 額			平 均 負 擔 額		
	戶 數	人 口	稅 額	一戸當	一人當	總 額	一戸當	一人當	内地人	朝鮮人	外國人	
總 數	三,一〇,一八〇	一,五二,一九一	一〇,八八,三七五	三・七七八	七・一一	一八,二七三	一八・六二四	一八・九三二	三・〇〇四	五・八六三	九・九四三	

八十一萬八千三百七十五圓で全鮮總負擔額の一割六分九厘に當り、其の平均負擔額は一戸當三十三圓七十八錢八厘、一人當七圓十一錢一厘で全鮮平均負擔額に比較して可成過重である。

平均負擔額を府別に觀ると、京城が最も高く一戸當五十一圓六錢五厘、一人當十圓四十六錢三厘を負擔し、之に亞ぐ開城は一戸當四十圓三十八錢一厘、一人當八圓二十六錢二厘で其の他の十五府は何れも府平均負擔額に達せず大邱・馬山・釜山・平壤・仁川等の順位で、木浦・大田・新義州等は低い方である。而して之が内地人・朝鮮人・外國人別では内地人は平均一戸當八十一圓二十七錢二厘、一人當十八圓六十一錢四厘、朝鮮人は平均一戸當十八圓九十六錢二厘、一人當三圓九十錢四厘外國人は平均一戸當五十三圓八十六錢二厘、一人當九圓九十四錢二厘の負擔で、内地人の負擔に對し朝鮮人は一戸當二割三分、一人當二割一分、外國人は一戸當六割六分一人當五割三分に過ぎない。

京	八、三三三	四、四、四、四、四、三九、三〇八	五、一〇六六	一〇、四四三	八〇、六八九	一八、五三一	三、五三三	七、二六七	八九、〇九〇	一四、二八八
城	一、七三三	八〇、四三〇	四八、七〇六	二六、〇〇〇	六〇、四	一〇、四四七	二四、五八	一〇、〇七五	二、一五四	七六、三三七
仁	二、四三三	五四、四七七	四四九、九三〇	四〇、三八一	八、二六二	一八、〇六六	三八、八八九	七八、五五	一六、〇六八	三一、五六二
川	七、四四七	三六、三九九	一六三、七四七	二二、八五四	四、四七三	六、八九六	一四、七六	六、七九六	一、三三八	三三、四四一
開	七、四四七	三六、三九九	一六三、七四七	二二、八五四	六、二四七	九五、一七一	二、〇七一	六、二五〇	一、三五四	七、八八二
大	八、九〇〇	四、〇七	二五、六、六五	二八、八三四	六、二四七	九五、一七一	二、〇七一	六、二五〇	一、三五四	七、八八二
田	八、九〇〇	四、〇七	二五、六、六五	二八、八三四	六、二四七	九五、一七一	二、〇七一	六、二五〇	一、三五四	七、八八二
群	八、三三七	四〇、五九三	二〇、三三四	二四、六三	四、九八四	五五、一四	一三、四四	一七、二七七	三、五五	三三、五四九
全	三、〇四	五九、〇四六	二二、三三	二、〇八	四、七八四	一〇〇、九二	三、六四	七、三九	一、六三〇	六、九四二
州	二、一〇	五二、六七四	三、七、五元	三三、〇二	五、〇七九	七、一〇	一五、八八三	三、三〇三	二、四一九三	六、四八〇
木	二、一〇	五二、六七四	三、七、五元	三三、〇二	五、〇七九	七、一〇	一五、八八三	三、三〇三	二、四一九三	六、四八〇
光	二、一〇	五二、六七四	三、七、五元	三三、〇二	五、〇七九	七、一〇	一五、八八三	三、三〇三	二、四一九三	六、四八〇
大	二、一〇	五二、六七四	三、七、五元	三三、〇二	五、〇七九	七、一〇	一五、八八三	三、三〇三	二、四一九三	六、四八〇
邱	二、一〇	五二、六七四	三、七、五元	三三、〇二	五、〇七九	七、一〇	一五、八八三	三、三〇三	二、四一九三	六、四八〇
釜	三、三三三	一、〇、七七一	一、二四九、三三	二九、九六六	六、三三七	七六、二六	一七、七三	五、六八四	一、一五七	四、三九
山	三、三三三	一、〇、七七一	一、二四九、三三	二九、九六六	六、三三七	七六、二六	一七、七三	五、六八四	一、一五七	四、三九
山	六、五元	二九、八八	一九七、九二	三〇、三四	六、六三一	九四、七四	三、五五九	一四、四七五	三〇、九八	四、八五五
馬	六、五元	二九、八八	一九七、九二	三〇、三四	六、六三一	九四、七四	三、五五九	一四、四七五	三〇、九八	四、八五五
山	六、五元	二九、八八	一九七、九二	三〇、三四	六、六三一	九四、七四	三、五五九	一四、四七五	三〇、九八	四、八五五
平	三、七、七八	一七、七、四六	一、〇八、六三	三九、四〇二	六、三六一	九九、七五八	三、五五九	一八、一四七	三、八三三	五、四八四
壤	三、七、七八	一七、七、四六	一、〇八、六三	三九、四〇二	六、三六一	九九、七五八	三、五五九	一八、一四七	三、八三三	五、四八四
鎮	一〇、六三	四八、三四	二四、三九	二二、六六〇	四、九七四	一〇、七〇	三、三三四	一〇、六六二	二、三八八	五、八三
南	一〇、六三	四八、三四	二四、三九	二二、六六〇	四、九七四	一〇、七〇	三、三三四	一〇、六六二	二、三八八	五、八三
浦	一〇、六三	四八、三四	二四、三九	二二、六六〇	四、九七四	一〇、七〇	三、三三四	一〇、六六二	二、三八八	五、八三
新	二、一、五五一	五、三、一〇	二、五、五八九	三三、二五	四、七〇六	七、一、四五四	一、一、四四五	二、四九九	一、八、四四八	二、九九
義	二、一、五五一	五、三、一〇	二、五、五八九	三三、二五	四、七〇六	七、一、四五四	一、一、四四五	二、四九九	一、八、四四八	二、九九
州	二、一、五五一	五、三、一〇	二、五、五八九	三三、二五	四、七〇六	七、一、四五四	一、一、四四五	二、四九九	一、八、四四八	二、九九
元	二、一、五五一	五、三、一〇	二、五、五八九	三三、二五	四、七〇六	七、一、四五四	一、一、四四五	二、四九九	一、八、四四八	二、九九
山	二、一、五五一	五、三、一〇	二、五、五八九	三三、二五	四、七〇六	七、一、四五四	一、一、四四五	二、四九九	一、八、四四八	二、九九
咸	一〇、五〇〇	五、三、一〇	二、五、五八九	三三、二五	四、七〇六	七、一、四五四	一、一、四四五	二、四九九	一、八、四四八	二、九九
興	一〇、五〇〇	五、三、一〇	二、五、五八九	三三、二五	四、七〇六	七、一、四五四	一、一、四四五	二、四九九	一、八、四四八	二、九九
津	二、一、二一〇	五、〇、八八	二、七、四、三〇	二、四、四七三	五、四七七	八、五、六三九	二、〇、四七	六、五、五六	一、四、三四	七、七、五二

郡・島

昭和十年度の直接税負擔額を郡島に就て觀るに、負擔額は五千三百十二萬九千二百圓で全縣總負擔額の八割三分一厘を占め、其の平均負擔額は一戸當十三圓八十九錢七厘、一人當二圓六十錢八厘である。

平均負擔額を道別に觀ると、忠南の一戸當十八圓六錢八厘、一人當三圓三十三錢三厘を首位として慶南・京畿・忠北・慶北・黄海・全北は順次之に亞ぎ、爾餘の各道は何れも郡島平均負擔額以下で、最も低いの咸南の一戸當九圓四十五錢六厘、一人當一圓六十五錢二厘である。更に之が内地人・朝鮮人・外國人別では、内地人は平均一戸當九十圓八十七錢五厘、

朝鮮統計の改善に就て

全羅南道統計主任

李 心 勳

統計が國家又は地方團體の施設の指針となるのみならず、又學術研究の基礎たるべきことは今更喋々を要しない。今や

社會の進運に伴ひ、益々統計が重要視せられ、政治上、經濟上、社會上、各般の施設並に民間各種の企業計畫は其の基礎を統計に置かざるものなく、更に進んで吾人の日常生活にも統計を用ふるにあらざれば満足されざる様になり、統計の需要範圍は著しく擴大せられ、社會の各方面より最も權威あり正確なる統計を要求せらるゝに至つたのである。故に所謂非常時局に於て局に當る者は益々力を統計の事に致し、堪能の吏員を之に配置し以て統計の進歩改善を圖るべきは勿論、又之が實務に當る者は單に計數を列ね體裁を整ふるを以て能事終れりと爲さず、調査の正確と迅速を期し、眞に權威ある統

計の作成に努力すべきである。就ては二、三の事項に付敢えて愚論を陳べ大方の御一考を望む次第である。

一 統計機關の整備

(一) 本府に専門機關を設くること

本府に於ては大正十年庶務部統計課(大正四年總務部統計課として設置され大正七年庶務部統計課となる)を擴張して調査課に改めた。當時本府は勿論地方に於ても統計に對する熱意が俄かに昂まり、統計は大に改善進歩の機運に向ひつゝあつたことは事實が明かに證明してゐる。即ち本府に於ける統計展覽會の開催、統計講習會の開催、各道統計主任の會合各道に於ける統計展覽會の開催、邑面統計功績者の表彰等々

其の他統計に關する各般の施設事項は大に將來を囑望すべきものがあつたのである。然るに大正十三年行財整理の結果、右調査課が廢止の悲運に遭遇したことは今尙遺憾に堪えない調査課の存廢を以て直に統計の如何を論ずべきではないが、之が廢止となるや、盛に昇りつゝあつた統計熱が一時に冷却したかの感がないでもなかつたのである。然るにこゝ數年來又一般に統計の重要性が頓に認識され、統計の刷新改善が叫ばれて來たことは誠に喜ばしく思ふのである。そこで私はこの機運に乗つて速かに本府に統計課或は調査課（一般統計、國勢調査、資源調査其の他總ての調査事務を掌る）の新設あらんことを望むのである。係としても課と云つても、實質に於ては大差はない譯であるけれども、先づ統計に重きを置くこと云ふことを一般人民に知らしむる意味に於ても中央に専門機關として、一分課を設けた方が適切ではないかと思ふ。從來地方に於ける統計調査事務の重復混雜するのは各局部間に統一連絡なく、個々獨自の立場や必要から各種の調査を企て、地方廳に對し過當なる事務を命ずるに基因するものが多いやうである。統計課をして専ら中央統計行政の中樞たらしめ、各局部及地方廳の統計事務統一を圖り、十分其の機能發揮

せしめ、各般調査の源泉たらしむべき必要は、今更めて茲に喋々する必要もないと思ふのである。

(二) 各道に統計係を特設すること

本府に統計課乃至調査を特設すると共に、各道知事官房に統計係を設置し、各課に分散せる各種統計事務（資源調査事務を含む）を知事官房に整理統一することは、事務の統制を圖る上に於て最も必要のことと信ずる。之は別に經費人員の増加を要するものでなく、現に各課に在る統計事務と人員とを統一する丈の問題であるが、其の利便とする主なる點を擧ぐれば、

- (イ) 各課にある統計取扱者の總數より人員を減じ得ること
 - (ロ) 調査方法一定し、重復調査の弊害なきこと
 - (ハ) 指導監督の便ありて、報告期限恪守せらるゝこと
 - (ニ) 各關係表の連絡對照に便なること
 - (ホ) 諸報告書様式等を一定し得ること
 - (ヘ) 特殊調査を施行し得ること
 - (ト) 諸消耗品統一して諸物品節約になること
 - (チ) 諸統計文書配付の手續を省くこと
- 等である。

(三) 本府及各道府郡島邑面に専任統計職員を設置
 すること

本府に統計官(國費奏任)(現に統計官一人あるも國勢調査事務の専屬である)、道には統計主事(道費奏任待遇)(小作官の設置の如く大きい)を、各道府郡島に統計官補(國費判任)又は統計主事補(道費判任)の如き統計専任の官職を置き、一般統計は勿論國勢調査、資源調査事務をも取扱はしめ、中央よりする諸調査の命令照會を處理し、併せて各地方の事情に照らし適切なる特殊の調査に當らしむると共に、各邑面に専任の統計調査員を置き、正確なる統計資料を蒐集し、權威ある統計を作り出したものである。

(四) 各町洞りに統計調査員を設置すること

各町洞りに統計調査員を設置することの必要は、昭和四年本府主催各道農業技術官會議に於て協定したるに依つても充分窺知することが出来る。協定はしたるもの、未だ實施されな
 いのは種々事情もあらうが、速かに實施されたいものである内地に於ては各大字、小字に産業統計調査員を設置し、其の
 手當は國庫より補助されてゐる。朝鮮に於ては昨年中僅か米
 の生産高及現在高調査の爲、府邑面職員を該調査員に爲した

位のものである。そこで尙一層之を擴充して、各町洞りに統計調査員を置き、以て各種統計の單位調査の正確を期するは緊要のことと思ふのである。

二 調査方法の改善

調査方法の改善に就いては其の方法多種多様あるが、其の主なるものを擧ぐれば

- (一) 人口動態統計を小票制に改め中央集査とし、
 年末現在人口表を廢止し推計人口を算出公表
 すること

人口動態調査(婚姻、離婚、出生、死産、死亡)は戶籍行政の結果を利用すべきものであつて、死産を除いては凡て戶籍法に基く届書及其他の書類又は戶籍簿に依り、死産は埋火葬認許證の交付を爲したるものに依り、材料を蒐集し、これに依つて統計を作成すべきものである。所が現行報告例に依ると婚姻、離婚及出生は年末に於て府邑面職員が主として調査員となり、人口小票を以て實地調査を行ひ、死亡及死産は居住者の届書其の他關係書類に依り材料を蒐集して、所定の様式に記入報告を爲しつゝあるが、統計智識の未だ幼稚なる

今日に於て、調査の粗漏は兎も角も、重複脱漏は免れまいと思ふ。故に之が調査方法を内地の制度に倣ひ、小票式に改正して發生事項其の儘を小票に認めしめ、之を本府に於て取纏め整理し統計表を作成する所謂中央集査の方法にすることは權威ある統計を作成する上に於て、極めて緊急のものと言はねばならぬ。

次に朝鮮に於ても既に大正九年の臨時戸口調査を始めとし國勢調査を三回も實施してゐる今日なれば、現行の年末現在現住人口調査を全廢し、右國勢調査人口を基礎として推計人口を公表することに改められんことを切望して已まないものである。

(二) 各種統計(殊に産業統計)の基本調査を施行すること

本道は今より二十四年前即ち大正二年度に於て、各種統計の基本調査を實施したことがあるのみである。元來基礎の確實ならざる數字を以て其の増減を論ずることは、甚だ危険千萬に思ふ。故に權威ある統計を作製するには、少くとも三年又は五年置きにセンサス式に全鮮一齊に基本調査を施行し、統計の基礎を確立せねばならぬ。一時に多額の經費を掛け大

々的の調査が出来ないとすれば、毎年重要なるものから數事項づゝ施行するのもよからうと思ふのである。

昨年の第一回、第二回の米豫想報告の公表を見て、特に基本調査の必要を痛感したのである。何故なれば米穀生産高並現在高調査要綱の定むる新調査方法に依るものと、従來の調査方法に依るものとの間に於て、第一回報告に於て四、四一六、一八三石、第二回報告に於て四、六二六、〇三五石の差があるが、何れも新調査では増收となり従來の調査は減收となつてゐる。之を實際の増收でなく假に調査上の増收であるとするれば、結局従來の調査が不完全であつたことを物語るものと思ふである。

(三) 米麥等の收穫高は坪刈を勵行すること

農産物の收穫高を調査することは最も大切で、就中米麥等は農業生産統計の樞軸をなすものであつて、其の多寡は直接間接に吾人の日常生活に影響を及ぼし、又各般施設計畫の基礎資料となるのである。そこで農産物收穫高の調査方法としては、只單に土地臺帳の面積から作付面積を推定したり、又は事實に根據をおかず段當收量を見積つて、收穫高を算出するのは、不確實なる方法であるから絶対に避けねばならぬ。昔

通に考へらるゝ便利な方法は、一定の調査票を各農作者に配

付して記入申告せしむるか、又は調査員に於て一定の調査票
又は帳簿を携帯して、各農作者に付質問の上記入するかであ
る。何れにしても此の場合には自府邑面のものと、他府邑面
のものとは區別して調べなければ、當該府邑面の收穫高を算
出する事が出来ない。又此の方法は各農作者がよく統計調査
を理解し、課税其の他の不安から虚偽不實の申告をする恐れ
がなく、實收高に付ても正確な觀念を持つて居る場合には最
も便利で、且つ正確な數字を得る望みがあるが、現下の如く農
作者が自分の收穫高を正確に知らず、又課税其の他の不安に
依つて虚偽不實の申告を爲すもの多き場合には、此の方法を
採用しても、實績を擧げ難いのである。故に米麥等主要農作
物に付ては、府邑面は各農作者に就き訪問調査を爲し、之を
取纏め府邑面の總收穫高を算出するの外、別に坪刈を實施し
之に依り府邑面の總收穫高を算出して、右訪問調査の結果と
比較審査の上收穫高を決定して貰ひたいものである。

米に付いては昨年より米穀生産高並現在高調査要綱の定む
る所に依り坪刈を實施することになつたが、麥其の他の主要
農産物も米に準じ坪刈を實施して調査の正確を期せられたい

のである。

(四) 統計講習會

府郡島邑面職員に對する統計講習會の開催は、統計智識の
涵養上又は統計思想の鼓吹上緊要なるのみならず、調査方法
の統一を圖る上に於て最も効果あるものと信ずる。講義は可
成理論を避け、實地指導を主眼として統計の必要、現行報告
例及其の様式の解説、單位觀察の方法、材料蒐集整理の方法
製表の方法、統計の活用等に付講述するを適當と思ふ。

三 統計經費の計上

(一) 道費及府邑面費豫算に統計調査經費を計上す ること

道費及府邑面費豫算に統計調査經費の計上が見えないのは、
斯種事業を積極的に獎勵施設せざるに基因するものと云はざ
るを得ない。調査費を要する、宣傳費も要する、其の他相當
の經費を要することは喋々を要しない。然らば毎年道費及府
邑面費豫算に相當の經費を計上し、組織的の統計調査を實施
すべきは勿論、統計思想の普及徹底を圖り、以て正確なる統
計を作り出したいためである。

四 統計思想の普及

統計思想の普及を圖る方法としては種々あるべしと雖、現下の状態に鑑み左記事項を適當と認めるのである。

(一) 統計講演會

道府郡島に於て統計講演會を開催し、道府郡島邑面の關係職員及區長、青年會員其の他有識者を集め、内地又は本府より其の専門の講師を招聘し、講演を爲すことは、統計思想の普及上前項に於て述べたる統計講習會の開催と相俟つて、大に効果あるものと思料する。

(二) 統計展覽會

本府又は道は統計圖等を用意し、本府は各道を、道は各府郡島を巡廻して統計展覽會を開催し、一般の觀覽に供し、統計の趣味と其の必要なる所以を感得せしむることは、統計思想普及上効果顯著なるものとと思料する。

(三) 統計活動寫眞の映寫

統計講演會又は統計展覽會開催の機會を利用し、統計活動寫眞を映寫して一般の觀覽に供することも、統計思想普及上多大の効果あるものと思料する。

(四) 統計標語及唱歌類の印刷配布

統計の標語及唱歌類を印刷し、所屬官署、邑面、學校、其の他一般に配付することは、統計思想普及の一助とならうと思ふ。尙統計唱歌を小學校及普通學校に於て教授することは不知不識の内に統計的智識注入となるのみならず、生徒を通じて各家庭に統計思想を普及する結果ともなり、其の効果鮮少なざらるものありと思料する。

(五) 普通學校讀本中に統計の學課を挿入すること

初等學校時代より統計的智識を涵養するは計數教育の一助たるのみならず、國勢調査、家畜調査、勞働調査等の場合の如き一般國民として統計を心得置くの要あり、延ては生徒を通じて各家庭に統計の宣傳を爲し、又は家畜調査の如き實地に生徒をして之が調査に従事せしむる場合も生すべきを以て常に統計的常識を養成し置くの要緊なるものあるを認むる

(六) 各種會合の利用

邑面に於ける協議會及區長會議、各學校に於ける學藝會、父兄會、母姉會、諸儀式等機會ある毎に之が利用に努め、適當なる統計表、統計圖を公衆の見易き個所に掲げて觀覽せしむる外、時々統計に關する挿話を試みる等は、公衆の統計的

觀念を涵養する一方法であると思ふ。

(七) ポスター其の他印刷物の配布

統計宣傳用ポスター、統計年報、道勢一班、府郡島勢一班、邑面勢一班等の如きものを毎年印刷配付して、迅速に新しき統計を一般に提供することは、統計思想普及又は之が利用上多大の効果あるものと意料する。

五 事務檢閲の勵行

近時府郡島面に於ける統計事務の改善進歩は、全く昔日の比ではないけれども、今尙單位調査の方法、製表及内容の整理統一、報告期限の勵行等に關し遺憾の點が尠なくない。尙近來行政各廳の事務は全面的に膨脹し、殊に農山漁村振興計畫の擴充に伴ふ府郡島面の事務は時々刻々と激増し、勢ひ統計事務の處理は形式に流れ、根據のない机上達觀を以て資料を整へんとする傾向あるは、甚だ遺憾とする所である。之が改善刷新を圖るには統計事務當務者の智識の涵養に努め一面統計事務の檢閲規程に依り取扱の實況を檢閲し、嚴密に指導することが最も効果あるものと信ずる。

檢閲は所定の通告知事は毎年其の所轄官署の三分の一以上

に亘り、郡守及島司は管内總邑面數の二分の一以上に亘り、統計主任若は其の他統計事務擔任者をして實地指導を主眼とし、形式的の檢閲を避け親切丁寧に教導することを希望する。

六 統計職員の優遇

統計事務は比較的地味であり、非奏功的なるのみならず、専門智識と特殊技術とを要するを以て、一般に之が事務に従事するを好まざるの傾向がある。現に統計主任の如きも其の異動頻發し、甚だしきは一箇年に數名の更迭を見る向もある尙從來統計は普通事務の片手間に之を爲すの感を懷き、比較的輕視する感がなきにしもあらずである。従つて一般事務に比し進歩遅れ勝にあるのも、故がないものとは思はない。故に此の際他の事務と同様の進歩の域に達せしむるには、特別の努力と獎勵の方法とを講ずるにあらざれば、其の目的を達し難い。之が手段として、統計職員中成績優良なる者に對し特別手當を支給するか、或は邑面統計事務功績者表彰規程に依り之を表彰する等、物質、精神兩方面に亘り優遇するを適當なる方策と信ずるのである。

統計報告用紙の共同印刷に就いて

道府郡島各廳並びに各邑面事務所御申込に係る統計報告用紙の共同印刷に關しては、最初年内完納のお約束の處始めてのこととして不馴れの點もあり、且つ偶々印刷所移轉の混雜の爲思ひの外納入遅延し、そこで已むを得ず勝手乍ら報告期の逼迫せるものより逐次分納のことに御諒解を願ひ、係員數名印刷所に詰切り晝夜兼行大晦日の夜に至る迄督勵に努めました、尙納入の時期を失し、多大の御迷惑をかけたことは誠に申譯ございません。

右の如き状態にありましたので、用紙保存函其の他に多少の奉仕方法を考へておりましたが遂に實現するの暇なく、又「冊」を以て御申込のものも分納の爲製本すること能はず、結局「冊」の分は冊に相當する所要枚數（一冊に付各様式一枚宛）を一括し「枚」の分同様の取扱を以て納入するの餘儀なきに至り、重ね々不行届の段伏して御宥恕を願申します。

今後はこれをよき體驗として、納入の入念と迅速に萬全を期するは勿論、紙質組版の改善、使用保存上の利便に漸次考案を重ね、以て御使用者各位の御満足を得んことを深く期してゐる次第であります。就いては御使用上御不便御不滿の點がありましたら、細大となく御申送り下さるやうお願申上げます。

以上略儀乍ら誌上を以てお詫旁々。

昭和十二年一月

朝鮮統計協會

話の塵

大義生

百萬長者の主婦代理

新聞廣告の豪華版「百萬長者の主婦代理募集」に、三十五歳から四十歳迄位の女學校出の婦人二十餘名が、即日押寄せたと云ふのを聞いて、先方の人格も何も判らぬのに淺墓にも程があると非難するのは早計だ。此の世智辛い世の中だもの、問題は主婦代理の意義如何にある。試験結婚の相手とかお妾とかなら大いに考へものだが、高級家政婦なら文句はあるまい。之を廣告價值から見ると、百萬長者の魅力は言はずもがのだが、妻女とも、家政婦とも云はずに、主婦代理とカムフラージュしたと

ころに頭の上さがある。

明年度あたり、京城府に新設豫定と傳へらるゝ婦人會館では婦人の教養、結婚相談等と共に女中の養成もやるそうだが、女中養成所の看板では、生徒の募集は困難だらう。主婦代理がいけないなら、せめて家政婦養成所に昇格して欲しい。

富山の藥屋さん

黒の詰襟にダブ／＼のズボン大きい鞆を提げた七十歳位の元氣な老人、どこ役所へでもズカ／＼這入り込んで、イキなり課長や主任の前に賣藥をつかみ出し「此藥飲んで見さつしやれ」と無遠慮に賣藥の効能を述べ始める。此の老人仲々の愛嬌者で、賣藥の宣傳を鼻歌交りでやつてござる。今も農林局長室で一つ唄つて來ましたワイ」など、得意の洗練された美聲で「木會のナー、ナカノリサン、木會の御嶽さんは……」と執務中もかまはず平氣でやつてのける。

知らぬ人は狂人かと驚く位の

奇人振りだが、此の人こそ富山縣の有名な篤農家で、紫雲英栽培の權威者として、内地各府縣はもとより、朝鮮各道に於ける紫雲英の先生として多大の貢獻をした上坂傳次翁の一面である翁は郷里では村一番の資産家で、村長も數回勤め、賜儀に召された光榮も幾回とか、家に歸れば立派な豪農の樂隠居で收まつて居られる身分だが、性來の働き好きで、紫雲英普及の仕事も一先づすんだが、旅の面白さノンキさが忘れられず、名物富山の賣藥屋になつて、日本全國を茶目氣タツプリに行脚して歩くのだと述懐してゐる。

いつか商賣の手傳ひをしてやつたら、歸る時そつとポケットに何か入れて呉れた。後で見るとキレイな盃だつたが、それが家へ持ち歸るわけにもいかず、と云つて机の上にはうり出してもおけぬ代物で、一寸持てあま

した事だつた。

太陽の黒點

昨年夏の冷濕は近年稀だつたが、其の當時新聞紙上に、太陽の黒點がどうかで、此の冬の嚴寒は必然的だと豫報した専門家もあつたやうだが、さて此の頃の暖かさはどうしたものか、京城では正月の御馳走が三ヶ日持たず、漢江も薄氷でスケートも危険で出来なかつたと云ふ。「太陽の黒點と地球の氣候との相關」と云ふ六ヶ敷い問題の研究に没頭して、世界的に名聲を博した學者に、我が東京天文臺長關口鯉吉博士がある。此の人は今から二十餘年前朝鮮總督府の懇望で、韓國時代からの雜然たる民曆を近代的に統一整理する爲に、天文臺から引抜かれて渡鮮し、數年間仁川の觀測所に勤めた事がある。元京畿道知事松本誠氏とは一高時代からの交友で松本氏はよく大學時代の博士を擲擧して「君はあす取らう

飲もう」アストロノミー(天文學)だからいけないと云つてゐたと嘗て松本さんから聞いた事がある。

最近某誌のゴシップ欄に、博士が新宿あたりのおでん屋にトグロを巻いて、相客の職人衆あたりと世間話に興じてゐられるとあつたが、今を時めく天文臺長の榮職につき、世界の科學者關口ともあらう御仁が、相變らずの磊落な學者氣質には、一層頭の下る思ひがする。

人生は六十から

今議會に於ける濱田老の爆彈的質問演説は、恰も壯士白刃をかざして敵陣に突入するの概がある。特に寺内陸相に向つて投げつけた舌鋒の殺氣だつた鋭さ、之が七十歳の老人とはどうしても受取れぬ物凄さだ。

今は亡い齋藤實子爵が、昭和六年の秋全北井邑の内藏山を探勝された時のこと、地元では御

老體を案じて、登山用の籠を造つておいたが、七十に近い齋藤さんは杖もつかず、先頭に立つてドン／＼登つていく。途中で赤い實のついた植物の名を問はれた産業技手の金君、いつも山ばかり歩いてゐるくせに、フー／＼息を切らして「よく判りません」は餘程苦しそつた。商銀頭取朴榮詰さんと云へば巨人傳の一頁を飾るに足る堂々たる體軀の持主で、朝鮮切つての大名士だが、此の人の今は亡き嚴父は、全州の百萬長者で瘦軀鶴のやうな朴基順翁であつた或宴席で翁をとり巻いた一同が明日は御宅へ御伺ひして愉快に御馳走になりたいと申出ると、其の頃七十歳を超えたる翁の曰く「實は第二號がお産の爲に京城へ歸つてゐるから、彼女が歸つてからにしてくれ」にはさすがの一同、恐れをなして引さがつたものだ。但し之れは翁の諧謔に過ぎなかつたかどうかは

今でも疑問としてゐる。

翁の第二世朴榮詰さんが嘗て歐米視察團に加はつて世界一週しての歸來談に、「歐米視察は若し内にやらなくては駄目だ、何しる體力が續かぬからネ」と、蓋しエロ風景探見についての感想である。その昔、日露戰爭に、鎮南浦に上陸した我軍先發隊の案内に立つたと云ふ當年の勇士も、柄に似合はぬ弱音を吐いたものではある。

全北の吉村井州邑長は今年七十三歳、恐らく邑面長中でも最高齢者の方であらう。併も名儀ばかりの邑長ではなく、若い者も及ばぬ元氣と熟意とで、邑勢の發展に盡してゐる。今度も井邑鶴橋鐵道架設促進運動の急先鋒となつて、地方有志を引具して入京したものだ。

かつて宇垣大將が、「吉村君、キミの兵隊は何年だつたネ」との間に、昔床しい憲兵大尉の軍裝に、勳五等を帯びた吉村翁、

「十八年兵であります、スナイドル銃をかつた兵であります」「ホ、ー、すると俺より三年故參ぢやワイ」、愉快な會話ではないか。

役人恐惶時代

近頃の物價騰貴で、俸給生活者の臺所戦線大いに異状あり、京城下宿業組合では一割の値上を決議したとか、おでん屋で一寸一杯も一圓札一枚では恥をかき、京畿道では全鮮に率先して、新年度勿々、邑面職員臨時一齊増給を斷行するとは、さすがに／＼と大評判。

天下りの某軍役さん、近頃の好況にスツカリ悦に入り、美技數名を連れて、之れ見よがしに丸ビル、菊水、花月とカフェー廻り、御かげでたまに遊びにいつた若い連中、目指す美給は寄りつかず、「チエツ、ちと役人時代の事も思ひ出してみるがいゝ」は尤もな話だ。

昭和十一年官通牒第十四號に依る

報告例甲號改正の要點

總督官房文書課

時勢の推移法令の改廢等に伴ひ、朝鮮總督府報告例の内容は全般的に改正を要するものがあるが、昭和十一年に於いても諸種の事情から未だ別冊を改刷するに至らず、前年同様に十二月二十四日官通牒第四十號(官報號外)を以て別冊中一部補足、便宜其の取計を變更し、昭和十二年一月一日より之に據ることゝせられたが、右の内別冊甲號に付いて改正の要點を挙げ、主として道府郡島邑面に於ける當務者の御參考に資したいと思ふ。

尙本府事務分掌規程の改正に伴ひ、別冊各表中本府主務課名の訂正を要するものが相當あるが、これは實際取扱上の問題として新課名に依ることゝし、今回の改正からは省略された。それと從來注意事項中或る一項を削除し又は追加したる場合は、之に伴つて他の項の番號を繰上げ又は繰下げてゐるが、整理に當つて徒に煩雜を來すので、今回から削除の場合は該項を單に削り、追加の場合に最末項に追加してなるべく他の項に異動を及ぼさないやうにせられた。従つて注意事項中缺番號を生じたものが大分ある。

一 追加の部

年報三三六 製絲場臨檢査狀況表

昭和十年十一月一日より朝鮮製絲業令(制令第十一號)及び同令施行規則(府令第二百二十七號)施行せられ、道に於ても取縮上必要に應じ製絲業者に對し事務所、營業所、製造場、

倉庫其の他の場所に臨檢し、若しくは帳簿物件を檢査することゝなつたが、(制令第六條)、本號報告は之が臨檢又は檢査の狀況を毎年報告するものである。

二 削除の部

即報一五 災害復舊工事費概算表
本號報告は各道の豫算要求の申請書類と重

複するを以て、報告例としては之が報告を廢止せられた。

年報一四六 養 兔 表

本號の様式中、前半の兔の靜態に關する部分は年報第一一七號家畜及家禽表に編入せられ、後半の兔の動態に關する部分は年報第一一八號家畜増減表(舊表名牛馬豚種羊増減表)に編入せられた結果、自然本表は廢止せられるに至つたのである。

三 一部改正の部

(別 表) 道府郡島名順序

昭和十一年十月一日より從來の羅津邑が府となつた結果、報告例第五條に依る別表道府郡島名順序の表中に「羅津府」の一項が加へられた。

即報一〇 府邑會議員及面協議會

員選舉ニ關スル報告

昭和十一年五月二日府令第三十二號に依り府會議員の増員選舉に關し特例を設け、府の區域變更に因り府制第八條第五項但書の規定に依り府會議員の定數を増加したる爲選舉を行ふ場合、及び府制第十二條第二項の規定に依り右の選舉と併せて補闕選舉を行ふ場合に於て、道知事特別の必要ありと認むるときは總督の認可を受け區域を定めて選舉分會を設くることを得ることとなつた結果(同令第一條第一項)、本號報告中府會議員の選舉に關する各様式は、右の規定に依り選舉分會を設けて選舉を執行したる場合に在りては、選舉分會別に記載すべきこととせられた(様式一の注意三、様式三の注意二、様式五の注意四追加)。

即報一二 官公吏員職員犯罪報告

從來本號報告の範圍は、注意第一號に列擧せる「道、府郡島、道府邑面、邑面組合、學校費及學校組合の職員(警察官吏ヲ除ク)、道會議員、府、邑會議員、面協議會員、學校評

議會員並に學校組合會議員」の犯罪の外、「等」の字句から農會、水利組合、水産組合等の職員も本報告に包含するものと解せられてゐたが、右の「等」を削ることに依つて、本號報告の範圍は前に列擧せる内務局關係の公務員の犯罪に限定せられ、農會其の他の職員も本號報告から除外することとなつた。

尙水利組合職員の犯罪に付いては別に即報第二六號水利組合に關する報告があり、同號第三項に依り本號と同一の項目を以て從來通り報告すべきは言ふ迄もない。

即報二七 林野被害報告

林野の被害は迅速に之が對策を講ずるの必要ある場合が多いが、從來本號報告は之が資料として不完全なものがあり、今回報告事項及び注意の全般に亘つて更新された。尙其の従前と異なる要點は、報告事項の「七被害狀況」の項が新に加へられ、「八被害ニ關スル處置」の項(舊七)及び「九其ノ他參考ト爲ルベキ事

項」の項(舊八)が改正されたこと、及び注意事項の中第一號、第二號、第四號が改正され第三號、第五號、第六號、第七號が新に加へられ、従前の第三號が削除された點である。

年報八三 牛搾乳表(舊表名乳用牛表)

年報八八 山羊搾乳表(舊表名乳用山羊表)

從來の乳用牛表の様式に依れば乳用牛頭數として牝(搾乳頭數)を掲ぐるの外、牡(種牛頭數)をも記載したが、改正様式に依れば搾乳頭數として専ら牝を調査し、且つ其の年内に於て實際搾乳に供したるものに付き其の年末現在數を掲記することゝなつた(注意二改正)。従つて乳用種なるも年内に實際搾乳せざるもの、及び年内に搾乳せるも轉出斃死等に依り年末に於て當該調査區域内に現存せざるものは本調査より除外し、反對に年末現存の轉入牛にして當該調査區域内に於て實際搾乳に供せざるも、他の區域に於て年内に搾乳

したることあるものは之を本調査に包含せしめ、以て搾乳頭數の重複遺脱なきやう注意すべきである。尙様式中調査期の表示が「年末現在」から「年」に變更された結果、搾乳頭數は特に年末現在箇所數を掲げることゝせられた(注意二)。

次に注意第一號の「朱書外書」が「朱書内書」に變更せられ、而して朱書内書すべきものゝ中に道種畜場の分が加へられ、尙朱書内書の内譯は之を備考欄に説明するの必要がなくなつた。

以上は牛搾乳表に就いて述べたが、山羊搾乳表に於ても之と同様である。

年報九二 特用作物作付段別及

收穫高表

様式一棉作付段別及收穫高表の作付段別欄の記載方に關しては從來疑義が生じ勝ちであつたが、播種段別を掲記すべきことが明示された。更に次年度に於ける面積擴張、土地選定等の參考資料として、同欄に收穫段別をも

併記することゝなつた。(注意一改正)

尙從來様式一棉、様式二棉以外の纖維作物、様式三其の他の特用作物に付いては農業獎勵機關の分を一般の分より區別してゐたが之が區別の必要がなくなり兩者を合算掲記することゝなつた(各様式の注意一削除)。

年報九三 蔬菜作付別段及收穫高表

前記第九二號同様農業獎勵機關の分と一般の分とを區別するの要なく、兩者を合算掲記することゝなつた(注意一削除)。

年報一一七 家畜及家禽表

綿羊は國策事業として重要性を倍加して來たのに鑑み、様式三驢・騾・山羊及緬羊表中緬羊に關する部分を分離して様式四緬羊種類別表とし、特に種別詳細に調査することゝなり、且つ國有の分と一般の分とを區別掲記することゝなつた(注意二追加)。

養兎も近時旺盛となつたので様式六として

兎種類別表の一表が加へられた。但しこれは年報第一四六號養兎表を廢し同様式中の一部を本號に編入したもので、從來と異なる點は飼養頭數を種類別に調査することゝなつたこと、及び一方に於て牝牡別調査が不要となつたことである。

尙様式五豚種類別表(舊様式四)及び様式七鶏種類別表(舊様式五)中「其他」の分類に包括せらるゝものは、從來夫々更に其の種類別内譯を備考欄に再掲することを必要としたが、この點が省略された(各様式の注意一削除)。

年報一一八 家畜増減表(舊表名
牛馬豚緬羊増減表)

様式五として兎増減表が追加された。これも前記第一一七號に於けると同じく、年報第一四六號養兎表廢止の結果、同號様式中兎の動態に關する部分を本號に編入したものに過ぎない。

年報一一九 種牛及種馬表

様式一種牛年齡別表中種牝牛に就いては同様に列擧せる國有・道有・農會有・優良牛生産組合を始め以下所有者の異なるに従ひ逐一之を擧げることゝ必要としたが、前掲の四者以外のものは「其他」として一括調査掲記することゝなり、且つこの「其他」に包括すべきものは特に獎勵目的の爲指定したるものに限り、それ以外の種牝牛は本調査から除外することゝなつた(注意三追加)。

年報一八〇 畜産物産額表

近時毛用兎の飼育盛んに行はれ、兎毛の産出相當あるべきを以て、様式中に「兎毛」の欄を加へ之が産高を調査することゝなつた。

年報二一〇 肥料改良増施獎勵

計畫實施成績表

肥料改良増施獎勵計畫は昭和十年度を以て第一期計畫を完了し、引續き十一年度以降第二期計畫に入つたが、これに伴ひ本號報告事項も加除整理せられ、綠肥指導里洞設置狀況

表(舊様式三)、綠肥指導里洞收穫高表(舊様式四)、堆肥指導里洞成績表(舊様式六)の三表を廢し、新に様式四として天然綠肥下肥灰肥料用狀況表が挿入された。又様式六肥料獎勵專任技術員設置狀況表(舊様式八)の職員の種類が改訂せられ、且つ國庫補助に依るものと然らざるものとを區別掲記することゝなつた(注意一追加)。

年報二四四 地方廳職員及俸給表

稅務機關の特設と地方官官制中改正ありたるとに依り、様式中「稅務吏」及び「府郡島通譯生」の二欄が廢された。

尙特に府尹の俸給に付ては高等官々等表別表の第何號表に依るものなるかを註記することゝなつた(注意二追加)。即ち京城、大邱、釜山、平壤の各府尹は他の府尹と給俸を異にするに依り、この區別を表申又は表外に於て便宜な方法に依つて説明することが必要である。

年報二四五 課別定員表

稅務機關の持設と地方官官制中改正とに依り様式一及び様式三中財務部の表が廢せられ、様式四中「通譯生」及び「稅務吏」の欄が削られた。尙様式三及び様式五の職員の區分には不適當な點があり併せて之を是正せられた。

次に警察署配置定員に就いては從來調査を缺いでゐたが、自今様式二道課別定員表の様式に準じて適宜調製し、附表として添附報告することゝなつた(様式二の注意二追加)。

年報二二六 府郡島農會收入支

出豫算及決算表

從來様式中不整備の點があり全般に亘つて改訂が加へられ、經常部臨時部の區別を廢すると共に報告項目の加除整理が行はれた。尙今次の改正は様式の範圍を出でず注意事項に影響なきに付き、依然従前の注意に依り處理すべきは言ふ迄もない。

従前の附表一中基本財産の表及び附表二に依る積立金の表を合して一表とし附表一府郡島農會財産表とせられた。この結果公用財産の表及公共財産の表の報告が廢せらるゝに至り(注意二削除)、又備考欄記載事項が省略された(注意五削除)。附表二(舊附表三府郡島農會會員及專任職員數表)が改正せられて會員數の各欄が削除され、府郡島農會專任職員表として専ら專任職員に付いて報告することゝなり、尙様式中に「雇員」の記入欄が明示された。而して本表に掲記すべき專任職員數は四月一日現在に於ける豫算定員に依るべきことが明確にされた(注意二改正)。

尙附表四(舊附表五)の表題「府郡島農會過年度會費」が「府郡島農會過年度會費徵收成績表」と訂正せられたが、報告の内容には影響ない。

年報二七五 邑面歲入歲出豫算

及決算表

地方稅制整理の結果稅目に變更を生じ、こ

れに伴つて本號報告中の字句が訂正された(様式一、附表一及同注意三、附表三改正)。

附表三邑面稅內鮮外人別額負擔表は從來内地人・朝鮮人・外國人の三區分に依り調製したる爲、法人の負擔區分に關して疑問を生じ且つ統計上不合理なる結果を招來した。之等の缺陷が取除かれ内地人・朝鮮人・外國人・法人の四區分に於て調製することゝなり、内地人・朝鮮人・外國人の分類には法人に係るものを包含せざることゝなつた。

年報二七八 面財政概要表

年報二七九 學校費歲入歲出豫算及決算表

年報二九八 道稅邑面稅學校費賦課金及學校組合費滯納表

前記第二七五號同標地方稅制整理に依る稅目の變更に伴ひ各號報告中字句訂正が行はれた(第二七八號様式、第二七九號様式及同附表二、第二九八號の注意八)。

年報二八四 農作物狀況報告

本號報告に關しては既に昭和十一年八月二十七日附文書課長通牒（各道知事宛）に依り其の取扱を變更されてゐるのであつて、今次の改正は事實上次の二點に存する。即ち様式三棉作狀況報告の第一項「作付段別」が「生育段別」と訂正されたこと、及び同様式の注意第三號が改正されたことである。

注意第三號の改正は棉作の全鮮的普及に因るものであつて、この改正に依り報告不要の道は咸北のみとなり、従來報告を要しなかつた咸南も昭和十二年分（本年九月十日電報）より報告を必要とすることになつた。

年報二八五 棉作狀況表

棉作の全鮮的普及の結果報告者の範圍が改められて、前記第二八四號同様報告不要の道は咸北のみとなり、江原・咸南の二道も昭和十一年分（本年六月報告）より報告を要することゝなつた。

而して従來道に依りて陸地棉又は在來棉の一方を報告し、若しくは兩者を報告するの區

別があつたが、忠北・慶北に在來棉其の跡を絶ち、在來棉地帯の京畿・黄海・平南・平北江原の各道に漸次陸地棉栽培せらるゝに至り、陸地棉・在來棉の分布狀態に著しく變動を生じたる結果、自今各道何れも兩者を報告することゝなり（注意一削除）、様式中に陸地棉及び在來棉の區分が加へられた。

尚備考欄記載事項中從來面洞里名を以て表示したる被害箇所を單に面名に留むることゝなり（注意四改正）、又從來陸地棉に就いてのみ必要であつた追播狀況の記載が、在來棉に就いても必要となつた（注意五改正）。

年報二九九 府稅徵收成績表

様式中過年度收入に關する部分を切離して様式は専ら當年度の表とし、過年度收入に關しては別に其の原年度別に、且つ税目別に様式（當年度の表）に準じて別紙に調製添附することゝなつた（注意六追加）。

年報三〇〇 水道統計表

從來注意事項の徹底を缺ぎ、報告上疑義を生ずる虞あるものがあつたので、これ等の點に付て注意字句が補足された（様式二の注意三改正、様式五の注意二改正、様式一三の注意一、二追加）。

年報三三〇 繩呷筵製造高表

繩呷筵の製造は農家の副業として最も普遍的に行はれ、農家の現金收入中重要な部分を占むるものであるが、從來本號様式には生産價額の記入欄なく資料活用上不便の點があつたので、様式を改正し種類毎に生産數量と共に價額をも調査することゝせられ、且つ價額の算出方法が示された（注意改正）。又特に以に就いては其の需用の向に應じて穀用・肥料用・鹽用・其の他用の四分類に於て調査すべきことゝなつた。

尙從來の注意が削られたのは、調査の期間は様式中表題の欄に依り自明なるを以て、不要字句を除いたに過ぎないのであつて、他に意味はない。

昭和十一年報告例改正一覽

昭和十二年一月一日以降官通牒又は文書課長通牒に依るもの

別冊 甲 號

削 除

一五 災害復舊工事費概算表

一四六 養 兎 表

追 加

三三五 米穀現在高表

三三六 製絲場臨檢査狀況表

一 部 改 正

一〇 府邑會議員及面協議會員選舉ニ關スル報告

一二 官公吏員職員犯罪報告

二七 林野被害報告

八二 耕地面積表

八三 牛 搾 乳 表

八八 山 羊 搾 乳 表

八九 米實收高表

九二 特用作物作付段別及收穫高表

二、三、四 官通牒

二、八、九 文書課長
二、三、四 官通牒

二、三、四 官通牒

二、九、二 文書課長

二、三、四 官通牒

二、四、二 文書課長

二、八、九 文書課長

二、三、四 官通牒

九三 蔬菜作付段別及收穫高表

九五 土地改良事業表

一七 家畜及家禽表

一八 家畜増減表

一九 種牛及種馬表

一八〇 畜產物産額表

二一〇 肥料改良増施獎勵計畫實施成績表

二二三 度量衡器計量器取縮成績表

二四四 地方廳職員及俸給表

二四五 課別定員表

二六一 府郡島農會收入支出豫算及決算表

二七五 邑面歳入歳出豫算及決算表

二七八 面財政概要表

二七九 學校費歳入歳出豫算及決算表

二八四 農作物狀況報告

二八五 棉作狀況表

二八九 道邑面稅學校費賦課金及學校組合費滯納表

二、三、四 官通牒

二、九、二 文書課長

二、三、四 官通牒

二、三、八 文書課長

二、三、四 官通牒

二、三、八 文書課長

二、四、二 官通牒

二、三、四 官通牒

二、三、八 文書課長

二、三、四 官通牒

二、八、九 文書課長

二、三、四 官通牒

二、三、四 官通牒

二、三、四 官通牒

- 二九九 府稅徵收成績表
- 三〇〇 水道統計表
- 三三〇 蠶以筵製造高表
- 三三四 農家更生計畫實績表

別冊乙號

削除

- 二三二 朝鮮酒見込造石數表

追加

- 二六五 種羊場事業報告

一部改正

- 九 林野被害報告
- 一七 輸出入貨物及貨幣金銀地金表
- 一九 米移出入高表
- 二〇 郵便爲替貯金概況表
- 二六 保稅倉庫貨物出入表
- 三三 米移出入額明細表
- 三八、〃 水産製品檢査成績表
- 〃
- 一一三 小作調停事件表
- 一一三 收入印紙收入額表
- 一一三 通信機關表
- 一三四 通常郵便物數表

二、三、四	官通課長
〃	〃
二、六、五	文書課長
二、三、四	官通課長
二、三、四	官通課長
〃	〃
二、二、六	文書課長
二、三、四	官通課長
〃	〃
二、五、三	文書課長
二、三、四	官通課長
〃	〃
二、二、六	文書課長
〃	〃

一三五	小包郵便物數表	二、二、六	文書課長
一六五	郵便貯金表	〃	〃
一八九	輸移入酒類酒稅表	二、三、四	官通課長
一九〇	輸移入酒類酒稅免除表	〃	〃
一九一	輸移出酒類酒稅相當金額交付表	〃	〃
一九四	酒類查定高表	〃	〃
一九九	地稅表	〃	〃
二一三	所得稅表	〃	〃
二二一	稅印押捺表	〃	〃
二二二	酒稅表	〃	〃
二二四	酒類製造免許場數表	〃	〃
二二六	酒類製造免許場數表	〃	〃
二二八	輸移出酒類酒稅免除表	〃	〃
二二九	酒稅免除及酒稅相當金額交付表	〃	〃
二四〇	犯則者ノ製造ニ係ル酒稅表	〃	〃
二四二	持越酒類石高表	〃	〃
二四三	朝鮮酒以外ノ酒類見込造石數表	〃	〃
二五〇	所得審查決定額表	〃	〃
二五一	所得減損更訂表	〃	〃
二五五	相續稅審查決定額表	〃	〃
二五七	相續稅年賦延納額表	〃	〃
二六一	輸移出入植物檢査表	二、四、二	文書課長
〃	〃	二、三、四	官通課長

(備考)
 以上の外別冊甲號及乙號共報告例第五條に依る別表道府郡島ノ順序の表改正(二、三、四官通課長)。
 尙昭和十一年に屬しないが、本年二月八日文書課長通牒「昭和十一年官通課第四十號ニ關スル件」は便宜上本表に載録した。

統計時報

昭和十一年

朝鮮貿易概況

【總督府財務局調査】

昭和十一年中に於ける朝鮮の對外國及び對内地貿易は輸出五億九千三百三十一萬二千圓、輸入七億六千二百四十一萬六千圓、輸出入總額十三億五千五百七十二萬九千圓で輸入超過は一億六千九百十萬三千に上つてゐる。之を前年に比較すると輸出四千二百五十一萬六千圓(八分弱)、輸入一億三千三百一十二萬九千圓(一割二分)を各増加し、入超は前年のそれを凌駕すること更に六千四百九十九萬六千圓(五割六分弱)で、半島未曾有の數字を示した。斯の如き入超増加は主として一般經濟界の好調を反映して諸物資の消費増加

並びに各種産業開發に隨伴して事務用品の入荷を促かせる等に因由するものである。尙以上を對外國と對内地とに區別して見れば次の通りである。

對外國貿易		對内地貿易		總貿易	
輸出	輸入	移入	移出	合計	輸入超過
昭十一年 七五、三三五 <small>千圓</small>	昭十一年 一四、四九九	昭十一年 一、二六、九六四	昭十一年 一、二九、八七〇	昭十一年 一、三五、七九一	昭十一年 一、一九、一〇七
昭十年 六四、九〇二 <small>千圓</small>	昭十年 一〇〇、五六九	昭十年 一、〇四、七〇七	昭十年 七二、九二〇	昭十年 一、二〇、一九九	昭十年 一〇八、六〇七

昭和十一年

桑田

【總督府農林局調査】

昭和十一年七月末日現在に於ける全鮮の桑

田面積は七萬六千二百三十七陌(七六、八七三町)で、此の外に山桑利用面積が三千五百十陌(三、五三九町)見込計上されてゐる。右を種類別に表にする。

種類	面積	見積面積	合計
既設	二五、〇〇〇 <small>陌</small>	四五、四一七 <small>陌</small>	七〇、五五六 <small>陌</small>
新設	一、九三三 <small>陌</small>	三、七四八 <small>陌</small>	五、六七一 <small>陌</small>
合計	二七、〇三三 <small>陌</small>	四九、一六五 <small>陌</small>	七六、二〇七 <small>陌</small>

山桑利用(見込面積)となり、桑田の内本面積は三割五分五厘、見積面積は六割四分五厘の割合である。之を前年に比すると本面積は三百四十七陌(一分三厘)の減、見積面積は百三十九陌(三厘)の増で結局桑田全體に於て二百八陌(三厘)の減少となり、尙山桑利用見込面積は二百八十一陌(八分七厘)の増となつてゐる。

次に桑田を其の仕立方法の別に見ると

種類	本面積	見積面積	合計
根刈桑田	一七、一三三 <small>陌</small>	二、四六九 <small>陌</small>	一九、六〇二 <small>陌</small>
中刈及高刈桑田	四、五〇三 <small>陌</small>	一、三五〇 <small>陌</small>	六、〇五三 <small>陌</small>
立通桑田	五、四〇六 <small>陌</small>	三、一九四 <small>陌</small>	八、六〇〇 <small>陌</small>
計	二七、〇三三 <small>陌</small>	四九、一六五 <small>陌</small>	七六、二〇七 <small>陌</small>

即ち立通桑田が最も多く桑田中五割六分を占め、爾餘の四割四分を立通桑田と中刈及高刈桑田とで略々折半してゐる。尙之を前年に比

すると立通は一千七十八陌(二分七厘)の減根刈は三十二陌(二厘)の増、中刈及高刈は八百三十八陌(四分九厘)の増となつてゐる。

次に道別分布状態を見ると桑田は江原・慶北の二道に最も多く何れも一萬陌餘、咸北に最も少く一千陌餘である。山桑利用見込面積は江原道に斷然多く千六百餘陌、忠北に最も少く僅か三十一陌である。

	桑田面積			山桑利用見込面積		
	本面積	見面積	合計	見面積	合計	合計
京畿	二,四七六	四,〇七五	六,五五一	五	五	五
忠北	一,四九四	三,二二二	四,七一六	三	三	三
忠南	一,〇七〇	二,〇七二	三,一四二	一	一	一
全北	二,三五一	一,〇六一	三,四一七	一〇一	一〇一	一〇一
全南	四,三三九	一,六〇〇	五,九三九	八二	八二	八二
慶北	二,四七二	七,八三三	一〇,三〇五	二〇七	二〇七	二〇七
慶南	一,五九六	四,九一一	六,五〇七	一一	一一	一一
黄海	三,〇五三	二,六〇〇	五,六五三	一八五	一八五	一八五
平南	一,〇五九	三,九八四	五,〇四三	三四九	三四九	三四九
平北	一,五七二	四,五〇〇	六,〇七二	三六六	三六六	三六六
江原	二,三三二	八,二四四	一〇,五七六	一,〇七七	一,〇七七	一,〇七七
咸南	二,五九三	三,八三三	六,四二六	二五三	二五三	二五三
咸北	四七一	五二二	一,〇四三	四五	四五	四五

合計 三,〇七五 〇九,一六五 六,三三八 三,五〇〇
(陌未滿四捨五入)

昭和十年

畜牛

【總督府文書課調査】

昭和十年末現在に於ける全鮮の牛飼養戸數は百三十三萬五千八百五十一戸、飼養頭數は百六十七萬九千四百七十戸で前年に比し一萬六千五百一戸、八千二百八十五頭を増加した。

牛の種類別を見ると

	牝	牡	計
朝鮮種	一,〇五八,〇七六	九,三五五	一,〇六七,四三二
ホルスタイン種	一,七五五	一,八一	三,五六六
エアリー種	二	八	一〇
その他の外産種	二	二	四
合計	一,〇六〇,八三三	一〇,七六一	一,〇七一,五九四

道別の頭數を見ると慶北の十九萬四千四百二十五頭が最も多く、江原・平北・咸南は之に次いで何れも十五萬頭以上である。

	朝鮮種			外國種			合計
	末	年	年	末	年	年	
京畿	一三,四一四	七,四	一三,五二八	七四	一七	七〇,六六九	
忠北	七,〇三三	一三六	七,一六九	一三六	六	六三,九九八	
忠南	六,八二〇	一三六	六,九五六	六	五	五三,九九六	
全北	五,三三二	六四	五,三九六	七二	一	五三,二三五	
全南	一三,一五三	七二	一三,二二五	七二	一	一四,四四五	
慶北	一四,四三〇	一七	一四,四四七	一七	一	一五,〇四二	
慶南	一五,八八九	三三	一五,九二二	三三	一	一四,四七三	
黄海	一四,四〇五	六八	一四,四七三	六八	一	一四,四七三	
平南	二,六〇六	一六	二,六二二	一六	一	一八,五六四	
平北	一八,四四六	一〇八	一八,五五四	一〇八	一	一八,五五四	
江原	一三,三〇三	一一五	一三,四一八	一一五	一	一五,七〇九	
咸南	一五,九四八	一四三	一六,〇九一	一四三	一	一八,四〇四	
咸北	八,三八六	一六八	九,〇五四	一六八	一	八,四〇四	
合計	一,〇七七,三三二	二,〇九八	一,〇七九,四三〇	二,〇九八	一	一〇,七一一,五九四	

尙同年中に於ける牛の異動は左の通りである。

	朝鮮種			外國種			合計
	末	年	年	末	年	年	
平北	五八,一五三	二五五,九〇	七八四,一四三	一四,二八二	九九,八〇三	二四四,〇八五	
平南	二九,三三八	一四四,九八一	三六四,二九	一四,二八二	九九,八〇三	二四四,〇八五	

屠	三三、一七二	一四、〇一四	四八、一八六
壯	二九、九六九	一四七、四三三	四四四、四〇一
計	六三、一七二	二九一、四六六	九五五、五八七

昭和十年度

内地人學齡兒童

【總督府文書課調査】

昭和十年度三月末日現在の朝鮮に於ける内地人の學齡兒童（年度末に於て滿六歳一日より滿十四歳迄の年齢に在る兒童）を十七府及四百四十五の學校組合に就いて調査すると、總數九萬三千六百五十九人、此の内男は四萬七千五百十八人、女は四萬六千四百四十一人で前年に比し男は一千九百二人、女は二千四十五人増加した。尙道別の學齡兒童數は左の通りである。

府學校組合	學齡兒童	
	總數	男女
總數	一七、四四五	九三、六五九
京畿	三、三四三	八、二四一
忠北	一、一四一	一、三九四
忠南	一、三三三	四、一八三

全北	二	三、六二一	三、一八五	三、〇八六
全南	二	七、五九九	三、八五六	三、七七一
慶北	一	九、二九八	四、七二二	四、五六六
慶南	二	六、一四、九四四	七、六〇三	七、三三三
黃海	一	三、四七三	一、七六七	一、六六五
平南	二	六、五四〇	三、六四四	三、一六九
平北	一	三、〇八三	一、五三三	一、五〇〇
江原	一	一、七七八	八、八〇〇	八、四八
咸南	二	七、〇九一	三、六五五	三、四六六
咸北	一	二、五七三	三、〇九〇	三、一八三

通學するもの男四七、五一八人、女一、五六七人、計三、三一〇人含まず）
 右の學齡兒童中既に就學の始期に達したる者（學齡兒童中年度内四月一日に於て滿六歳一日以上の者）は七萬七千五百二十二人で、未だ就學の始期に達せざる者（學齡兒童中年度内四月一日に於て滿六歳一日に達せざる者）は一萬六千三百三十七人である、而して既に就學の始期に達したる者の内就學者は七萬七千四百二十人、不就學者は百二人で、其の就學歩合は九割九分九厘である。

學齡兒童	總數	九三、六五九	四七、五三八	四六、一四一
	既に就學の始期に達したる者	七七、五三三	三九、三八五	三八、一三七
未だ就學の始期に達せざる者	總數	一六、一三七	八、一三三	八、〇〇四
	尋常小學の教科を修むる者	一、一三八	六、三三三	五、八〇五
尋常小學の教科を卒へたる者	總數	一〇一	五	五〇
	就學歩合	九八・八七%	九八・八七%	九八・八七%

尙不就學者百二人の不就學原因を觀ると、
 瘋癲・白痴・不具變疾に因るもの六十六人、
 病弱發育不完全に因るもの三十三人、貧窮に

依るもの二人學校未設に因るもの爲一人となつてゐる。

昭和十年度

圖書館

【總督府文書課調査】

昭和十年度末に於ける全館の圖書館數は官立二館、公立十七館、私立二十七館、計四十六館で前年に比し私立三館を減少した。尙私立二十七館の内二十館は郷校財産に依り設立されたもので、更に其の内四館は現に休館中である。

前記四十六館の藏書冊數は五十萬一千九百八冊で前年に比し六萬一千八百冊を増加してゐる。而して一館平均の藏書は官立十四萬九千五百六十二冊、公立九千九百十七冊、私立一千二百三十六冊となつてゐる。

總數	四二,四七二冊	四七,二六六冊	三三,〇五三冊
官立	二	二八,六六六冊	一八,四三三冊
公立	二七	一六四,六〇五冊	三,九八八冊

私	郷校財産	一六	一五,六五三冊
立	其他	七	一四,六一二冊
	(×印は休館中、以下同じ)		三,九八八冊

總數	四二,四七二冊	四七,二六六冊	三三,〇五三冊
京畿	七	三六,二二七冊	二〇,九六九冊
忠北	一	三,七九二冊	四冊
忠南	一	九,九二二冊	一〇五冊
全北	二	九,五三二冊	一四六冊
全南	六	一一,九九九冊	五〇〇冊
慶北	二	二,四八一冊	三三冊
慶南	二	二,三三五冊	四九六冊
黃海	一	一,八〇一冊	四冊
平南	三	三,〇三三冊	五二冊
平北	三	三,四八八冊	二五冊
江原	一	二,三三三冊	二冊
咸南	三	八,二〇九冊	五冊
咸北	二	七,九三二冊	五冊

總數	二,六三二	四,四七六	一,三六〇
官立	六六	八六,九四八	八〇八,九三一
公立	四,四〇三	三九,二〇九	三四,二四〇
私	一,一九九	八八,九九九	八二,二九六
立	其	他	一,一九九
尚之	を	道	別に見ると。

者	は	十	一	萬	二	千	六	百	四	十	二	人	を	増	加	し	た。	
開	館	延	入	員	延	入	員	延	入	員	延	入	員	延	入	員	延	入
日	數	延	入	員	延	入	員	延	入	員	延	入	員	延	入	員	延	入
二,六三二	一,四九六	一,〇九六	二,七三二	一,三六〇	七,七六六	九〇九	四九七	二八二	六,二六一	四二二	一四,八三三	三,八三三	四三,八九七	四,二九七	三,三三三	三,二七〇	四〇,九九九	
一,一九九	八八,九九九	八二,二九六	一,一九九	八八,九九九	八二,二九六	一,一九九	八八,九九九	八二,二九六	一,一九九	八八,九九九	八二,二九六	一,一九九	八八,九九九	八二,二九六	一,一九九	八八,九九九	八二,二九六	

次に休館中の四館を除く四十二館に付同年度中の開館成績を見ると閉館日數一萬一千六百三日、閱覽延人員百四十四萬九千五百八十七人、閱覽延冊數百三十八萬七百八十六冊で前年に比し日數は七百四日を減じたが、閱覽

次に同年度の圖書館經費は休館中のものを

含めて二十二萬二百七十六圓、前年に比し二萬七千二十一圓を増加した。この内譯は左の通りである。

總額	三〇、〇三六、九六六	件費	四、〇〇〇	其他	四、〇〇〇
官立	二〇、九四三、七四八	公立	九、〇五二、三三二	私立	一、〇四一、一五六
總額	三〇、〇三六、九六六	總額	三〇、〇三六、九六六	總額	三〇、〇三六、九六六
其他	八、一八七、一五〇	其他	八、一八七、一五〇	其他	八、一八七、一五〇

昭和十年

私製鹽

【總督府文書課調査】

昭和十年中の鮮内私製鹽生産状況を見ると煎熬鹽では製造場數一千四百四十四、釜數一千三百三十一、鹽田面積五百九十八萬一千坪（一九九四町歩）其の製造高七千八百六十九萬二千斤で前年に比し一千四十四萬三千斤を増加してゐる。又再製鹽では製造場數八十三、釜數百八十五、原鹽使用量五千二百五十九萬斤其の製造高五千三十二萬二千斤では亦前年に

比し二百八十五萬二千斤の増加である。

是等私製鹽の生産高を道別に見ると、煎熬鹽では全南の二千六百五十二萬九千斤と慶南の二千四百十八萬一千斤とが斷然多く、この二道で全鮮の六割四分四厘を占めてゐる。他は何れも一千万斤に達せず京畿・咸南等が主なもの、忠北は皆無である。又再製鹽では慶南の二千九百二十三萬四千斤が群を抜いて多く全鮮の五割八分一厘を占め、京畿・咸南が五百萬斤臺で之に次いでゐる。尙忠北・忠南・黄海の三道は再製鹽の生産皆無である。

(イ)煎熬鹽道別生産高

道	鹽田面積	製造數量	同上價額
京畿	三八〇、四七九、〇九二	一四七、四四〇	—
忠北	—	—	—
忠南	三七五、七三三	四七、〇三三	七三、五八
全北	一八七、四一〇	一、九七〇、〇五二	五、六六
全南	三、六七六、六二七	二六、五九四、九七九	二六八、八二七
慶北	一八、一九九	二六五、〇〇〇	五、三〇〇
慶南	五九〇、八三三	二四、八〇、〇三〇	三九〇、七三三
黄海	一九七、六〇〇	二、五三、九六六	四四、七〇〇
平南	三七、五〇〇	六八七、二〇〇	一四、七五
平北	一八、〇〇〇	九五、〇〇〇	三、三七五
江原	二八、五三二	七八五、三九〇	一九、九二四
咸南	四八、九四八、一七五、一三五	一一、四八九	—

咸北	三、〇〇〇	二八、二五〇	七、五五
合計	五、九八四、四九七	七六、六八、八五五	一、二五六、四五一

(ロ)再製鹽道別生産高

道	原鹽使用量	製造數量	同上價額
京畿	六、四二七、〇九九	五、六三三、〇〇〇	一三、八四〇
忠北	—	—	—
忠南	—	—	—
全北	一、九四七、三三三	一、七九一、一五五	三三、六四五
全南	二、〇〇、五〇〇	二六〇、〇〇〇	五、三三八
慶北	一、六二一、〇〇〇	一、六四七、〇〇〇	二九、九九九
慶南	二、九二五、八五四	二九、三三、八四四	四八、七八
黄海	—	—	—
平南	三、七九〇、八二二	三三、三三三	五四、六三
平北	二、九一、〇〇〇	二八九、三〇〇	八、〇九八
江原	四、六五、〇〇〇	四一七、八〇〇	一三、一〇五
咸南	五、八五、五七五	五、五七、三〇〇	一〇〇、九三
咸北	二、五二、二四二	二、五二、二四四	四五、四五七
合計	三、五九〇、二九五	三、三三、三四〇	九二、六六

因に同年中の鮮内生産及び輪移入鹽の合計は八億一千七百八十八萬九千斤で、この内鮮内私製鹽の地位を見ると左の如くなる。

官製天日鹽	數量	百分比
官製天日鹽	四、六、三三、六六七	五五、八
私製煎熬鹽	七、六、六一、八五五	九、六

輸移入鹽 二八三、八九五、七五八 三四・六
 合計 八七、八六九、二八〇 一〇〇・〇

尙昭和元年に於ける右の割合は官製鹽二二・九
 ・五%、私製鹽一二・八%、輸移入鹽五七・
 七%で、これに依つて見ると官製鹽の割合は
 著しく高くなり、反對に私製鹽と輸移入鹽と
 は割合を低下してゐる。

昭和十年

水産業者

【總督府文書課調査】

昭和十年末現在に於ける全鮮水産業者の戸
 数は十五萬九千七百五十戸、人口は三十四萬
 九千二百二十四人で前年に比し四千二百八十
 九戸、一萬百四十一人を増加した。

之を業種別に觀ると。

業種	戸數	人口
漁撈	二八、〇六六、七三九	二四、三三〇、六九三
養殖	三、八〇九、一九九	八、七七一、三二九
製造	九、八三三、六〇一	二四、三三三、七〇一
合計	二、五九七、五三〇、〇〇〇	三、四九三、三三三、〇〇〇

右の戸數の内鮮外人別は内地人四千四百六

十九戸、朝鮮人十五萬五千二百六十八戸、外
 國人十三戸となり、業態別は專業四萬六千百
 九十戸、兼業七萬七千六百九十六戸、被傭者
 三萬五千八百六十四戸となつてゐる。又人口
 の男女別は男二十一萬五千九百二十四人、女
 十三萬三千三百人である。

次に水産戸數の道別を見ると全南の五萬八
 千二百五十一戸が最も多く全鮮の三六・五%
 を占め、これに次いで慶南、黃海、咸南、
 江原などである。

(イ) 道別水産業者戸數

道	漁撈	養殖	製造	合計
京畿	六、七七九	三、九	八三〇	七、〇四五
忠北	七、三二一	五三七	一	八、四七九
忠南	三、一一三	一三三	三〇六	三、五五二
全北	三、〇三三	三六、三三六	一、八九三	三六、八二二
全南	七、五八二	二	三、五六九	七、九五九
慶北	一、八、七〇〇	三、二二三	九五六	二、九三三
慶南	二、五八八	二、三三九	三、七七一	八、六九六
黃海	四、〇三八	三〇	四三三	四、四九八
平南	四、七九〇	八二	二四〇	五、〇七二
平北	八、一八九	二	一、九四三	一〇、一四三
江原	九、三三三	四九	一、〇三四	一〇、三四七
咸南	七、四四八	一三	八七四	八、三三五

合計 二八、〇六六、七三九 三、八〇三、
 九八八、二五九、七五八

(ロ) 道別水産業者人口

道	漁撈	養殖	製造	合計
京畿	二、九六一	一、四七〇	一、五九六	五、九六七
忠北	二、四四一	五三	一	二、四九五
忠南	一、〇、四七六	九七七	九九二	三、四四四
全北	六、四四二	五二〇	七、六六八	一四、六三〇
全南	五、八、七〇〇	六、〇八二	五、九三九	一七、七二一
慶北	二、一、九二九	三、八	六、五五	一〇、七〇二
慶南	三、二、五九九	五、五九五	二、〇、八二	一〇、八七六
黃海	三、〇、三三三	七、〇九八	八、三三	一〇、四六四
平南	六、八、〇八八	四三	九〇	七、七二一
平北	一〇、一、九二九	一〇九	七三三	一〇、九七一
江原	一五、八、七三七	四	四、五七七	二〇、四三八
咸南	二、四、六三三	一四八	三、九〇〇	六、六八二
咸北	一、六、六三七	一九	一、九〇五	三、五八七
合計	二、五九七、五三〇	八、七七一、三二九	二、四九三、三三三	三、四九三、三三三

昭和十年

水害に依る土木

被害

【總督府文書課調査】

昭和十年中に於ける水害に依る土木施設の

咸北 四七、六七一 八九〇 四六、六一
合計 六、三九、〇八八、二六〇、五七三、三六三、九七一

昭和十年 興行

【總督府文書課調査】

昭和十年中の朝鮮内各種興行の状況は

興行 入場人員 入場料
日數

演劇 九、七八一、四九三、四四四 七六、四三六
活動寫眞 二五、二二八、七三三、六四七 二、〇七二、一六〇
その他 四、三三七、一、五九八、七五六 三六〇、四〇五
總計 三九、二九二、二八四、八七三 九三、九三九、一

で前年に比し興行日數四千九百九十九日、入場人員二百六十萬三千六百二十五人、入場料七十三萬二千四百三十五圓を増加してゐる。而して右の内活動寫眞は總入場人員の六割八分を占めてゐる。尙興行一日平均の入場人員並びに入場者一人平均の入場料は左の通り。

一日平均 一人平均
入場人員 入場料
演劇 二五五人 三一錢
活動寫眞 三五〇人 二四錢

其の他 三七七人 二三錢

次に月別状況を見ると興行日數では十月を筆頭に三・十一・一・五の各月之に次ぎ、最も少いのは十二月である。入場人員では六月を最多とし十二・十・九・十一・三の各月之に次ぎ、七月を最少としてゐる。

興行日數 入場人員 入場料

一月	三、三三二	九四、五七一	二六、九五〇
二月	三、〇四八	九三、六三三	二四、六五七
三月	三、四七二	一〇五、三一九	二七、〇一〇
四月	三、一四一、〇〇〇	九五、九五六	二五、五四四
五月	三、〇二二	九六、七三三	二五、五〇四
六月	三、一七一、六八一、五九六	一三三、八五八	三三、七〇〇
七月	三、一七〇	八七、五八〇	二五、六三三
八月	三、三三八	九六、三一九	二七、九一〇
九月	三、二六二、〇六七、九一九	一〇七、二七〇	二六、七〇〇
十月	三、七四一、〇〇〇、〇〇〇	一三三、七三七	三三、七〇〇
十一月	三、五一一、〇六六、〇〇〇	一〇六、〇〇〇	二七、四六五
十二月	二、八六一、三四一、〇〇七	八八、七四	二四、九七四
總計	三九、二九二、二八四、八七三	九三、九三九、一	

尙道別の状況は左の通りである。

興行 入場人員 入場料
日數
總數 三、二九二、二八四、八七三 九三、九三九、一
京畿 七、八四四、九五五、五四七 一、〇六六、二一八
忠北 七三三 一八、一〇一 四〇、七三三

忠南	一、七三三	四〇六、八九九	九三、八九九
全北	二、一八八	六九九、八三〇	一五〇、八六六
全南	三、七六八	六、〇〇四、四五	一七五、七三三
慶北	三、三四	九九五、六〇六	二二、三三三
慶南	六、三八八、四〇、二四、四五	三、八一、四、六五	三、八一、四、六五
黄海	三、三五五	五三七、九六八	一三、四二二
平南	二、五六六、一〇六、〇六一	三〇、一〇八	三〇、一〇八
平北	二、七四四	四六一、八六六	二八、一六三
江原	一、一六七	二七、五九一	四四、九六
咸南	三、〇五五	八四七、五五一	二五九、九四
咸北	二、四九七	五二八、五二七	一六、三三五

昭和十年

保險事業

【總督府殖産局調査】

朝鮮に於て保險事業を営む會社(鮮内に營業所を有せざるものを含む)は昭和十年末現在で生命保險三十七社、損害保險五十五社であるが、この内朝鮮に本店を有するものは生命保險一社、損害保險一社のみである。

これ等保險會社に於ける同年中の保險契約状況は

總數 男 女

となつて、市部（百三十箇市）に於ける人口は二千三百六十二萬二百人、總人口の三割三分六厘を占めてゐる。

尚道府縣別推計人口は左の通り。

北海道	三、三二、八〇〇	青森	九六五、四〇〇
岩手	一、〇六〇、八〇〇	宮城	一、二五五、〇〇〇
秋田	一、〇四八、二〇〇	山形	一、二三四、五〇〇
福島	一、五九六、九〇〇	茨城	一、五六一、九〇〇
栃木	一、三〇六、二〇〇	群馬	一、二五五、二〇〇
埼玉	一、五三三、四〇〇	千葉	一、五六一、〇〇〇
東京	六、五七〇、八〇〇	神奈川	一、八六六、一〇〇
新潟	二、〇〇八、八〇〇	富山	八〇三、一〇〇
石川	七〇七、八〇〇	福井	六五二、六〇〇
山梨	六五〇、〇〇〇	長野	一、七三三、四〇〇
岐阜	一、三三三、七〇〇	静岡	一、九六六、六〇〇
愛知	二、九四三、四〇〇	三重	一、二九一、〇〇〇
滋賀	七五五、〇〇〇	京都	一、七三三、八〇〇
大阪	四、四五五、四〇〇	兵庫	二、九六一、〇〇〇
奈良	六三三、五〇〇	和歌山	八七一、一〇〇
鳥取	四九〇、七〇〇	島根	七四八、七〇〇
岡山	一、三四三、八〇〇	広島	一、八八八、五〇〇
山口	一、二〇一、〇〇〇	徳島	七三三、二〇〇

香川	七三二、〇〇〇	愛媛	一、二六六、七〇〇
高知	七四三、三〇〇	福岡	二、八三〇、六〇〇
佐賀	六五五、八〇〇	長崎	一、三三〇、三〇〇
熊本	一、五九四、〇〇〇	大分	九七七、七〇〇
宮崎	八三七、八〇〇	鹿児島	一、五九八、七〇〇
沖縄	五九五、六〇〇		

昭和十年

内地の人口動態

〔内閣統計局調査〕

内閣統計局調査に係る昭和十年の内地人口動態統計の概要は次の如くである。

一、婚姻 婚姻總數は五五六、七三〇件で人口千に對する婚姻率は八・〇四件である。之を前年に比すれば件數に於て四四、〇七六件、婚姻率に於て〇・五二件を増加した。

既往に於ける婚姻率は大正九年の九・七六件を最高とし、爾後低落の一路を辿り昭和八年の如きは七・二三件の低率を示したが、前年より増加に轉じ本年は昭和三年以來始めて八件臺に上つた。

二、離婚 離婚總數は四八、五二八件で人

口千に對する離婚率は〇・七〇件である。之を前年に比すれば件數に於て八二件、離婚率に於て〇・〇一件を減じた。尙婚姻千に對する割合は八七・二件で前年より七・六件を減少した。

既往に於ける離婚率は大體漸減の傾向に在つて大正八年迄は人口千に付一件を超えてゐたが、同九年以降は一件を割るに至り昭和六年よりは〇・七件臺を示すに至つた。

三、出生 出生總數は二、一九〇、七〇四人で人口千に對する出生率は三一・六三人である。之を前年に比すれば出生數に於て一四六、九二一人、出生率に於て一・六六人を増加した。尙右の出生總數の外本年中に出生せる者にして、届出漏れのもの約七萬人あるものと推定せられ、之を加ふれば出生總數約二、二六〇、〇〇〇人と爲り、其の出生率は約三二・六人となる。

既往に於ける出生率は大正九年の最高記録三六・一九人より一高一低を示しつゝ、低落の歩調を續け、昭和九年には遂に三〇人臺を割るの低率を示すに至つたが、本年は再び三一人臺に復した。

出生數を男女に別れば男一、一二二、八六一七人、女一、〇六七、八三六八人、男女不詳

人で、前年に比し男八〇、一三一人、女六六、七八九人を増加した。而して男女の割合は女百に付男一〇五・二人に該り、之を前年に比すれば男の割合一・〇人多い。

四、死産 死産總數は一一五、五九三で、人口千に對する死産率は一・六七である。之を前年に比すれば死産數に於て二、五五〇、死産率に於て〇・〇一を増加した。

既往に於ける死産率は大正初年には二・五〇以上であつたが、爾後漸減の一途を辿り昭和初年より二・〇〇以下に降るに至つた。

死産數を男女に別てば男六二、五〇八、女五二、四一〇、男女不詳六七五で前年に比し男一、一三四、女一、三三五を増加した。而して男女の割合は女百に付男一一九・三に該り、前年に比すれば男の割合〇・九を減じた。

五、死亡 死亡總數は一、一六一、九三六人の人口千に對する死亡率は一六・七八人である。之を前年に比すれば死亡數に於て七二、七四八人、死亡率に於て一・三三人を減じた。尙ほ右の死亡總數の外本年中に死亡せる者にして届出洩れのもの約七萬人あるものと推定せられ、之を加ふれば死亡總數約一、一六九、〇〇〇人と爲り其の死亡率約一六・

九人と爲る。

既往に於ける死亡率は流行性感冒の猖獗した大正七年及同九年には夫々二六・八三人、二五・四一人の異常なる高率を示したが、爾後漸減の傾向を辿り昭和元年以後は同四年を別とし二〇人臺を割るに至り、本年は一六・七八人と云ふ未曾有の低率を示した。

死亡數を男女に別てば男六〇三、五六六八、女五五八、三六七人、男女不詳三人で前年に比し男三五、五三二人、女三七、一四〇人を減じた。而して男女の割合は女百に付男一〇八・一人に該り、之を前年に比すれば男の割合〇・八人を増加した。

六、自然増加 人口の自然増加即ち出生、死亡の差増は一、〇二八、七六八人で、人口千に對する自然増加率は一四・八五人である。之を前年に比すれば自然増加數に於て二一九、六六九人、自然増加率に於て二・九九人を増加した。尙右の自然増加は前記出生及死亡の届入洩れ推定數に於ける差増約六萬三千人を含まないから、之を加ふれば約一、〇九二、〇〇〇人と爲り其の自然増加率は約一五・八人の高率となる。

既往に於ける自然増加は明治三十三年より五〇萬人を超え、日露戰爭當時一時四十萬人

臺に減じたが、同四十年以降増加の趨勢に轉じ、明治末年より七十萬人を超過するに至つた。然るに大正七年には流行性感冒に依る死亡激増の爲三十萬人に滿たざるの現象を示したが、同九年には六十萬人に復し、爾後増加の趨勢を辿り、同十四年には八十萬人臺に達し、爾來各八十萬人臺を乃至九十萬人臺を保つてゐたが、昭和七年遂に百萬人を超えた。而して翌八年及九年は減少に傾いたが、本年は再び百萬人を突破し空然の記録を示した。自然増加率は大正十五（昭和元）年に於て未曾有の高率一五・五九人を示し、昭和八年迄は同四年及七年の例外を除き一三・四人臺を保ち、昨九年は一一人臺に降つたが、本年は再び十四人臺に復した。

人口自然増加數を男女に別てば男五一九、三〇一人、女五〇九、四六九人で、前年に比し男一一五、六六三人、女一〇三、九二九人を増加した。而して男女の割合は女百に付男一〇一・九人に該り、前年に比すれば男の割合二・四人を増加した。

（備考） 男女の自然増加數を合し總數と符合しないのは、出生死亡に男女不詳がある爲である。尙比率は何れも昭和十年十月一日現在國勢調査人口に依つて算出した。

切抜帖

在滿支本邦人の人口

滿支各領事館及關東局の報告に基く外務省東亞局の調査に依ると昭和十年末現在の滿洲國・關東州・中華民國・香港及澳門に在留本邦人の人口は左の如くである。

滿洲國	一、二五、六四八、三三九	本邦人	同上中
滿鐵附屬地	二七、七五三、一〇三	總數	朝鮮人
商埠地	二九、八六九、八〇、五七七		
北滿特別區	三、一七四、二、三四一		
滿洲内地	七四、八六八、七〇〇、〇六六		
關東州	一、〇〇〇、〇〇〇、三、二五一		

中華民國	六、九三二、七、一七三
開放地	六、六七四、八三三
開放地外	二、三四二、三、五二一
香港	一、五五五、三三
澳門	一、二六二
滿支通計	一、三九八、二九八、三、七〇七

(第二十八回滿洲國及中華民國に在留本邦人及外國人人口統計表に依る)

朝鮮神宮參拜者

半島二千萬民衆の護り神として我等が敬神の巨柱である朝鮮神宮は、非常時代に入つて益々參拜者が激増し、敬神思想は内鮮を問はず普及化し、昭和十二年十二月の參拜者は五萬五千七百八十八人に達し、一日平均一千七百九十九人に及んだ。而して一月からの累計は百十七萬三千八百五十三人の多數に上り、この内譯は内地人が八十二萬九千三百十四人、朝鮮人卅四萬九百九人、滿支人二千四百九十八人

外國人千卅卅二人で、旅行團その他の外來者を除いて京城人は一年に内地人が五回平均、朝鮮人が一回平均參拜したことになる。(一、九、京城日報)

手形交換新記録

全鮮における手形交換高は商工業の躍進に伴なひ各地共増加を辿りつゝあるが、昭和十一年中における全鮮手形交換高は枚數三百七萬五千十八枚、金額十七億八千二百二十七萬二千八百三十七圓で、これを前年に比較すると枚數において二十一萬二千六百二十二枚、金額において一億六千八百七十三萬八千八十三圓の何れも激増で枚數金額共新記録を示した。十一年中交換高の各地別を見ると左の如し。

枚數	金額
京城	一、六五、〇五一、一〇五、七七七
仁川	二、六、三八八、八八、〇七七

鮮内石炭消費量

總督府鑛山課調査によると、昭和十一年中(十二月分見込)の鮮内に於ける石炭消費量は三百十五萬噸で前年の消費量二百七十一萬噸に比し四十四萬噸の増加である。その中鮮内の産炭高は二百二十一萬噸、前年に比し二十一萬噸の増加で半島鑛山界の躍進を如實に示してゐる。尙ほ需給状況を前年に比較すれば左の通り(單位萬噸)

産炭高	三三三	一〇〇
有煙炭	一一三	三三

釜山	四三、三〇五	三三、二一九
平壤	三三、一六四	一五、二六
元山	一〇、六八八	四、三四
大邱	一三、〇八一	四、九〇
木浦	六、三四	二、三四
群山	九、一〇八	五、〇六
鎮南浦	四、〇〇九	三、七八

(一、一三、朝鮮新聞)

無煙炭	一元	一〇八
輸入高	六	六
移入高	九	七
供給合計	三〇	三三
輸出高	四	三

(一、一五 京城日報)

企業資本の激増

昭和十一年における朝鮮の財界は總てが異常なる躍進を呈してゐるが、これ等の躍進は企業資本の動向の上にも反映して新設會社激増し、社數並にこれが投下資本は何れも増加を示すに至つた。即ち昭和十一年中の全鮮における會社の異動狀況を見ると左の如し(單位千圓)

	社數	公稱資本	拂込資本
新設	七九、八一	九三、七六	八三、三五
増資	一七五、〇	一三三、二七	一〇一、一〇
拂込	一六〇	一	四八、二六
減資	四	一、九七	一、〇九
解散	三二、四、五二	三〇、五七	三〇、五七

以上の如くで右の内新設會社の社數は實に七百十九社におよびその拂込資本金は七千六百八十二萬五千圓に達してゐる。

(一、一五 朝鮮新聞)

列國海軍現有勢力

我が海軍で最近調査した無條約第一年劈頭に於ける列強海軍現有勢力(既成艦艇)は大體左の通りである。

主力艦 (×は舊式戰艦)	
日本	九隻 二七,〇〇〇 <small>噸</small>
米國	一五 四四,〇〇〇
英國	一五 四七,〇〇〇
佛國	六 一三,一〇〇
同	三 五,七九一
伊國	四 八六,三三三
獨逸	三 三〇,〇〇〇
同	三 三九,〇〇〇
露國	一 一
同	四 九三,四八〇
航空母艦 (△は軍縮條約規定の航空母艦に該當せざるもの)	
日本	四 六八,三〇〇
同	三 三二,〇〇〇
米國	四 九三,〇〇〇
同	二 二八,三〇〇
英國	六 一五,三〇〇
同	二 一,七〇〇
佛國	一 三,四〇〇
同	一 一〇,〇〇〇
伊國	一 四,八〇〇
獨逸	一 一
露國	一 七,六〇〇

巡洋艦 (Aクラス)	
日本	三 一〇,八〇〇
米國	一六 一五二,八〇〇
英國	一〇 一八三,三六〇
佛國	一〇 一〇五,九三三
伊國	一〇 九七,三三三
獨逸	一 一
露國	一 七,六〇〇
巡洋艦 (Bクラス)	
日本	二 一〇七,二五〇
米國	一〇 七〇,五〇〇
英國	三 一八五,六〇〇
佛國	九 五八,八三五
伊國	七 七九,七〇〇

驅逐艦	六 三三,四〇〇
獨逸	四 二七,一〇〇
日本	九七 一八,八六九
米國	一六 二三〇,五五五
英國	一七八 二一〇,〇六九
佛國	七五 一三二,三〇〇
伊國	九一 一〇三,三三三
獨逸	一九 一四,九二五
露國 (約) (盟) (約)	四八,八〇〇
潛水艦	
日本	七〇,〇〇〇
米國	七四,四〇〇
英國	五五,四七四
佛國	七八,〇六三
伊國	六四 四八,九八七
獨逸	三三 六,九二四
露國 (約) (盟) (約)	八四,三〇〇
合計	
日本	一六 七四,四八八
同	三 三三,〇三〇
米國	三〇 一,〇八,五九五
同	二 二八,〇〇〇
英國	三〇 一,三三,六七九
同	二 一一,七〇〇

佛國 一七七、一三三
 同△ 一 10,000
 伊國 一八六 四〇四、一六六
 同△ 一 四、八八六
 獨逸 五四 一三六、八三九
 露國(約)二七五(約)三六、九六〇
 このほか米國には掃海艇で補助航空母艦として使用のもの十一隻、給油艦・潜水母艦・敷設艦で補助航空母艦たるべきものが五隻ある。

尙建造中の艦艇は日本航空母艦二隻、B巡洋艦四隻、驅逐艦一隻、潜水艦七隻米國A巡洋艦七隻英國Bクラス巡洋艦九隻等がある。(一、二〇 大阪毎日)

鮮米實收高

〔總督府農林局發表〕 昭和十一年稻作は補付時期に中鮮及西鮮の各道に旱害あり、又出穂期に南鮮及中鮮の一部に風水害あり、剩さへ出來秋に入りて全鮮的に稻熱病の激甚なる被害あり

たるが、今其の實收高を調査するに作付反別に在りては

水稲粳米 一、五三一、九三二町反
 同 糯米 三七、七四六
 陸稻粳米 二四、四六三
 同 糯米 八、六九五
 合計 一、六〇一、三四六

にして之を前年作付反別一、六九四、五三九町三反歩に比すれば九三、二〇四町七反歩(五分五厘)の減少なり。

米實收高は
 水稲粳米 一八、七七〇、六六六石
 同 糯米 四〇〇、五八八
 陸稻粳米 一六、〇〇〇
 同 糯米 七五、四一五
 合計 一九、四一〇、七三三

にして之を第二回豫想收穫高に比すれば七八八、二四九石(三分九厘)の減收となり、又前年實收高に比すれば一、五二六、〇九四石(八分五厘)の増加となる。

尙參考の爲從來と同様の調査方法に依り調査せる實收高を示

せば水稲一五、二〇九、八二二石、陸稻二一八、〇一〇石、合計一五、四二七、八三二石にして前年實收高に比し二、四五六、八三七石(一割三分七厘)の増收となる。而して從來の調査方法に依る實收高と新調査方法に依る實收高との差は三、九八二九三石なり。

尙米の作付反別及收穫高の最近五ヶ年比較は左の通りである

作付反別	收穫高
昭和七、一、六五四、四九 <small>町反</small>	一七、三四五、八二五 <small>石</small>
同 八、一、六九七、四六三	一八、九三三、七二〇
同 九、一、七二二、九〇九	一六、七二七、三三八
同 一〇、一、六四四、五九	一七、八四四、六六
同 一一、一、六〇一、三四六	一九、四一〇、七三三

内地米實收高

〔農林省發表〕 昭和十一年における米收穫高は六千七百三十四萬二千七百二十三石にして、前年に比し九百八十八萬五千七百四十七石(一割七分二厘)を

、前五ヶ年平均收穫高に比し八百十九萬六千三百九十六石(一割三分九厘)を増加せり。而して作付反別は三百二十萬六千九百八十三町四反にして一反歩收穫高は二石一斗に當る。

蓋し本年の稻作は移殖後七月上旬に至るまで低溫寡照に經過し生育思はしからざりしも、七月中旬より天候回復し氣溫高く日照多かりしため分蘖、伸長共に促進せらるるに至れり。その後八月中天候良好ならざりし地方ありしも、九月に入り一般に好天氣に恵まれたため開花結實良好なるを得、九月二十日現在における第一回豫想は六千七百八十四萬六千六百八十石となりたり。その後たま／＼十月上旬の暴雨の影響を蒙りたる地方多かりしと、局部的に病虫害の發生を見たるものありしとにより十月末日現在における第二回豫想は第一回豫想に比し百五十四萬九千七百石(二分二厘)を減少

したるも、その後天候も概して順調に經過し、實收高は第二回豫想に比し九十五萬五千七百四十三石(一分四厘)の増加を示すに至れり。

最近五ヶ年間に於ける作付段別及收穫高を掲ぐれば左の如し

年	作付段別	收穫高
六年	三、四八、七〇〇	五五、二五、二六三
七年	三、五七、〇一〇	六〇、三〇、〇九〇
八年	三、七三、一〇〇	七〇、八九、一七
九年	三、七三、八二一	五、八四〇、一八二
十年	三、二〇四、一七	五七、四六、九七六
平均	三、二二、一八四	五九、一四六、三三七

統計機關の活用

吾々が一概に「文明」と呼ぶ言葉の中には色々の要素を包含してゐる。それは精神的方面から物質的方面からも断定せられ、また判断せられるものである。しかし乍ら文明社會の外部的表面的な條件は、それが「文明」の語に適はしき設備と機構

とを有することが必要である。即ち文明國にはその文明國に必須する政治的經濟的宗教的教育的萬般の機構を完備することを基幹とし、更に一方、社會的國家的情勢に合致せる方策の獨立運用が生じて來る譯である。

×

然も、今日、これ等の施設乃至機構の決定乃至運用上に最も重大なる役割を演じてゐる——言はゞ基礎的概念の形成上の根據をなしてゐるものは數字上の課題、即ち統計である。例へば政治的な諸設備を行はんとする場合、直ちに必要となるものは人口統計であり、經濟上の對策を講ずる際にその基本となるものは經濟統計である。其の他司法行政、稅制改革、學校行政、貿易政策、乃至は宗教的道德的指導體系の改正等々一つとして統計を前提とし基礎として考慮され案出されぬものはない。單に一個の衛生施設を行ふ如き

できさへ、其地域の人口統計——その移動状態は勿論出產統計死亡統計等の精細なる調査に據らなければならぬ。統計のもつ價值と重要性については縷説を要しないが、それならば吾々の生活と最も密切不可分の關係にあるこの統計事業は充分に作製され、且運用されてゐるかどう

×

か、結果は頗る不確實なものであり、統計其のもの眞價を發揮し得ないでゐることを嘆かずには居られない。

×

就中、産業統計の如きはこの缺陷を遺憾なく暴露してゐる。鑛産、水産、工産等の地方的産額の分布乃至產出状態を調査せんとしても、その報告は一ヶ年乃至二ヶ年以前の數字である。極めて最近に屬するものとして誇る貿易統計できさへ一ヶ年位の間隔が置かれてゐることは寧ろ當然とされてゐるのみならずその作製發表された統計なるも

のが往々にして甚だ信憑すべからざる數字である場合が少なくない。特に現行の統計方法が集約統計である關係から小區域の統計、即ち面邑内の統計は比較的信用を置くべきにも拘らず、郡道、府、縣、國家と遡及するに及び益々その杜撰さを増加し、且つ統計的効用をさへ缺いてゐる。次々に發表される統計表なるもの、殆ど一として實用に供し得ざることも亦世間周知の事實と化してゐる。

×

顧みれば統計學が學問として我國に輸入されてより相當の歲月を閲してゐる。われ等はわが國文明の急速なる進展と併行して、一切の施設と機構を決定する上に最重要なる統計機關の、ヨリ完全なる整備と、その機能の發揮されることを切望して渴まない。

第一回表彰 に選ばれて

(1)

職員會を督勵して

全南高興郡錦山面

面長 張 南 搏

茲に光輝ある昭和十二年の新春を迎ふるに當り、謹みて 聖壽の無窮を壽ぎ、國運の隆昌を祈ると、せて朝鮮統計の向上發達を祈つて已まない次第であります。

我が朝鮮が日韓合併以來早くも第一「四半世紀」を経過し、産業・經濟・土木・交通・教育・衛生・治安等各般に亘り駿足の進歩を遂げつゝある時に於いて、統計の重要性に鑑み一昨年十月朝鮮統計協會が結成せられました

ことは、誠に慶賀に堪へない所であります。而して統計協會が昨秋芽出度く其の創立滿一年を迎ふるに當り、これを記念すべく、統計功績者並びに統計優良邑面の第一回表彰を行はれましにことは、統計事務の刷新、統計思想普及に一大拍車を加へるものでありまして、偶々我が錦山面も優良面として之れに選ばれるの光榮に浴し、御鄭重なる表彰状と記念品を戴くことを得、歡喜に耐へないのであります。就いては之が歡を分つものゝ一人として何か感想を書いて送れとの命令でありましたので、以下ペンの走るに委せて、甚だ粗雑ながら、卑見を述べさせて戴きたいと思ひます。そも／＼統計は社會の縮圖として、將又各

般施設計畫の羅針盤として極めて重要なことは架設を要しない所でありまして、實に國力の充實發展に絶大なる役割をなすものであります。故に我々統計に携はる者の任務は重且つ大でありまして、調査に當つて周到なる注意を拂ふべきは勿論、複雑且つ變化常なき社會の事情に對し須臾も研究を怠つてはなりません。若し之を怠らんか、事實に基くべき統計が事實を不明にし誤つた判断を與へ、結局社會を毒するといふ恐ろしい結果となるのであります。

即ち我々は統計の調査製表に當つては協力一致最善を盡さねばならぬことを痛感し、毎月一日には必ず職員會を開き、本職統裁の下に或は統計に關する打合研究發表をなし、或は當月中處理すべき統計事項に對する意見の吐露等を爲し來つたのでありますか、今後に於ても大に職員會は訓督して其の機能を發揚し、今回の榮譽に奢ることなく、統計本來の趣旨に立脚し、事務の處理其の他に萬全を期し、以て朝鮮現下の進運に寄與せんことを誓ふ次第であります。

希望を二つ三つ

慶北鹽州郡内東面書記

孫 世 亨

私は昨年の秋内地優良町村事務修習の爲三
重縣長會郡廳原村役場に委託派遣せられたが
其の日丁度統計事務を見學して日誌に書いて
ゐる際、勤務先の某友より「統計表彰御目出
度」の報に接し一層感慨を深ふし、轉じて自
己を反省し何一つ自慢すべき事績なき私が第
一回の表彰に選ばれたことは洵に慚愧に感じ
ました。只だ過去十二年間統計事務を擔任し
來り、統計と深き縁故を有し、同僚の協調に
依り報告の成績を向上せしめたに過ぎず、誰
でもすることをしたゞけでありまして同僚の
協調に深く感謝し、我が協會の勳業を祈願し
て、獨り無言黙禮しながら旅情を慰めたので
あります。

尙ほこの機會に先進町村の實例を擧げ、平
素の希望を二三付け加へて見ますれば、

統計文書を少くとも五ヶ年分を一纏め編綴

すること。斯くすれば既往五年間を比較對
照し邑面勢等の編纂に便ならむ。統計表綴
に左の目録を附し濟否一覽簿に兼用すれば
既往の實績に刺戟され人間本性の向上心を
喚起し報告期限の勵行を圖り得べし。

月（又は毎月）

表名	報告	昭	和	十	一	年	以下昭和十五 年迄之に同じ
	期限	月	日	日	日	日	
	報告	遲速	日數	遲速	日數	遲速	

現住人口調査を十月一日とすれば國勢調査
に當る年は二重調査の煩を省き事務の簡捷
ともなる。且つ十月前後は人々が皆其の業
に就き年中最も異動少き季節にして、職業
別調査に正確を期し得べきも正月は里歸り
等の變動多き爲常住者の調査は正確を期し
難く、十二月は地稅の取立に遑なく、徵稅と
統計調査は併行し能はざるものにして、事
務能率の分配を圖る上に於ても十月一日現
在に改め單位調査の正確を圖る必要あるを
痛感す。尙出産死亡は月別に調査する爲曆

年の集計に不便なかるべく、婚姻、離婚は
其の月を調査事項に加ふれば是亦曆年の集
計も出來得べし。
以上は所感の一端を述べ御挨拶に代へたも
のでありますが、中に僭越且つ無定見の批評
を蒙るべきものあらば、何卒會友諸彦の御叱
責を伏願する次第であります

我等の責任や重大なり

平北鹽州郡松長面

面長 金 敬 崙

今回我朝鮮統計協會が其の設立一週年記念
事業として、第一回統計功績者並に優良面の
表彰を行はるゝに際し、本面もいち早く其の
選に入るの光榮に浴したことは、我等平素い
さゝかの努力が酬ひられるものとして愉快に
堪へないと共に、當局の熱意ある指導の賜物
と信じ、深く感謝する次第である。

いふ迄もなく我等面職員は所謂行政の第一
線にあつて、凡ゆる行政の基礎工作に従事す
るものであるが、統計調査に在りても其の根

本資料は我等の手に依つて作成せらるゝのであるが故に、朝鮮の統計の正否は一にかゝつて、我等の双肩にあるのである。凡そ統計は各般行政施設の基盤資料たるべき重大任務を有し、國策の成ると成らざるとは一に統計の正否に依存するのである。之を憶へば、我朝鮮の施政宜しきを得ると否とは、一つに我等の責任にあるを覺ゆるのである。誠に我等の責任や重且大なりといふべきである。此處を以て、今後一層研究を重ね、誠心誠意以て今回の名譽に酬ひ、且之を永久に保持せんが爲、統計の完成に向つて邁進せんことを深く誓ふ次第である。

然し乍ら、輒近社會萬般の事象は益々複雑を極め、我等の机上に積まるゝ事務は愈々膨張せんとする傾向があつて、統計事務に付ても少數の人員を以てしては、之が正確にして周到なる資料を迅速に提供し難き憾みあるは残念千萬である。殊に勸業統計の如きは年を通じて多岐多様な調査を要するが故に、常に我等の頭を悩ますこと頗る大である。此處を以て、願はくば面に専任の統計調査員を配

置して統計思想を十分普及徹底し、以て統計事務の刷新改善を計られたいと思ふのである。茲に表彰に際し感謝の意を表し、將來の覺悟を被擧し、併せて些かの希望を申し述べた次第である。

統計座談會を開いて

平南江東郡高泉面書記

李 種 根

今回圖らずも不敏の小生が統計功績者として選奨に預かりたるは、感激に堪へざると共に、一方果してこの名譽に値するか否かに思ひを致し汗流背の次第なり。されど自己の眞價を顧みずして、人に譽められて喜ぶは人間の共通性にして、茲に淺學をも顧みず嬉しきの餘り敢へて自分の貪弱なる抱負を述べんとする次第なり。

凡そ事を知らずして政は議し難し。國家が各般の施政を爲すに當りては、先づ國家の狀態を明かに知悉するを要し、之が狀態を明瞭ならしむるには統計に俟つ外なし。官府統計

の必要且つ重大なる所以は、實に國家政策の方針を之れに依り決定し、立法行政の資料とし、以て國利民福の増進を圖らんとするに在り。しかるに從來動もすれば統計當務者は、或は上司の命令の儘に機械的に動き、或は形式に流れて統計の眞意義を究明することを知らず、農産統計の如き部落の有力者又は區長に付意見を聴取しこれに依り全部落甚だしきは全里の數字を遙觀する事例少なからず。斯の如きは結局見積りに過ぎずして統計と云ふこと能はず。若し國家の政策がこれに信頼して樹立せらるゝとせんか其の害毒計り難し。

されば我等統計當務者はよく統計の重要な點を深く考慮し、今後必ず各戸各人に付き或は各目的物に付き實地踏査を勵行するは勿論、機會ある毎に部落民を集合せしめて統計座談會を開き、懇談的に部落民の意見を聽いて統計調査上の貴重なる參考とし、他面統計智識と統計の國政上重要な所以を周知せしめ以て民衆が進んで國家の統計事業に協力するやう誘導に努むべきなり。斯の如くにして各調査者が、各自の擔當區域に付き正確なる

統計資料を蒐集するに努むれば、是等を集計して得たる全面の統計は完全なりと云ふべく延いては全郡、全道、全鮮に及びて正しき統計が完成さるゝに至るべし。而して爲政當局はこれに基きて事實に即したる政策を樹立し國民は統計に依り他國と國勢を比較して我國の長なる所は一層助長に努め、短なる所は省みて奮發し、自然全國家の繁榮を來すべきは疑ひなし。

統計の整備せると否とが國の盛衰に影響すること誠に大なり。我等統計調査の第一線に立つ面統計事務取扱者は宜しく自己の職務の重且つ大なるを強く意識し、毫末も粗疎に走ることなく、統計の整備向上の爲に益々粉骨碎身せんことを望む。

國家振興に寄與せん

江原道三陟郡下長面書記

朴 春 澤

正確な統計を得ることは政治の基本的條件である。之がなくてはどんな政治家も政策の

方針を立てるについて右をとるべきか左にするべきか迷はざるを得ないのであつて、社會文化の進展に處して誤りなきを得ることは出来ない。

我々面吏員は一方には面の固有事務を、一方には國の委任事務を負担してゐるのであるが、之等は何れも國家施政上に於ける基礎的地位に存するものであるから、苟しくも等閑に附することは出来ない。統計事務に付ても我等が面に於て一つの數字を誤らんか、累を全鮮香國家全體の統計に迄及ぼすことになるのである。

我々は從來机上の淫觀により、或は區長の報告等に依り統計の資料を蒐集して來たのであるが、斯様な方法ではどうしても正確な數字を得ることは出来ないと思ふ。我々は各自のちよつとした暇とか、機會とかを最大限度に利用し細心細意を以て慎重に調査し、少くとも自分自身では「此の統計が正確である」といふ自信を持つようにはすることは極めて必要なことである。こゝに些か意見を述べて見れば、我々は面吏員として多岐多端な事務を受

持つてゐるので、到底統計事務ばかりに専念することは出来ない。そこで一定の手帳「統計手帳」を備へて日常見たり聞いたりすることを記入する様にし、又少くとも年四回位は一定の期日を定めて一齊に實地調査をして疎漏なきを期し、民衆には統計思想を普及徹底せしめて正しい申告をさせるやうにし、尙關係職員はお互に工夫研究をし合ふ様にして、統計事務の刷新向上を計り、以て國家政策の基本資料を提供する義務を全うし我面延いては我が國家の振興の一助ともなりたいと思ふのである。

お断 はり

被選の方々から續々と御感想を頂いております。何れも實地に立脚し體験から割出された貴い文字で、我々の以て他山の石とすべきものですが、誌面の都合に依り残念ながら本月は以上の五編に止め、他は次號以下に分載させて頂くことに致しました。切に寄稿者各位の御寛容を乞ひます。



隨筆 朝鮮の牛雜感

文書課 水城寅雄

朝鮮の牛の起源に關しては、未だ必ずしも詳かではない。しかしながら、餘程以前から朝鮮に牛がゐたことは、種々の文獻に徴してこれを知ることが出来るのである。即ち、後漢書は、朝鮮の事をしるした極めて古い典籍の一であるが、この書の東夷傳に、韓の事を誌して「乘駕牛馬」とか、馬韓之西海島上有州胡國好養牛豚なども、誌され、また高麗朝の學者金富軾が仁宗の二十三年に王命を以て選定した書物に三國史記があり、これは半島の史籍中最古のものであるが、その中にも、新羅時

代、智證麻立干の三年三月の條に「始用牛耕」の記載がある如き、その例である。降つて高麗朝になると、屯田牛の制度が設けられ、李朝には、耕作を官給する途も開かれ、或は醫生四人を置いて養牛治病の法を習はしめられ、或は耕牛の必要を論じ、耕牛不足の場合に於ては、官牛屯牛の配給をなしたり、牛の屠殺制限を行つたりして、牛に對する官の政策は、諸種のことが行はれて牛を重要視して來たが、民間でも或は牛の共同購入もしくは其の増殖を目的として牛契が發達し、或は今日の牛の預託、即ち地主、資本家が自己の所有する牛を小作人に貸付する方法

も行はれ、牛市場の如きも早くから發達し、朝鮮の牛は、古來極めて重要視され、或は偉大なる効用を發揮して來たのである。

近年ホルスタイン種とか、エアシヤ種とかいふ外來種もいくらか輸入されたが、その數は極めて少く、朝鮮の牛は、何といつても在來種が、數に於ても、其の働きに於ても、最も留意すべきものがあり、而してこの朝鮮在來の牛には、他に見ざる幾多の特徴があり、美點長所を有して居り、現在この朝鮮牛は、農業經營上に必要なばかりでなく、農家の貴重なる財産であり、農村に於ける金融財源ともなり、それに朝鮮では一般に牛肉嗜好の習慣が強いといふ點から見ても、半島民の生活に於ける、牛の持つ役割は、實に大なるものがあるのである。

朝鮮に於ける牛が半島民の生活

に密接不離の關係に置かれてゐるために、迷信や傳説にも、牛に關するものが相當に多い。今それ等のうちから數例を摘記して見よう。

○正月牛舎に餅を供へて祈ると年中無病でよく繁殖する。

○畜牛の流行病あるときは、入口に赤色の土を塗ると、之を免れる。

○牛舎壁に常にベニガラを塗つて置くと、其の牛舎からは病牛が出ない。

○梨の樹下に牛を繋ぐと其の牛やはせる。

○穴ある石を厩舎に吊すと牝犢が生れる。

これ等は、牛の飼養者が牛を大事にする思想から生れたものである。次に牛が人間生活にある影響を及ぼすとする迷信傳説を擧げて見よう。

○正月の十五日に牛に五穀を與へ、其のうちの最初に食べた

穀物は其の年豊作である。

○黄牛の夢は吉である。

○婦人の妊娠中に牛の夢を見る
と男が生れる。

○赤牛の胸部に手掌の如き白斑
があるのは上相といつて、畜主
は吉である。

○天然穴を有する石を牛小屋に
吊して置くと盗難を免かれる。

これ等の思想の本原が朝鮮にあるか、或はこれ等のうちのあるものが支那大陸から輸入されたものであるか、否かに就いては、今探索の邊がないが、朝鮮に於ける牛が人間生活に大きな力を持つてゐるためにあらはれ、或は傳播されそれが今日まで傳つて行はれてゐるのだ、とはいふことが出来るだらう。

三

徳川時代の碩學新井白石の名著に東雅があり、これは一種の語原辭書で、國語學史上に特筆すべき

價值のある書物であるといはれてゐるが、この書に日本語の牛(うし)の語原に就いて極めて興味ある記事があり、それによると、「うし」の語原は朝鮮語から来たものではなからうかといふ説を立ててゐる。今原文を見ると、

牛 ウシ、義詳ならず、牛の如きも、太古の時に既に聞えし事、馬の註に見えたり。これも其の初に名づけ呼びし所は、今いふ所の如くにはあらざりしを後の世に至つて、今の名の出来たりけむも知るべからず。牛をうといふ事は韓地の方言とこそ見えなれ、即ち今も朝鮮の方言、牛を呼ぶ事はウといふなり。とある。語原の解釋は、朝鮮語の素養の極めて少い筆者の速断を憚るところであるが、現在、朝鮮語に堪能なる人の中にも「うし」の語原が朝鮮語にありとするものがあり、傾聴に値すべき説である。果して然らば、この説の裏付けをな

す資料は外にも考へられるのである。それは、元來日本の牛は朝鮮から移入されたものであらうと思はれることである。

日本には原始的に牛がゐたものか否かを考へて見るに、日本書紀にはその神代卷、四神出生の章に「唯有其神之頂化爲牛馬」など、いふ記事が見えてゐるが、日本書紀の出来たのは、ずつと後のことであり、従つて後人の思想によつて書かれたところが相當に多いと見なければならぬから、今俄かにこの記事を信ずる譯に行かない。支那の史籍たる魏志の倭人傳は、古代の日本研究に必須の資料とされてゐるが、この書には、日本には「牛馬無し」と傳へて居り、これが大體確實なところであらう。日本書紀によると安閑天皇の二年に牛を攝津、大隈に放すとあるのが最初の記事で、何處から来たものか記してはないが、今村鞆氏も言はれる如く、朝鮮から渡

つたと見るのが穩當である。恐らく日韓關係の極めて密接になつて來た應神天皇以後に朝鮮から渡つて來たものであらう。欽明天皇の御代に百濟から牛を買したことが見え、またその後、高麗時代には、對馬から朝鮮に來た四十人ばかりの者に牛を賜つたことも見える。下つて、豊太閤の征韓役の際、松浦某なる者が朝鮮牛を持ち歸り、長崎地方に飼育蕃殖したといふ事から今以て高麗牛の稱がある、等々のことを考へると、朝鮮から牛が内地に輸入された例は決して少くはないのである。それに、今村氏も説かれる如く、朝鮮からの歸化族の多い、或は朝鮮との關係深い近江、出雲、長門、丹波などが牛の産地になつてゐることも閉却することの出来ない點である。こんな風に、内地の牛がもと朝鮮の牛と深い關係に置かれてゐることの聯想されるのも、亦興味ある一つの論題であらう。



雑筆

速記とは？

速記士 倉元弘 (文書課)

速記とは如何なるものかについて、一言述べて見たいと思ふ。現在、速記術の利用範囲は非常に擴大されてゐる。帝國機會は勿論、道府縣會、市町會、その他官公私開催の會議、新聞通信、雜誌、株主總會、講演、座談會等に利用されてゐることは周知の事實であるが、最近に於ては、學生の初

講義のノート、口述、著述、秘書的事務(重役の手紙口述速記)等に至るまで、社會のあらゆる部門に亘つて、速記術は重寶に利用せられて來つゝあるのである。

倭式速記基本符號 (五十音)

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ユ	ヨ	
ラ	リ	ル	レ	
ワ	ヰ			

速記術は言論演説の即時且つ逐音的の直寫機關として誕生したものである。従て相當程度のスピードを有つ言論演説を直寫する方法手段として、茲に速記符號なるも

のが考案發明された。速記符號は從て、最も簡單にして、正確なるを必須條件とする。仍て左に示す如く、單劃線の、最も簡潔化された組合せに依て構成されてゐるの

である。右は、單に清音符號のみを示したのである。濁音、半濁音、拗音、鼻音等の各符號は、該寫眞より御類推を乞ふ。

速記符號を分類して、基本符號と略符號となしてゐる。基本符號は、清音、濁音、半濁音、拗音、鼻音符號で、總數百三字であるが、略符號は、例へば「あります」とか「ある、ない」の如く、常に講演、會話等に出て來る言葉を、或一つの符號に纏めたものである。從てその數も多く、且つ一定しないが、千字以上はあると推算し得られる。

尙ほ、これは符號とはいひ得ないが、併し、廣義の略符號に包含されるものとして、中間省略法といふものがある。中間省略法とは速記符號の綴字行程に於て行はれる言葉の收縮法で、例へば「あかつき」等の如く、四字乃至は五字も綴く單語は、一々基本符號で綴字するのは煩に堪へず、且つ言葉の速度が頂角に達した場合等は間に合はないから、「あかつき」の最

初の發音「あ」と最後の發音「き」とを續けて「あき」と一筆に書き「あかつき」と讀ませる類である。

以上で符號の説明を極く簡單ながら終へた。言論演説の逐音的即時直寫は、以上の符號、即ち基本符號と略符號と中間省略法の、最も巧妙な混用綴字に依てなされるのであるが、速記の價値は、符號に依て、逐音的に即時に直寫された言論演説が、普通文字に翻譯されて初めて顯現されるものであるから、速記事務遂行上、最後に残された仕事として翻譯がある。

速記者の事務遂行上、最も苦心し、骨を折るものはこの翻譯である。何故なれば、對象が他人の言語であること、漢字に同音異義の多々あること、百般の知識具有を必要とし、その知識の活用を積極的に要求されること等に依るからである。速記者の辛苦は一つ

にこの點に集中されるのである。

一時間の速記の翻譯は、一日位にして出来るかと解せられる向もあるが、そんなに容易に出来るものではない。言葉の速度は、普通文にして一分間約三百字あるのである。一時間を通算すれば、優に一萬八千字ある。この字數を、然も相手はみづのぬたぐつたやうな符號だそれを判斷し、一字一字克明に原稿用紙に書いて行くのだから、凡そどの位時間を要するか、御想像して頂きたい。私共の經驗ではものにも依るが、大體官廳の勤務時間七時間として、少くとも四日乃至は五日は必要とするのである。この點から見ても、一時間十圓乃至十五圓の速記料は、決して高くはないことが首肯出来ると思ふ。速記者養成機關としては、議會内に貴衆兩院それ／＼養成所を有し、又民間に於ても相當ある。そ

こで二ヶ年乃至三ヶ年を、毎日數時間、みづちり練習して養成されるのであるが、これには最大の根氣を必要とするのである。

私は假式を習得したのであるが、式は唯一つではない。貴衆兩院の養成所を初め、假式、熊崎式、武田式、丹羽式、毛利式、中根式、ガントレット式等種々あるが、現在最も普及活用されてゐるものは、日本速記術の發明創始者田鎖綱紀先生の、所謂田鎖系統に屬する貴衆兩院養成所式、假式、熊崎式等である。以上の各式を習得し速記を專業として生活してゐる者は、今日約二千名位であると推算出来る。その需要方面は、筆頭が議會、道府縣會、市町會等の官廳で、新聞、通信、雜誌社等が次位にあり、その他會社銀行等が三位に位するが、最近に於ては、會社銀行の速記者利用は、頗る活氣を呈

して來てゐる。

速記の發生は、西洋に於ては遠くギリシヤ、ローマ時代に遡ることが出来、世界的大哲學者ソクラテス、デモステネス、或はシセロ、セネカ等の言論思想は、速記に依て發表されたものが多い。我が國に於ては、明治十五年岩手縣の人田鎖綱紀先生に依て速記符號が發明された、これが元祖であつて、爾來半世紀、幾多の人士に依て研究改良が加へられて、今日の發達を見たのであるが、茲に特記すべきは帝國議會の開設が、速記發達に大きな役割を演じたことである。即ち我が國に於ては第一回機會から速記術を利用し、議事録を完全に作成したことでこれは他國にその例を見ない。而してこのことが未だ創草時代を脱しなかつた我が速記界を非常に刺激し、速記の職業的成立も、に萌芽し、今日の

發達に、側面的貢獻を與へて來たのである。

朝鮮に於ける日本語速記術は既に併合當時から用ゐられてゐたがその後朝鮮社會文化の高暢に隨伴して利用領域も擴大され、今日では本府その他の官廳にも速記者を置き、又民間には速記事務所も開設されて、會議、講演、講習會、座談會等殆ど速記に依て記録が作成されてゐる。全鮮に約二十名の速記者がある。朝鮮に於ける速記利用の特異性は新聞社に速記者がなく、雜誌社にあることである。新聞社のそれは經濟的關係からと見られるのであるが、雜誌社は、速記者を利用することに依て編輯費を格安にし且つ原稿を迅速に蒐集してゐるのである。最近に於ては、道府會が決議機關になり、その方面の速記需要も逐年多きを加へて來てゐることなどから見ても、

内地速記界の行詰り傾向に比して半島速記界は、「さあ今からだ」といふ、スタートにあるといへよう。

(一二、一、一九)

南鮮紀行

木島 貞夫

(國勢調査課)

小生過日官命に依り南鮮地方に出張せり。南鮮と云ふも慶尙南道管下の六郡である。途中には有名な古蹟の地麗州あり、其の他風光絶佳の勝地頗る多く、加ふるに氣候又溫暖にして此の感興、彼の情緒獨り旅人の胸中に秘するは惜しみても餘りある所なるべし。不幸にして我れ文を解せず、詩を知らず、能くその筆紙に盡し難き事なりと雖も、行間不立の文字、尙心ある人の眼にや寫らん。茲に特に旅中深き印象を刻せし。地を想起

して、拙き筆を把らんとはするるのである。

慶州・佛國寺

大邱を發つて三時間車は新羅の古都麗州に入る。舊都としての面目は之は示すに由なきも、古今二千年の歴史を偲ぶ石器あり、土器あり、古墳あり、寺址あり。麗州の東南四里佛國寺あり。佛國寺は今より凡そ千四百年前の創設にかと云ふ。其の構壯と云ひ、裝飾と云ひ、誠に新羅三百年、佛敎藝術の黄金時代を知る代表的遺品の一なり。雄殿の前面左右に多寶、釋迦の石塔ありて、記念攝影を薦めらる。寺は小高き山麓にあり、廣き麗州の盆地を眺む。それより北面して徒歩にて吐含山に登る。山路急峻なること二十八町、益々高きに從へば麗州の大盆地に一眸の中にあり。晩秋の淡き霞に

包まれて廣野の果も定かならず、あちらこちら沼地點在して又一段と其の景勝を増す。漸く登り着きたる山上に大洞穴を見る。即ち石窟庵なり。中に石佛あり。二丈一尺の大佛慈眼を開きて端座せり。石窟内周圍の腰壁には又十五體の佛像が刻んである。嘗て我れ修學旅行に訪れし南都奈良の情景を想起して、轉々感慨に耐へざるものを覺えたのであつた。此の美はしき麗州の地に、此の華かな藝術を持ちし南鮮民族の幸福の日や果して如何なりし。

蔚山・海雲臺

朝霧やう／＼晴れ行きて、この月も消えやらぬ蔚山城址の秋の朝、訪ふ人とても稀なりき。見渡す限り眞平な盆地の中央にある小高き丘が即ち舊城址であつて今は公園となつてゐる。登つて見て

直ぐ分つた。四面さへぎるものと
て無き此の一帯の平原に明軍十萬
押寄する時清正如何に名將と雖
も、そう容易くは防げるものでは
ない筈だ。成程苦戦した譯である。
不圖我に還つた。空は青空日本晴
だ。小鳥の群も翔り行く。朝鮮の
田舎は實に良い。此の朝の靜けさ
はたまらなく良い。それから海雲
臺に着いたのは夜だつた。

白雲悠悠紺碧の空に去來し、銀
波又輕ろく長汀に躍る。久し振りに
見る明方の日本海の美しくさ。
此の大海を横ぎつて遙か彼方には
我が故郷の地もあるのだ。思へば
似たり故郷の濱邊、異境百里客舎
の獨り居につひセンチな心持にな
る。綺麗なお湯と、靜やかな環境
と、氣持の良い大氣と、そして完
備したホテルとが温泉として海雲
臺の持つ誇りなのだ。

馬山・鎮海

馬山は風光の明媚と氣候の溫和
を以て全鮮に冠たるの地である、
と郵便局の風景スタンプの説明書
に冒頭してあつた。成程鎮海灣の
奥深く、舞鶴山麓に展開し、位置
から云ふも、景色から云ふも、誠
に名勝の名に恥ぢない處だと思つ
た。山を脊に、波靜かなる海上の
彼方鎮海連峰の山影も遠く、徘徊
の旅人又足を止めて、暫し恍惚と
して其の勝に陶醉す。風暖き初春

の候さくら花咲く馬山の街は如何
ならむ。青、赤、黄と濃厚なビー
チ・コートに海を埋むる夏の海水
浴場のことも偲ばれた。加ふるに
水又清き此の街は良酒を産する酒
郷の地だ。禿山ばかりと稱さるゝ
我が半島にも又こよなき勝地を失
はず。古歌に曰く、人生到る處に
青山あり、骨を埋む豈墳墓の地の

みならんや。

馬山より船に駕して鎮海に向
ふ。船は揺々として以て輕く揚り、
風は颯々として以て衣を吹く。灣
内風強く白波飛び交ふ中を無事鎮
海へ。港内は海深く、山高く、天
與の要害を成し、綠樹繁れる丘上
に、おゝ記念塔を仰ぎ見よ。過ぎ
し日露の戦に帝國の艦艦四十餘隻
が迎撃の腕を暫しこゝに休めたの
であつた。

閑麗水道

鳥かと思れば岬なり、岬かと思
れば島なり。馬山より統管までの
三時間、夕闇迫る海上を船は輕
く、滑るが如く夜半統管港に到着
す。丘腹に延びた港町の煌々とし
た燈火を眺め、思はず船上に欣喜
したのであつた。翌朝目覺むれば
之は又日本晴だ。此處は亦何と暖
い處なのであらう。十一月も未だ

と云ふに冬服では歩行汗する程で
ある。漁港であるためか街は甚だ
汚い。統管邑の發展は先づ市街の
整備からか。有名な太閤堀を見物
に行く。對岸の島へつなく海底ト
ンネルである。その昔朝鮮の水將
李舜臣が地理不案内な豊臣勢を此
の袋海に追ひつめて、さんさんな
目にあわしたのでと或る朝鮮の人
が云ひ難くさうに語つた。今は昔
の物語である。ポカ／＼と春の如
き氣持の良さにつひ足は島の一本
道を奥へ／＼。陽はさん／＼と萬
物を照し、道行く人の歩行も又何
となく悠長だ。丘に上つて眼をあ
ぐれば、おゝ何と云ふ美はしい景
色だこと。松原遠く、鏡の如き海
上に鳥か岬か相連らなつて、白帆
の影は浮ぶ、之が閑麗水道なの
だ。朝鮮八景の二位を占めし蓋し
宜なるべし。世人朝鮮の瀬戸内海
と稱す。それより行人歩き大道を

どん／＼進みて山を廻ると、之は意外、桃源境とはこのことか。内地人の住む模範村に達した。岡山村と云ふ。以前岡山縣人が此の地を卜して移住して來たのだと云ふ。村に小さき神社あり。亦日本人の住む處神社なきはなしの感を深うする。

郡の若き統計主任は語つた。此の統營郡管内殊に島地の方には年齒百を超え、天賜の眞綿を賜りし者十三人に達したと。之蓋し風光の明媚と氣候の溫暖と、そして食糧殊に水産物の豊富なことゝが相俟つて、住民をして能く戸外に働く機會を多からしめ、以て百歳の長壽を保つのだと云ふ。成程行人を注意して見ると、皆老來益々鑢鏢とした翁だ、媼だ。此の美はしき景色を眺め、美味な魚貝や果實を飽食し、而も長生出來るとは全く此の世の極樂境だ。もうどこへ

も歸りたくはなくなつた。あ、最近天折した薄命なりし弟も若しも此の地に育ちなば、斯くは嘆きもせざらんものをと萬感胸に迫りて低徊去る能はざらむ。

(一一、一二、三二)

謙讓の徳

砂塔生

自分の力を實力以下に評價してへり下つてゐるのは如何にも奥床しい。人はともすれば自分の力を吹張し易い傾向があつて、自己宣傳を盛んにやる。生存競争の激しい中にあつては、徒らにへり下つてゐては、生存權すら脅やかされる懸念があるといふので以て謙讓の美德は仲々も難しい。殊に商業界に在つては自己の商品の優勝な

る所以を毎日新聞雜誌に大々的に掲げてゐて、自己宣傳に余念がない。中には競争品をけなしつける事に依つて、自己の宣傳價值を高めやうとしたりするものもある。

自己の特長を宣傳するについて、其の優勝なる所以を書き立てるのは先づよろしいとして、熱心の余り競争品の悪口を云ふに至つては全くどうかと思はれる。斯様なことは廣告學上から云つても忌むべきものだそうであるが、さもあるべきことである。

ともかく世の中がせち辛くなるにつれて謙讓なることは益々困難になると共に、それは亦甚だ重要な美德となると思はれる。

×

日本人は世界人類の中にあつて、最も謙讓の徳に富む國民だそうである。それがあらぬか知らぬけれども、宴會其の他色んな會合

でも、この徳を發揮して、暫くの間は座席がきまらずにごた／＼する。何んとかならぬものだらうかといふ嘆聲は屢々耳にする所である。

電車やバスに乗つてもこれを發揮する。そして此の場合の謙讓には二通りの型がある。其の一つはよく中年の婦人に多く見受けられるのであるが、先づ乗込む際に「どうぞ／＼」といつて先を譲り合ひ、やつと乗つたと思ふと此度は「どうぞ／＼」といつて座席は澤山あるのに先に腰掛けるのを譲り合ふ。誠にウルワシイ光景である。これは先づいいとして次に切符の出し合ひをやる。「マアよろしいではございませんか、折角こうして十錢あるのですから、此處は妾に任せて下さい。」でも妾はこの様に回数券を持つてゐるのですから、これで済ませば手輕ですワ」

という調子である。お互に相手の手を押へつける様にして仲々決まらない。車掌氏はさてどちらの切符を切つたものだらうと當惑してゐる。甚だケツコウな圖である。もつとも之は謙讓の美德か、はたゞ自己の財力の豊富なるを誇示せんとする宣傳戰術なるかは明瞭でないが何れにしてもバツとしないと思ふ。

車中に於ける謙讓の美德の第二の型は男女中等學生に多く見受けられるのであるが、座席が空いてゐるのに立つたまま、で仲々腰を下ろさうとしなかつたり、又奥の方が空いてゐるのに昇降口の所に立つたまま、奥の方に進もうとしなかつたりする。若いもののくせに腰を掛けるのは情弱で生意氣だとする自己反省の結果か、或は車の奥の方は上席であると思ふ見解の下に若いものの行くべき處ではな

いとする自己卑下の觀念に立脚する結果かも知れないが、朝夕のラッシュアワーには他人に少なからず迷惑をかける。車掌氏は聲をかって「御順に奥の方に……」といつてゐるが、彼等はなかくに動じない。謙讓の思想誠に堅固なりと稱すべきであるが、あり余る謙讓の徳をもつと他の方面で發揮する様、彼等少年少女に勸説される事を特に修身の先生にお願ひしたいと思ふのである。

文心獸身

安元三郎

今後の人間は文心獸身たるを要する。多々益頭腦に文明の賜を容れて大いに向上的氣分を發揮すると共に、多々益身體は運動を盛ん

にし蕃的に獸の如く壯健たらざれば駄目である。蓋し富國強兵の實質は、文心獸身の民を有する意味で、もし文心獸身になつたとすればとても戰爭には堪へ切れない。

文心獸身即ち神經衰弱の國民なれば國難を救ふに足らずと云ふべきである。又獸心獸身も困つたもの、動もすれば人道を無視する不逞の徒となり勢ひ殘虐の民たるを免れない。

今や全歐洲は混沌の時にして伊エ戰爭を始め、スペインの動亂を契機とし全歐洲は刻々眼まぐるしき事態を露呈しつゝある。世界暗黒時代の危機に直面し、この一觸即發の危機人類の良心を麻痺せしめ世界再大戦を招來すれば、その形態に於いても内容に於いても二十有餘年前の大戦の單なる再現ではあるまい。近く極東に於いては日支日露の對外的事件の輻輳せる

今日、これが國難を打開するは國民の力に埃たねばならぬ。

所詮各國民が頭腦と體力との争ひになれば文心獸身たらざれば何をか爲し得ん。今日内外に亘る未層有の難局に直面せる國民は當然受難せなければならぬ時代の宿命である。

この時代的宿命の底を流れる新國民意識、新社會思想を再認識して進軍すべきものが、新理想時代に於ける青年吾等が大使命でなければならぬ。

これが大使命を擔へる青年よ、大いに頭腦に文明の賜を容れ身體は運動を盛んにし益國力の強化、國防の完備と相俟つて非常時打開の目的を達成し得ねばならぬ。社會はいまや、青年！我等の燃ゆる理想、生々した活力、溢るゝ斷行力を求めて止まない。

歳の暮益裁店に入立てり 永田一畝
畔道の黒く延びたり雪野原 同
雪の朝輝く峯の遙かなり 同

子が犬が走りゆくなり雪の原 倉元月歩
戸を押せばおでんの香にほひけり 同
靴の紐結ぶ手しどろ凍てし朝 同

忙中閑記

統計報告用紙の共同印刷に就いては、別の頁でお詫申上げてある通り、協会の一同甚だ恐縮しております。しかし我々としては最善の努力は致しました。この上は只皆さんの御寛容を乞ふばかりです。以上この件を主として擔當した和田さんに代つて――。

統計用紙の原稿から校正迄殆ど和田さんの手一つにかゝつたが、本府各課に出てる各道の報告書に依つて一々仔細に行間の寸法を計るといふ丹念振りであつた。印刷所移轉のごたくが起きてからは文字通り寢食を忘れ現場督勵に大車輪。年末の休暇もない。和田さん以下数名印刷所に詰め切り、職工と共に朝九時から夜十時迄、職工と共に埃に埋つて働き、どうか一段落つけて人心地になつたのは大晦日の夜、家々では越年の準備も終り

僅かに残された時の刻みを感慨深く聞いてゐる、そんな時刻であつた。

村辻さんは正月早々の五日から臺灣へ出張、最近歸郷したばかり。色々面白い土産話があるが、本號締切に間に合はなかつた。資源の松瀬、原の兩氏は事務打合の爲打連れて目下東上中。

非常時の反映と見るべきか、最近係の中にいが栗頭が目立つて多くなつた。かう見渡すと、水城氏を筆頭に水田氏、それから新鮮な所で片田(姓舊佐藤)氏の頭。なかんづきいが栗の先覺者水城氏が仕事の合間に、キセルの雁首でドロップスの空罐の縁を叩いてゐる圖は、時局柄頼もしき限りである。

それと某社刊行の二年半がかりの百科事典の豫約申込をした心得のよい方々が可成りある。室内裝飾はこれに限るです。(とくだ)

鐵道局 副參事 岡村 俊
書記 齋藤 徳一

人口動態調査改善豫算

人口動態調査改善に關し豫て之に要する經費豫算要求中であつたが、舊臘廣田内閣の豫算閣議で承認せらるゝ所となつた。

原稿募集

次號締切 三月廿日

論説・研究 統計に關する原稿に限る。一篇四千字内外とし、長くともなるべく六千字程度を超えないやうに。

雜筆 感想・隨筆・詩歌句其の他種類を問はず、又必ずしも統計に關することを必要としないが、なるべく一篇一千字内外に纏められたし。

地方・通信資 特に地方委員の方にお願事項等並びに特殊統計調査の結果其の他興味と實益ある統計資料を通信して下さい。

誌上掲載の分には薄謝を呈す。但し極く簡單なものはこの限りにあらず。

道	全羅北道										忠清南道											
道屬	天安郡	牙山郡	唐津郡	瑞山郡	禮山郡	洪城郡	青陽郡	保寧郡	舒川郡	扶餘郡	論山郡	公州郡	蕪岐郡	大德郡	大田府	道屬	丹陽郡	堤川郡	忠州郡			
李昌煥	李亮載	李鍾元	古賀正夫	林漢洙	越智正義	津村潔	毛利正治	李炳璿	李容麟	鮮干圭	李澤佑	申鳳燮	越智功	金學眞	木村彰次	佐々木豊久	田中輝雄	朴箕緒	長田豊			
谷城郡	潭陽郡	光山郡	光州府	木浦府	道屬	益山郡	沃溝郡	金堤郡	扶安郡	高敞郡	井邑郡	淳昌郡	南原郡	任實郡	長水郡	茂朱郡	錦山郡	鎭安郡	完州郡	全州府	群山府	
同	同	郡屬	府屬	府屬	道屬	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	郡屬	府屬	府屬	
金薰	林永淳	權承一	李揆甲	閔丙宗	李心助	朴奎準	李健載	古川眞	林春成	浦川汎	太田猛夫	山縣守次	嚴桂完	宮岡時彌	趙紀休	草野政治	有村龍雄	宮上政一	姜仁遠	西田榮吉	山本庫一	
達城郡	大邱府	道屬	道屬	濟州島	珍島郡	莞島郡	長城郡	靈光郡	咸平郡	羅州郡	務安郡	靈巖郡	海南郡	康津郡	長興郡	和順郡	寶城郡	高興郡	順天郡	麗水郡	光陽郡	求禮郡
郡屬	府屬	府屬	府屬	島屬	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	郡屬
林祥根	藤原萬助	林清澄	林清澄	金建植	朴玉在	雨宮幸男	梁在鎬	金鳳洙	吉浦金之丞	曹玉煥	襄長命	鄭相烈	大畑清	趙隆義	奧村信威	張采律	細谷五郎	近藤新次郎	呂忠鉉	竹下春海	林準植	後藤忠

第七條 本會ハ會長ニ朝鮮總督官房文書課長ヲ推戴ス
會長ハ會務ヲ總理ス
第八條 本會ニ左ノ職員ヲ置キ會長之ヲ囑託ス
一 主 事 一名
二 幹 事 若干名
三 地方委員 道府郡島各一名
主事、幹事及地方委員ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理ス
會長事故アルトキ主事其ノ職務ヲ代理ス
第九條 會長必要アリト認ムルトキハ囑託及書記ヲ置クコトヲ得
第十條 本會ノ役職員ハ名譽職トス
第十一條 本會ノ經費ハ會費、寄附金、財産ヨリ生ズル收入、事業ニ伴フ收入及其ノ他本會ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充ツ
第十二條 會長ハ毎年度一回前年度ノ收支決算ヲ機關雜誌ニ依リ報告スベシ
第十三條 本會ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

會員ニ關スル規程
第一條 本會ニ入會セントスル者ハ左ノ手續ニ依リ其ノ旨申出ヅルモノトシ退會セ

軍威郡	山城郡	安東郡	青松郡	英陽郡	盈德郡	迎日郡	慶州郡	永川郡	慶山郡	清道郡	高靈郡	星州郡	漆谷郡	金泉郡	善山郡	尙州郡	開慶郡	醴泉郡	榮州郡	奉化郡	鬱陵島	慶尙南道	道	釜山府	馬山府		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		
山元 敦之	清藤 双一郎	三谷 五郎部	正岡 景孝	李 承 魯	今井 弘平	張 嚴 權	李 鍾 夏	徐 鎮 雨	寺 井 健三	許 道 治	安 瓊 煥	寺 石 任	(缺 員)	川 北 眞澄	李 義 鐸	朴 錫 圭	申 潤 植	金 昌 漢	金 相 圭	世 良 實	金 濟 仁	慶尙南道	道	小 山 光遐	永 瀨 治次	李 信 東	
普州郡	宜寧郡	咸安郡	昌寧郡	密陽郡	梁山郡	蔚山郡	東萊郡	金海郡	昌原郡	統營郡	固城郡	泗川郡	南海郡	河東郡	山淸郡	咸陽郡	居昌郡	陝川郡	黃海道	道	道	道	延白郡	金川郡	平山郡	新溪郡	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
金 學 成	金 元 柱	韓 聖 壹	峰 藤 好夫	山本 十一郎	崔 貞 海	柳 熙 東	曲 田 政助	垣 田 岩雄	宋 京 永	鄭 道 俊	河 道 律	曹 相 根	柳 在 源	須 田 嚴	有 吉 虎之助	大 本 利一	石 井 潔	津 野 喜壽	東 常市	板 垣 市郎	池 周 甲	安 部 貢	泊 正 德	杉 山 玄	同		
龜津郡	長淵郡	松禾郡	股栗郡	安岳郡	信川郡	戴寧郡	黃州郡	鳳山郡	瑞興郡	遂安郡	谷山郡	平安南道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
任 忠 宰	鄭 德 成	角 井 惣一	張 相 薰	長 野 市三	車 忠 業	宋 秉 根	李 東 寬	梅 田 義人	高 崎 信義	李 哲 宰	洪 鍾 股	徐 承 杓	加 藤 才 治郎	阿 部 清	禹 夏 燮	小 濱 照男	趙 承 銓	金 慶 善	片 野 章	崔 寬 鉉	宋 泰 益	朴 永 贊	深 田 康二	弘 塾 博	同		

一 ノトスル者又ハ勤務先若ハ住所ヲ變更シタル者亦同ジ
 二 道統計事務關係者ハ當該道ノ本會地方委員ニ申出ヅルコト
 三 府郡島及邑面統計事務關係者ハ當該府郡又ハ島ノ本會地方委員ニ申出ヅルコト
 四 前二號ニ該當セザル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ最寄ノ地方委員又ハ直接本會ニ申出ヅルコト
 第五條 正會員ハ前條ノ手續ニ準ジ毎年一回十二月十日迄ニ翌年度分會費ヲ前納スルモノトス
 第六條 正會員ニシテ會費ヲ滯納シタルトキハ機關雜誌ノ送付ヲ停止シ又ハ之ヲ除名スルコトアルベシ
 第七條 正會員ハ年度中途ニ於テ入會スルモ所定ノ會費年額ヲ納付スルモノトス
 第八條 一旦納付シタル正會員ノ會費ハ年度中途ニ於テ退會スルモノヲ返却セズ
機關雜誌規程
 第一條 本會ノ機關雜誌ハ「朝鮮統計時報」ト稱ス
 第二條 「朝鮮統計時報」ハ會員ニ配付ス
 第三條 「朝鮮統計時報」ハ年四回以上刊行

協會雜誌 村辻 元

昨年協会の誕生早々で諸事消
極的の嫌があつたのは已むを得な
かつたし、寧ろさうすることが必
要であつた。しかし當初それすら
危ぶまれてゐた雜誌の刊行を約束
通りやつてのけたのは勿論、功績
者及び優良昌面の表彰や、計畫外
の統計報告用紙の共同印刷をも敢
行し、更に會の基金として若干の
積立金を剩すことが出来た。

統計用紙の全般的統一の如き
は、本府が早くから其の必要を痛
感しながら實行上の種々の問題か
ら未だ着手するに至らなかつたも
ので、協會の事業として始めて斯
くも手輕く遂行せられたのである
と思ふ。斯くして協會の第一年は
大成功裡に終つたと云つてよい。

一年間の經驗で會の經理上の自
信も充分ついた。消極主義はこの
邊りで捨て、よい。今後協會の飛
躍は色んな型に現はれて來るであ
らうが、差當り本誌の増頁もその
一つで、昨年の本文八十頁平均を
本年は九十頁標準でやつて見るこ
ととなつた。御承知の通り紙、鉛
其の他印刷關係諸物價の大暴騰と
云ふ思はぬ故障と、それに近く郵
税値上も見越され、増頁どころで
はなかつたのだが、増頁に伴ふ經
費の増大は紙質の低下と印刷所の
犠牲的奉仕で緩和して貰ひ、とに
かく極く僅かながらこれだけの頁
を捻出して、讀者に奉仕する。

×

今後の編輯方針としては實務方
面の充實に力を注ぎ、報告例の改

×

正や統計例規の解説には惜しまず
紙面を割き、名實共に實務家の座
右の寶鑑たらしめたい。本誌載す
る所の「報告例甲號改正の要點」は
元々この意圖に出たのであるが、
時日の餘猶も充分でなかつた爲、
結局只改正の要點を列舉したに過
ぎないものを以て、湖塗してしま
つた。尙拙稿「報告例の解説」は
小生一月中殆んど出張してゐたの
で、本誌に限り休載したが、次號
よりは再び貴重なる誌面を拜借し
たいと思つてゐる。

資料欄の取扱は從來稍々「深く
狭く」の感があつたが、さりとて
「深く廣く」は僅々百頁足らずの
本誌を以てしては、到底得て望む
べからざる所である。今後は統計
時報の題目の下に「淺くしかし廣
く」を方針として帝國内地外地け
勿論、廣く國際統計をも漁つて、
重要資料は見付かり次第載せて行
くことにしたい。尤も本號では適
當な資料が見付からなかつたので
充分この方針を具現し得なかつた
が、少くとも其の心構へである。

もつと高級な研究と資料の雜誌
を期待してゐられる方、又少くと
も朝鮮の中央から出る雜誌として
は餘りに卑俗ではないかと考へて
ゐられる方が相當あることと思ふ
はれる。しかしこの點に關しては
創刊號で「編輯後記」子が言つて
ゐる通り本會の狙ふ所は統計の民
衆化であり、本誌の目標とするも
のは大衆である。若し卑俗の點が
あるとしたら、それ寧ろ本誌の
意圖する所であることを諒とせら
れたい。

尙今後御氣附の點は忌憚なく言
つて貰つて、編輯上の參考にさせ
て頂きたい。

編輯後記

◇本號は一月中に發行する積りで鋭意編輯を急いだ、色んな故障で印刷が延び延びとなつた。もう二月も中頃、今更「おめでたう」もおかしくつて言へないが、皆さん本年もよろしく願ひいたします。

◇一月に出ず豫定だつたので正月號らしく多少清新の氣を盛るべく心掛けて見たが、今となつては稍時節外れの感がないでもない。にもかゝらず、巻頭を飾る内鮮滿斯界の方々の、「新春隨想」はこの種小雜誌としては正に偉觀たるを失はないと自負してゐる。

◇大内先生の「統計の話」は御多忙中を今年も引續き執筆して下さることゝなつたが、本號では特に御微恙の所を大變無理をお願いした。

◇新春隨想を頂いた松井資源局長官閣下には、別に資源に關

する貴重なる御稿をお願いしてあるが、残念乍ら本號締切に間に合はなかつた。次號より大内先生の「統計の話」と共に本誌を更に權威づけるものとして大いに期待されてよい。

◇印刷所が移轉早々で多少不完備な點は免れず、御覽の通り本號の出來ばへは非常に立派だとは言へない。しかし印刷所も移轉の混雜から漸次復して來た

投稿歡迎

詳細は八十五頁参照

し、且つ移轉以來思ひ切つて各種活字を最も嶄新な母型に依つて全部改鑄中であつたが、これも殆んど完了した。本誌も次號からは新鑄造の活字に依るすつきりした印刷で皆さんの前にお目見へするであらう。尙紙質が稍悪くなつたが、この間の事情は村辻さんの「協會雜記」に依

つて御承知下さい。

◇會の經理も多少餘裕が出來て來たし、今年から本誌の御寄稿に對しては薄謝を呈上することにして貰つた。無論文字通り薄謝でしかないが、少くとも筆紙代なりと償はせて頂きたいと思ふ。就いては、と言つては失禮だが、とにかくそんなことは別として一般會員諸君は沈黙を破つてどしどし寄稿し、本誌を名實共に「皆さんの雜誌」にして下さい。

◇お正月以來變態的な暖かさが續く。寒さらしい寒さにはないうちに暦の上ばかりでなくとうに立春、暖房の窓から朝鮮獨特の明朗な空の色を見てゐると、多だといふ感じは出ない。本府恒例の氷上大會がお流れになりさうで、その方の役員和田さんが憂鬱な顔をするし、氣の早いの連中は冠岳山へのハイキングの計畫で子供のやうに浮き立つてゐる。(二・九)

廣告案内

本誌廣告掲載御希望の向は本會事務所(朝鮮總督官房文書課内)又は本會地方委員(各道府郡島廳内統計主任)へ御照會ありたし。

昭和十二年二月十五日 印刷
昭和十二年二月二十日 發行

定價(送料共)拾五錢

京城府西小門町官舎十三號
編輯兼 村 辻 元
發行人

京城府壽松町二七番地
印刷人 藤 本 外 次

京城府壽松町二七番地
印刷所

朝鮮地方行政學會印刷部

朝鮮總督官房文書課内

發行所 朝鮮統計協會

振替京城二四四八番

京城電氣株式會社

株式會社

朝

鮮

銀

行

株式會社

朝鮮殖産銀行

營業科目

各種時計
 ダイヤモンド
 金、銀、製品
 裝身具
 アンチモニー
 銅、錫、製品
 高級陶漆器
 各種寫真機
 活動寫真機
 及附屬品材料
 眼鏡、双眼鏡
 萬年筆

株式會社
 大澤商會
 京城支店

京城本町一丁目
 代表電話本(2)
 振替京城二三一番

加 除 式

近 刊

豫 告

朝鮮法規全書

内容及體裁

本書は朝鮮に於ける現行の法例法規を洩れなく朝鮮總督府編纂『朝鮮法令輯覽』の編纂區分に則し收録し、近くその臺本を發行し、毎年四回宛追録を發行するを以て追録の加除整理に依り常に新しく生きた法規書として御活用願へ得る半島唯一の權威ある一大法規全書なり。尙執務者の索引に便ならしむる爲全編左の八卷に分冊編輯し居れり。

卷別	第一卷	通則	第二卷	內務	第三卷	財務	第四卷	產業
目次	第五卷	法務	第六卷	警察 衛生 兵事	第七卷	交通 電氣	第八卷	外事 附別索引

發賣の方法

菊判 六號二段組
背皮 金文字入

總クロース製
裝禎美麗堅牢

本會は最近特に諸官署に於て經費の節減を強調し居らるゝ現狀に鑑み、何れの官署に於ても容易に御購入出來得る合理的な新販賣方法に依り、廣く全鮮一般に御提供致します。故發行の曉は是非御購入賜はります。様切に御願ひ申上げます。

本書内容及販賣方法等に就ては何れ近日中内容見本を作製配布致し、ます。

發 行 所

京 城 府 金 町 二 丁 目 六 九 番 地

朝鮮地方行政學會

電 話 本 局 ② 一 〇 〇 七 番 振 替 京 城 二 〇 七 三 番

310.5
至54六
N.5
c.1